

このたびは、スバル車をお買い上げいただき、 ありがとうございます。

- ・本書は、ディアス ワゴンの正しい取り扱いかたや、お手入れの方法などについて説明しているほか、車を操作するうえで必ず守っていただきたいこと、また、万一のときの処置についても記載しています。安全で快適なカーライフをお楽しみいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。
- ・福祉車両（トランスケア スロープタイプ）にお乗りの方は、本書とともに別冊の取扱説明書を参照ください。

必読！ドライバーのみなさまへ

特に重要な事柄です。必ず読んでから操作、あるいは作業に取りかかってください。これらを守らないと思わぬけがや事故につながったり、車を損傷するおそれがあります。

安全についての表示マーク・その他の表示マーク

本文中に記載されているマークの意味は下記の通りです。

 警告	警告事項を守らないと、生命にかかわるけが、あるいは重大なけがにつながるおそれがあります。
 注意	注意事項を守らないと、けがや事故、車の破損につながるおそれがあります。
 アドバイス	お車のために守っていただきたい事項です。
オプション/グレード別装備	オプション、またはグレードなどにより、装備の有無の異なる項目です。

ご愛車のために

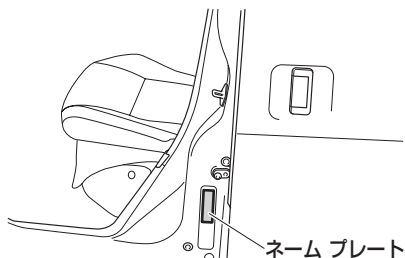
- ・車種によって取り扱い方法が異なる場合は、車両型式やエンジン型式を確認したうえで操作を行ってください。車両型式、エンジン型式は本書の「ご愛車に関するメモ」にあらかじめ記入しておくとう便利です。
- ・保証および点検・整備については、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますのでお読みください。
- ・お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書を車に付けておいてください。
 - ・車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
 - ・本書は別冊の「メンテナンス ノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
 - ・ご不明な点は、ご購入先のスバル販売店（営業スタッフ）におたずねください。

ご愛車に関するメモ

記入される記号・番号は、車検証、ネーム プレートをご覧ください。

ご 愛 車 の メ モ	
車名および型式	車名：
	型式：
車台番号	
エンジン型式	KF- 型エンジン
総排気量	658cc
車体色 (番号)	
トランスミッション	オートマチック トランスミッション

ネーム プレートは助手席側ドアを開けたところに貼り付けしてあります。



MEMO

目 次

絵目次	2
-----	---

必読！ドライバーのみなさまへ	9
----------------	---

走行する前に	10	オートマチック車について	24
エンジンをかけるときは	13	お子さまを乗せるときは	26
走行しているときは	14	お車を長持ちさせるには	30
駐停車するとき	17	こんなときは	33
安全な燃料給油のために	20	知っておいていただきたいこと	36
SRSエアバッグについて	22		

安全装備	37
------	----

シート	38	SRSエアバッグ	65
シート ベルト	48	ABS	72
チャイルド シート	53		

車を運転する前に	75
----------	----

車体各部の開閉	76
車体各部の調整	113

車を運転するにあたって	117
-------------	-----

メーターのはたらき	118	オートマチック車の運転	146
表示灯、警告灯のはたらき	122		
スイッチの使いかた	130		
運転装置の使いかた	139		
エンジンのかけかた	143		

装備品の使いかた	159
----------	-----

空調	160
オーディオ	169
室内装備品	170

いざというときに	179
----------	-----

工具類	180
いざというときの処置	185

車のお手入れ	217
--------	-----

車のお手入れ	218
--------	-----

積雪、寒冷時の取り扱い	235
-------------	-----

積雪、寒冷時の取り扱い	236
-------------	-----

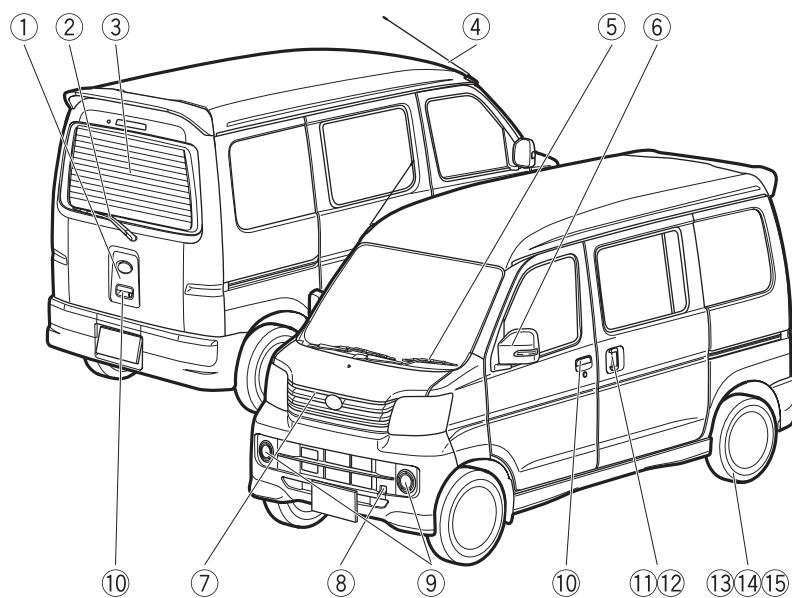
サービス データ	243
----------	-----

さくいん	249
------	-----

絵目次

外観

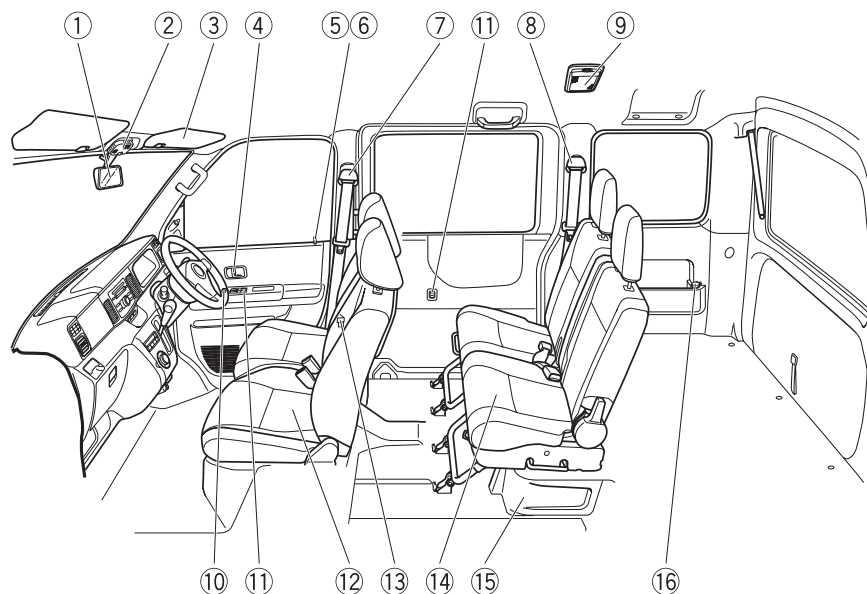
グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。



①リヤ ゲート -----	96
②リヤ ワイパー -----	136
③リヤ ウインドウ デフォッガー -----	137
④アンテナ -----	169
⑤フロント ワイパー -----	135
⑥電動格納式ドア ミラー -----	113
⑦ボンネット -----	101
⑧けん引フック -----	189
⑨フォグ ランプ -----	137
⑩ドアの開閉 -----	83
⑪スライド ドア -----	85
⑫パワー スライド ドア -----	89
⑬タイヤの交換 -----	193
⑭タイヤのローテーション -----	225
⑮タイヤ チェーン -----	238

内装

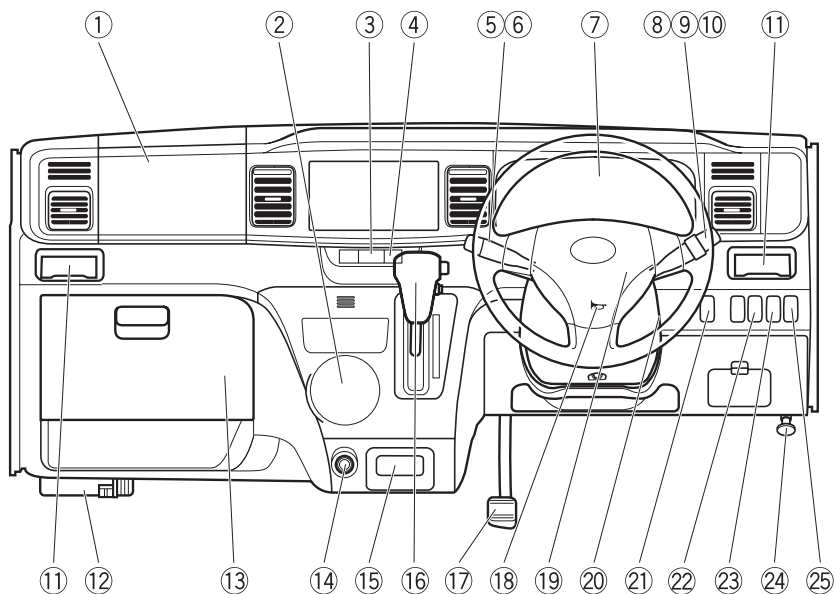
グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。



①ルーム ミラー-----	113
②ルーム ランプ（フロント）-----	170
③サン バイザー-----	173
④ドアの開閉-----	83
⑤車内からの施錠・解錠-----	83
⑥集中ドア ロック-----	95
⑦シート ベルト（フロント）-----	51
⑧シート ベルト（リヤ）-----	51
⑨ルーム ランプ（センター）-----	170
大型カーゴ ルーム ランプ（LED）-----	170
⑩ドア ミラー スイッチ-----	113
⑪パワー ウィンドウ-----	108
⑫フロント シート-----	39
⑬フューエル リッド オープナー レバー-----	107
⑭リヤ シート-----	41
⑮リヤ シート アンダー ボックス-----	175
⑯カーゴ ソケット-----	172

インストルメント パネル

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。



①助手席SRSエアバッグ	65
②オート エアコン	160
③非常点滅表示灯スイッチ	134
④リヤ ウインドウ デフォッガー スイッチ	137
⑤フロント ワイパー・ウォッシャー スイッチ	135
⑥リヤ ワイパー・ウォッシャー スイッチ	136
⑦メーター	118
⑧ライティング スイッチ	131
⑨方向指示レバー	134
⑩フォグ ランプ スイッチ	137
⑪カップホルダー	176
⑫発炎筒	186
⑬グローブボックス	175
⑭シガー ライター	172
⑮灰皿	173
⑯セレクト レバー	147
⑰駐車ブレーキ	140
⑱ホーン スイッチ	138
⑲運転席SRSエアバッグ	65
⑳エンジン スイッチ	139
㉑パワー スライド ドア オフ スイッチ	91
㉒リヤ ヒーター スイッチ	168
㉓パワー スライド ドア開閉スイッチ	92
㉔ボンネット オープナー	101
㉕光軸調整ダイヤル	133

MEMO

安全のためにぜひ守りましょう



必読！

ドライバーのみなさまへ

ご使用の前に、特に守っていただきたいこと、
知っておいていただきたいことをまとめています。



警告に値する項目です



注意に値する項目です

走行する前に -----	10
エンジンをかけるときは -----	13
走行しているときは -----	14
駐停車するとき -----	17
安全な燃料給油のために -----	20
SRSエアバッグについて -----	22
オートマチック車について -----	24
お子さまを乗せるときは -----	26
お車を長持ちさせるには -----	30
こんなときは -----	33
知っておいていただきたいこと --	36

走行する前に

お出かけの前に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

日常点検などをおこなわず行ってください

安全で快適な運転をしていただくために、日常点検・定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。

点検・整備はメンテナンス ノートにしたがって実施してください。

詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

各部を正しく調整してください

シート、ミラー類の位置を正しく調整してください。

(シート→ 38 ページ)

(車体各部の調整→ 113 ページ)

シート ベルトはしっかりと着用してください

走行する前に必ず運転者、同乗者とも全員がシート ベルトを着用してください。シート ベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。必ず正しい着用方法を身に付けてください。

(正しい着用→ 48 ページ)



妊娠中の方もシートベルトを着用してください

妊娠中の方も下記の要領でシートベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シートベルトの着用については、医師にご相談のうえ、注意事項を確認してください。

- 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させて着用してください。腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。
- 肩部ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用してください。肩部ベルトを腹部にかけていると衝突したときなどに、腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。



危険物は持ち込まないでください

車内や荷室内には、ガソリン、灯油、シンナーなどの引火物の入った容器やスプレー缶類を持ち込まないでください。蒸発ガスに引火したり容器が破損すると非常に危険です。



ペダル操作が確実にできる履き物を着用してください

安全な運転をしていただくために、ペダル操作が確実にできる履き物を着用してください。ペダル操作が確実にできないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

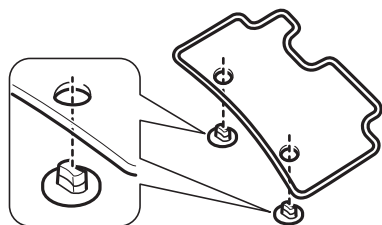
運転席足元に物を置かないでください

走行中に空缶などの動きやすい物を足元に置くと、ブレーキペダルの下に挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなるなどのおそれがあります。



**車に合わないフロア マットは
使用しないでください**

- フロア マットはペダルに引っかからないよう、車に合った物を正しく敷いてください。また、ずれないように固定フックなどで必ず固定してください。



- フロア マットを正しく敷かなかったり、重ねて敷くとペダル操作をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあります。



荷物を積み過ぎないでください

- 助手席やリヤ シートに荷物を積み重ねないでください。視界をさまたげたり、ブレーキをかけたときや旋回しているときに荷物が飛び出して体にあたるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 重い荷物を積み過ぎないでください。車両や走行に悪い影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤ空気圧の点検をしてください

タイヤ空気圧の点検は法的に義務付けられています。

タイヤ空気圧はスペア タイヤも含め、最低でも月に 1 回は点検を行ってください。タイヤ空気圧が極端に低い状態のまま走行すると、偏摩耗や早期摩耗します。また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。タイヤの点検については、別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

エンジンをかけるときは

エンジンをかけるときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

車両後方に可燃物がないことを確認してください

エンジン始動前に、車両後方や排気管の周りに可燃物（枯草・紙・木材など）がないか確認してください。可燃物があると排気管や排気ガスが高温になり、火災になるおそれがあり危険です。



オートマチック車の場合に注意していただきたいこと

駐車ブレーキをかけた状態でセレクトレバーを必ずPレンジにして、ブレーキペダルをしっかりと踏みエンジンを始動してください。

(エンジンのかけかた→ 143 ページ)

排気ガスには気を付けてください

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

換気の悪い場所（車庫など、周囲が閉鎖された場所）でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不十分になり、一酸化炭素中毒事故を起こす危険があります。

排気管はときどき点検してください。排気管の異常（腐食による穴や亀裂など）または排気音の異常などに気付いたときは、スバル販売店で点検を受けてください。そのまま走行すると排気ガスが車内に侵入するおそれがあり危険です。

車内に排気ガスが侵入してきたと感じたらすぐに換気をし、車内に新鮮な空気を入れてください。また、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。



走行しているときは

走行しているときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

走行中はエンジンを止めないでください

走行中にエンジンを止めると、下記ののような現象が起こるおそれがあります。

- ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるため、ブレーキの効きが悪くなり、事故につながるおそれがあり危険です。
- 各警告灯が作用しなくなります。
- ハンドル操作が重くなります。
- 触媒装置を損傷するおそれがあります。

万一、車が止まらなくなったときの非常時は、車両の緊急停止方法にしたがってください。

(車両を緊急停止するには→ 214 ページ)

下り坂ではエンジン ブレーキを併用してください

フット ブレーキに頼ると、ブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなり、危険です。長い下り坂などではシフト ダウンして、エンジン ブレーキを併用しましょう。

その際には、急激なシフト ダウンを避けてください。タイヤをロックさせ、スリップなどの原因となり、事故につながるおそれがあり危険です。

また、ぬれた路面や、積雪路、凍結路などのスリップしやすい路面では、十分速度を落としてシフト ダウンしてください。

エンジン ブレーキ

エンジン ブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキのことです。低速ギヤになるほどよく効きます。

ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください

オイル潤滑不良を起こし、パワー ステアリング ポンプを損傷するおそれがあります。

雨、風の強い日には走行に注意してください

雨や風の強い日は、スピードを控え目にしましょう。特に橋や土手の上、トンネルの出口、山の切通しの部分など、横風の発生しやすい場所では、ハンドルをしっかり持ち、スピードを落として走行してください。

冠水した道路を走行しないでください

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。

万一、水中に浸かってしまったときは、必ずスバル販売店で点検を受けてください。

水たまりを走行したあとはブレーキの効きを確認してください

深い水たまりを走行したあとや洗車をしたあとは、ブレーキパッドがしめり、効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキの効き具合が正常かを確認してください。

効き具合が悪いときは前後の車に十分注意し、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速でしばらく走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。



スタック（立ち往生）などしたときにはタイヤを高速で回転させないでください

タイヤのバースト（破裂）、トランスミッションなどの損傷による思わぬ事故につながるおそれがあります。

（スタック（立ち往生）したとき

→ 185 ページ）



高速道路を走行するときに注意していただきたいこと

- 燃料、冷却水、エンジン オイルの量、タイヤの空気圧、摩耗状態などの点検は特に念入りに行ってください。
- 高速での急ブレーキは特に危険です。十分な車間距離を取って走行してください。
- 法定速度を守って走行してください。



必読！ドライバーのみなさまへ 走行しているときは

正しいシート位置で走行してください

シートを倒した状態で人を乗せたまま走行しないでください。

また、リヤ シートを折りたたんだ状態で荷室に人を乗せての走行もしないでください。急ブレーキをかけたときなど、体が固定されず大変危険です。

人を乗せて走行するときは必ず通常のシート位置で走行してください。

(シート→ 38 ページ)

ブレーキ ペダルに足をのせたまま走行しないでください

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。

ハンドルの中からの操作をしないでください

走行中にはハンドルの中に手を入れて、スイッチなどの操作をしないでください。ハンドル操作のさまたげになり、万一のときに大変危険です。

「急」の付く運転はしないでください

急激なハンドル操作、急発進、急加速、急ブレーキや急激なエンジン ブレーキなど「急」の付く運転はさけてください。

後退するときは子供や障害物に気を付けてください

ルーム ミラー、ドア ミラーなどでは確認しにくい死角があります。安全確認をしながらゆっくり後退してください。

窓から手や顔などを出さないでください

窓から身を乗り出したり、手や顔を絶対に出さないでください。思わぬけがをするおそれがあります。



駐停車するときには

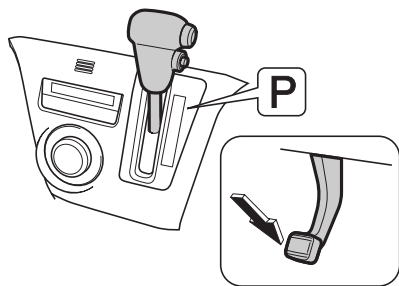
駐停車するときを知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

長時間駐車するときに注意していただきたいこと

エンジンを必ず止めて駐車してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐停車のときは駐車ブレーキをかけてください

駐停車するときは、必ず駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーを回レンジに入れます。坂道で駐車するときは、さらに輪止めを置いて駐車すると安全です。



燃えやすい物のそばに車を止めないでください

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物（枯草・紙・木材など）があると、火災になるおそれがあり危険です。車の後方に可燃物があるときは、車両後端を30cm以上離して止めてください。

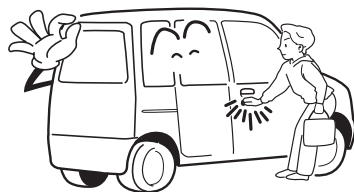
隙間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあり危険です。また、可燃物（枯草・紙・木材など）の上で走行したり、車を止めたりしないでください。

車から離れるときに注意していただきたいこと

車から離れるときは、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、必ずドアを施錠してください。

車が動き出したり、車両盗難、貴重品盗難のおそれがあります。

また、乳幼児のみを車内に残して車を離れないでください。炎天下での車内の温度は、想像以上に高くなり危険です。



仮眠するときは必ずエンジンを止めてください

エンジンがかかった状態のままで仮眠すると、無意識にセレクト レバーを動かしたり、アクセル ペダルを踏み込んだりして、車の不意な発進やエンジン過熱による火災など、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

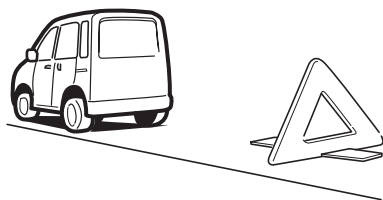
また、排気管が損傷していた場合、風通しの良くない所や、風向きによっては排気ガスの侵入により、一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。



高速道路で停車するときにご注意いただきたいこと

高速道路で、故障などのためやむを得ず停車するときは道路の端によせ、必ず停止表示板（停止表示灯）を置いてください。

万一のために停止表示板（停止表示灯）は車に常備しましょう。高速道路では停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務付けられています。



高温になっている場所には触れないでください

- 荷物の積み降ろし時などに、手や足がマフラーに触れないようにしてください。エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。
- タイヤ交換時などに、ディスク ホイールやブレーキ回りに触れないようにしてください。走行後のディスク ホイールやブレーキ回りは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。

走行後にアイドリングを行ってください

高速および登坂走行の直後にエンジンを止めるときは、停車後、1 分程度アイドリングの状態でエンジンを冷やしてからエンジンを止めてください。

車が雪でおおわれたときに注意していただきたいこと

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあり危険です。

安全な燃料給油のために

セルフ ガソリン スタンドなどで、お客様自身で燃料給油する場合に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいこと、特に注意していただきたいことをまとめています。

よくお読みになり、安全に給油を行ってください。

必ず指定燃料をご使用ください

必ず、無鉛レギュラー ガソリンを使用してください。

給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。

指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料*、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。



燃料給油時には、必ず下記のことをお守りください

燃料は引火しやすいため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。必ず下記のことをお守りください。

- エンジンとは必ず止めてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコを吸うなど、火気を近付けないでください。



- フューエル キャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気除去を行ってください。

身体に静電気を帯びていると、放電による火花で引火するなどして、やけどのおそれがあり危険です。

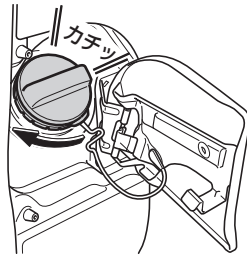
* アルコールが主成分の高濃度アルコール含有燃料。日本工業規格（JIS）や「揮発油の品質の確保に関する法律」が定めたガソリン規格に適合しているETBEやE3などのバイオ ガソリンは使用できます。

- 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
- フューエル キャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方一人で行ってください。
- フューエル キャップを開ける際は、必ずキャップのつまみ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。



- フューエル キャップを少しゆるめたときに「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。
- 給油中に燃料がこぼれた場合はただちに給油を止め、こぼれた燃料を布などでふき取ってください。
- こぼれた燃料が車の塗装面に付着した場合は水洗いをおすすめします。付着したまま放置すると、塗装面が劣化するおそれがあります。
- 給油口にほかの人を近付けないでください。

- 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。また、オートストップ作動後の継ぎ足し給油は行わないでください。給油口から燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油機によっては、早期にオートストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリンスタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
- 給油終了後、フューエル キャップを閉める場合「カチッ」という音が一度するまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。



- 指定品のフューエル キャップ以外は使用しないでください。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

燃料の気化ガスを吸わないようにしてください

燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、ご注意ください。

SRSエアバッグについて

SRSエアバッグのページも併せてお読みください。

シート ベルトを着用してください

SRS*エアバッグの効果を発揮させるため、必ずシート ベルトを着用してください。SRSエアバッグはシート ベルトを補助するための装置で、シート ベルトの代わりではありません。

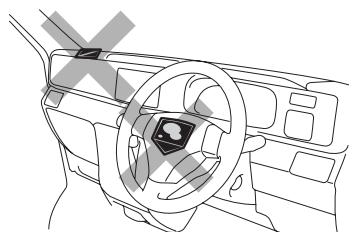
いざというとき効果を発揮しないばかりでなく、重大な事故につながるおそれがあります。

修理、分解、取り外しをしないでください

修理、分解、取り外しなどをお客様自身で行わないでください。修理の際は、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

パッド部、インストルメントパネルにステッカーなどを貼らないでください

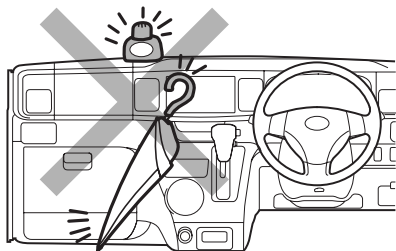
パッド部、インストルメント パネルにステッカーを貼ったりカバーをおおうと、いざというときSRSエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。



* Supplemental Restraint System（サブプリメンタル レストレイント システム）の略で、乗員保護補助装置の意味です。

インストルメント パネルに物を置かないでください

インストルメント パネルの上に芳香剤など物を置いたり傘を立てかけたりしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で飛ばされたり、SRSエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。



走行中は正しいシート位置に座ってください

シートの前端に座ったり、ハンドルに近付きすぎたりしないでください。お子さまをインストルメント パネルの前に立たせたりしないでください。

また、インストルメント パネルにもたれかからないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。

チャイルド シートは正しく取り付けてください

- お子さまはリヤ シートに乗せてください。
- チャイルド シートはリヤ シートに取り付けてください。
- 6 歳未満のお子さまはチャイルド シートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずスバル純正チャイルドシートを使用してください。
スバル純正チャイルド シートの使用方法はチャイルド シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- 助手席にチャイルド シートを絶対に取り付けしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。

(SRSエアバッグ→ 65 ページ)

オートマチック車について

オートマチック車の運転のページも併せてお読みください。

オートマチック車の特性や操作上で注意していただきたいこと

オートマチック車には、いくつかの特性があります。思わぬ事故につながるおそれがありますので、正しく理解し、操作する習慣を身に付けてください。

クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがP、Nレンジ以外では、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと車が動き出します。

停車中は平坦路であっても車が動かないようにブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

キックダウン

走行中にアクセルペダルを踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上がり、強く加速します。滑りやすい路面やカーブ走行中では、急激なアクセルペダルの操作はさけてください。

エンジンをかける前にペダルの位置を確認してください

ペダルの踏み間違えがないように、右足でアクセルペダルおよびブレーキペダルの位置を確認し、必ずセレクトレバーがPレンジの位置になっていることを確認してください。

ブレーキペダルは右足で操作してください

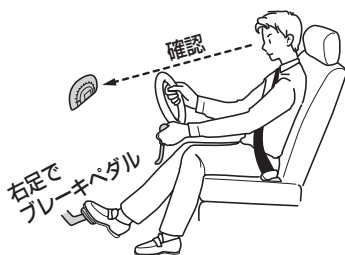
ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作する習慣を身に付けてください。



スタートするときはブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください

セレクト レバーがどの位置にあるかをセレクト レバーまたはメーター内のインジケーターを必ず目で見て確認し、必ず右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだままセレクト レバーを操作してください。また、アクセルペダルを踏んでのセレクトレバー操作はしないでください。

(運転のしかた→ 151 ページ)



走行中はセレクトレバーをNレンジの位置に入れないでください

走行中はセレクトレバーをNレンジに入れると、エンジンブレーキが全く効かず思わぬ事故の原因となります。

また、下り坂などでは必ずシフトダウンをして、エンジンブレーキを使ってください。ブレーキペダルを踏み続けることはやめてください。



坂道などで注意していただきたいこと

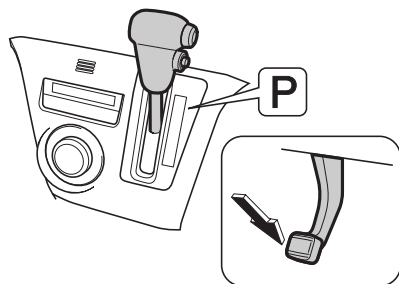
坂道などでは、セレクトレバーをRレンジ、2レンジまたはDレンジに入れたまま惰性で後退したり、Dレンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。

エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

駐停車するときは

駐停車するときは、必ずセレクトレバーをPレンジの位置にし、しっかりと駐車ブレーキをかけてください。

また、車が完全に停止するまでセレクトレバーをPレンジには入れないでください。

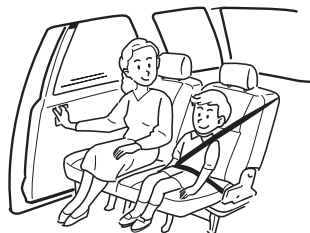


お子さまを乗せるときは

ドアの開閉は、大人が注意しながら操作してください

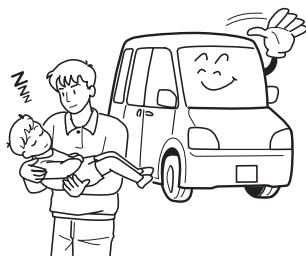
ドアを閉めるときなど、特にお子さまの手や足を挟まないよう注意しましょう。開閉、施錠、解錠は大人が行い、安全のためにもチャイルド プルーフを使用してください。

(車体各部の開閉→ 76 ページ)



車を離れるときはお子さまも一緒に離れてください

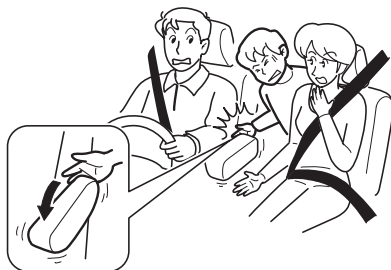
お子さまのいたずらによる車の発進、火災など思わぬ事故が起こるおそれがあり危険です。また、炎天下での車内の温度は想像以上に高くなり、危険です。必ずお子さまと一緒に車を離れてください。



シート、アーム レストの操作は大人が注意しながら行ってください

操作を行うときは動いている部分にお子さまの手や足を挟まないように注意してください。

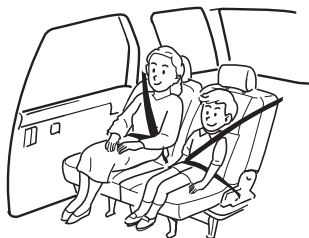
隙間に指などが挟まると、けがをするおそれがあります。



お子さまは大人と一緒にリヤシートにお座りください

助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあります。

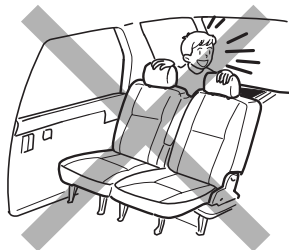
また、万一のとき、お子さまがインストルメント パネルに頭をぶつかけたり、放り出されるおそれがあります。



お子さまを荷室に乗せたり、遊ばせないでください

荷室は、シートの状態にかかわらず人が乗る構造になっていないため、絶対にお子さまを乗せないでください。急ブレーキ時などに、思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、停車中であってもお子さまを荷室で遊ばせないでください。



お子さまにもシート ベルトを着用させてください

- お子さまにも必ずシート ベルトを着用させてください。急ブレーキ時など体が固定されず大変危険です。

また、お子さまをひざに抱いて走行しないでください。ひざの上でお子さまを抱いていても、衝突したときなど十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 6 歳未満のお子さまはチャイルド シートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずスバル純正チャイルドシートを使用してください。

通常のシート ベルトでは衝突のとき首などに強い圧迫を受け、けがをするおそれがあり危険です。

- チャイルド シートは、お子さまの年齢や体格に合わせて選んでください。

(チャイルド シート→ 53 ページ)

必読！ドライバーのみなさまへ お子さまを乗せるときは

- チャイルド シートを取り付けたときは、確実に取り付けられていることを確認してください。取り付け要領は、それぞれのチャイルド シートに付属の取扱説明書をよく読んでください。
- お子さまを乗せていないときでもチャイルド シートは、しっかりとシートに取り付けるか、荷室へ収納してください。
シートから取り外した状態で室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員や物などに当たるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- リヤ シートの左右席には、ISO* FIX対応ISO FIX固定バー＆テザー アンカー対応のチャイルド シートを取り付けることができます。

(チャイルド シートの固定のしかた

→ 60 ページ)

シート ベルトでお子さまを遊ばせないでください

お子さまをシート ベルトで遊ばせないでください。万一シート ベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

誤ってそのような状態になってしまい、シート ベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシート ベルトを切断してください。



* ISOはInternational Organization for Standardization（国際標準化機構）の略

チャイルド シートは正しく取り付けてください

- お子さまはリヤ シートに乗せてください。
- チャイルド シートはリヤ シートに取り付けてください。
- 6 歳未満のお子さまはチャイルド シートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずスバル純正チャイルドシートを使用してください。
スバル純正チャイルド シートの使用方法はチャイルド シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- 助手席にチャイルド シートを絶対に取り付けしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。

(SRSエアバッグ→ 65 ページ)

パワー ウインドウはお子さまに操作させないでください

パワー ウインドウは大変強い力で開閉しますので、開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ロック スイッチを“OFF”にすると、運転席ウインドウ ガラス以外は開閉できなくなります。お子さまを乗せているときは、ロック スイッチを“OFF”にしてください。

(ロック スイッチ→ 110 ページ)



お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう

走行中に限らず、お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう。思わぬけがをするおそれがあります。



お車を長持ちさせるには

点検整備を行いましょう

車は日頃の管理が大切です。安全、快適にご使用いただくため、必ず実施してください。

- 日常点検
- 新車時点検
- 定期点検
- 定期交換部品の交換整備

これらの点検整備は法令で定められているものと、スバルが推奨するものに基づいています。

詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

エンジン冷却水温が低い間は、エンジンに負担のかかる運転をさけてください

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をさけた運転でエンジンを暖機させてください。暖機不足の状態では、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をすると、エンジンに悪い影響をあたえたり、触媒装置の損傷の原因になるおそれがあります。
- 暖機は水温表示灯が消灯すれば十分です。

海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは

海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路などを走行したあとは、早めに洗車をしてください。特に車体の下回り、足回りは念入りに洗車してください。洗車をせずに放置すると腐食の原因となります。

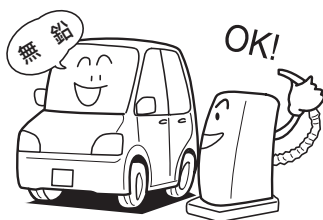
腐食が進行すると、ブレーキや燃料、オイル、エアコンなどの配管類からの液漏れ、ガス漏れにつながるおそれがありますので、早めの洗車とともに定期的な点検整備を実施してください。

無鉛ガソリンのみ使用してください

必ず、無鉛レギュラー ガソリンを使用してください。

給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。

指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料*、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。



* アルコールが主成分の高濃度アルコール含有燃料。日本工業規格（JIS）や「揮発油の品質の確保に関する法律」が定めたガソリン規格に適合しているETBEやE3などのバイオ ガソリンは使用できます。

車の改造や自己流の調整はしないでください

- 車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。正常な性能を発揮できなかったり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違法改造になることがあります。
- ガラス面に、着色フィルムやステッカーなどを貼り付けしないでください。運転のさまたげになり危険です。特にフロント ガラスおよびフロント ドア左右のガラスへの貼り付けは法令で禁止されています。
- タイヤを交換するときは、指定以外の物を装着しないでください。また、ホイール、ホイール取り付けナットを交換するときは、この車専用以外の物を装着しないでください。性能や機能に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。交換するときは、スバル販売店にご相談ください。
- 無線機やスバル指定部品以外の電装品などの取り付け、取り扱い方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スバル販売店にご相談ください。
- バッテリー端子にスバル指定部品以外の電装品やアース線を直接つなげないでください。バッテリーあがりや火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

必読！ドライバーのみなさまへ お車を長持ちさせるには

- お客様自身でのハンドルの取り外しはしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと誤作動につながり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

指定部品を使いましょう

部品を交換する場合は「スバル指定部品」のご使用をおすすめします。



こんなときは

警告灯が点灯、点滅したとき

警告灯類が異常を知らせたとき、そのまま走行すると危険な場合があります。安全な場所に停車し、正しい処置を行ってください。

(警告灯→ 124 ページ)

オーバー ヒートしたとき

水温警告灯が点滅・点灯したときは、オーバー ヒートが考えられます。そのときエンジン ルームまたはボンネットから蒸気が出ている場合は、絶対にエンジン ルームまたはボンネットを開けないでください。

また、あわてて冷却水注入口を外さないでください。熱湯が吹き出し、やけどをするおそれがあります。

(オーバー ヒートの処置→ 199 ページ)

エンストしたとき

エンストしたときは落ち着いて操作してください。

ブレーキの倍力装置やパワー ステアリング装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れてハンドルやブレーキを操作してください。

パンクしたとき

走行中にパンクやバースト（破裂）をしたときは、ハンドルをしっかりとって徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

(タイヤの交換→ 193 ページ)

床下に強い衝撃を感じたとき

車体の床下に強い衝撃を感じたときは、すぐに安全な場所に車を停車し、下回りを点検してください。

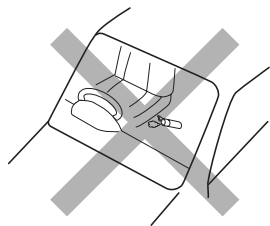
ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などが見つかった場合はそのまま運転すると思わぬ事故につながるおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。

いつもと違うとき

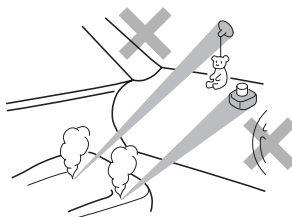
地面に油や液の漏れたあとが残っているときや、異臭、異音、振動などに気付いたときは、車に異常のおそれがあります。このようなときは、スバル販売店で点検を受けてください。

車両の火災につながるおそれがあるため、下記の点に注意をしてください

- 灰皿を使用したあとは、マッチ、タバコの火を確実に消し、必ず閉めてください。火災になるおそれがあり危険です。
- 車内（特にインストルメント パネルの上など）に、ライターなどの発火物や炭酸飲料を置かないでください。車内が高温になり火災や爆発につながるおそれがあり危険です。
- ライターを車内（グローブ ボックス内など）に放置したままにしないでください。荷物を押し込んだときや、シートを動かしたときに、ライターの操作部が誤作動し、火災になるおそれがあり危険です。



- ウィンドウ ガラスには吸盤を付けないでください。また、インストルメント パネルの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。



- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウ ガラスを開けたまま放置しないでください。ドアやウィンドウ ガラスを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。
 - エンジン始動前にエンジン ルームに可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジン ルームに小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。
- また、走行中にエンジン ルームからこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。

こんな点にも注意をしてください

- 炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを車内に放置したり、小物入れなどに入れたままにしないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレーム、耐熱性の低い物は、変形・ひび割れを起こすことがあります。
- 車内に飲み物をこぼしたり、雨水などがかからないよう注意してください。インストルメント パネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。万一、飲み物、雨水などがかった場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかにスバル販売店にご相談ください。
- インストルメント パネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行時に動いて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者はハンズ フリー以外の自動車電話や携帯電話などを走行中に使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者は走行中、テレビを見たり、カー ナビゲーションを操作しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

- リヤ シートの調整および収納状態から元に戻したときは必ずロックしたことを確認してください。ロックがかかっていない状態での走行は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同トレッド パターン（溝模様）の物を装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。

車止めなどに注意をしてください

下記のような場合には、スポイラー、大型バンパーなどを損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 路肩など段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ（穴）のある場所の通過

知っておいていただきたいこと

車両データの記録について

このお車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

参考

- グレードやオプション装備により記録されるデータ項目は異なります。
- コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

データの取り扱いについて

スバルおよびスバルが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。なお、次の場合を除き、スバルおよびスバルが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合



安全装備

車を運転するうえで乗員の安全を保護するための
装備について説明しています。

■ シート

正しい運転姿勢	38
フロント シート	39
リヤ シート	41
ソフト フラット シート	47

■ ABS

ABS (EBD機能付)	72
--------------	----

■ シート ベルト

正しい着用	48
3点式ELRシート ベルト	51
プリテンショナー&可変ロード リミッター機構付 シート ベルト	52

■ チャイルド シート

チャイルド シート	53
チャイルド シートの選びかた	55
チャイルド シートの固定のしかた	60

■ SRSエアバッグ

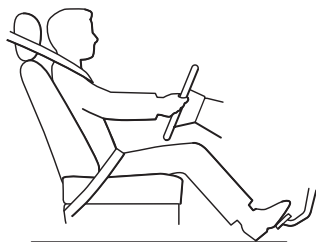
SRSエアバッグ	65
SRSエアバッグ警告灯	71
SRSエアバッグ コンピューター	71

シート

正しい運転姿勢

安全な運転操作を行うため、正しい運転姿勢が取れるように、下記のことにご注意してシートを調整してください。

- ペダル類が十分に踏み込めること
- 背当てから背中を離すことなく、ハンドル操作ができること
- シート ベルトが正しく着用できること
- ヘッドレスト中央の高さが耳の後方になること



⚠警告

- 走行中は運転席シートの調整を絶対にしないでください。シートが突然動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを必要以上に倒して走行しないでください。シート ベルトの性能が発揮されません。正しい運転姿勢を取りましょう。
- 背当てと背中の上にクッションなどを入れないでください。正しい姿勢が取れないばかりか、衝突したときシートベルトなどの拘束保護装置の効果が十分に発揮されず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

(シート ベルト→ 48 ページ)

⚠注意

- シートを調整するときは同乗者や荷物に当たらないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートの調整は、指や手を挟まないように十分に注意して行ってください。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟みけがをするおそれがあります。



フロント シート

シート スライド調整

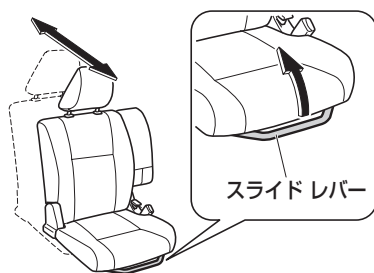
▼調整を行う前に

⚠警告

- スライド調整は必ず運転前に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、シートが確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

シート下のスライド レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。



リクライニング調整

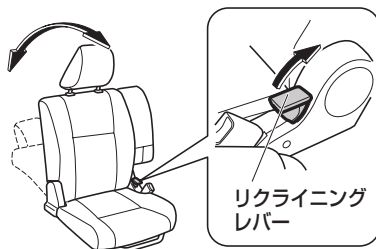
▼調整を行う前に

⚠警告

- リクライニング調整は必ず運転前に行い、調整後は背当てを軽くゆすり、背当てが確実に固定されたことを確認してください。背当てが固定されていないと走行中に背当てが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

リクライニング レバーを引き上げながら背当ての角度を調整します。



⚠注意

- リクライニング レバーを引き上げるときは背当てにあまり力をかけないでください。背当てに強い力がかかっていると急に背当てが倒れ、けがをするおそれがあります。

▼背当てを元に戻すときは

⚠注意

- 背当てが急に戻るおそれがありますので、必ず背当てを手で押さえながら操作してください。





ヘッド レストの調整

▼調整を行う前に

⚠警告

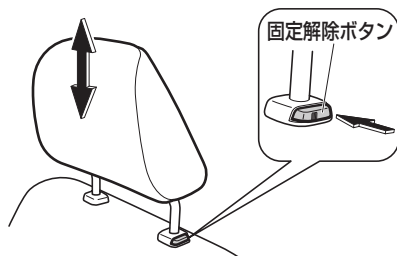
- ヘッド レストを外した状態で走行しないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。走行前に必ず取り付け、ヘッド レスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
- ヘッド レストを前後逆に取り付けしないでください。いざというとき、効果を発揮しません。

▼調整方法

そのまま持ち上げて調整します。

下げるときは固定解除ボタンを押しながら「カチッ」という音がする位置で固定してください。

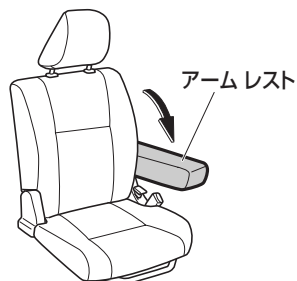
取り外すときは固定解除ボタンを押しながら引き抜きます。



アーム レスト

▼使用方法

前に倒して使用します。



⚠注意

- アーム レストを操作するときは、シートとアーム レストの隙間に手などを入れないでください。指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。特に、お子さまが指などを挟まないように十分注意してください。
- アーム レストの上に乗ったり、重いものを載せないでください。アーム レストが破損したりけがをするおそれがあります。



アドバイス

- シートのリクライニング調整やスライド調整を行うと、アーム レストも同時に動きます。



リヤ シート

オプション/グレード別装備

⚠注意

- 荷室には人を乗せないでください。人が乗る構造になっていないため、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷物はフロント シートの背当てより高く積まないでください。後方視界のさまたげになるだけでなく、急ブレーキ時などに前方に荷物が投げ出されるおそれがあります。

シート スライド調整

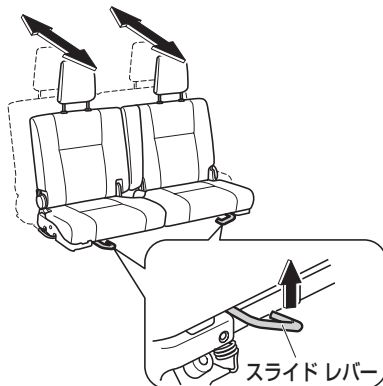
▼調整を行う前に

⚠注意

- スライド調整は必ず停車中に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、シートが確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないと走行中にシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

シート下のスライド レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。



📖 アドバイス

- 左右独立してスライド調整することができます。





リクライニング調整

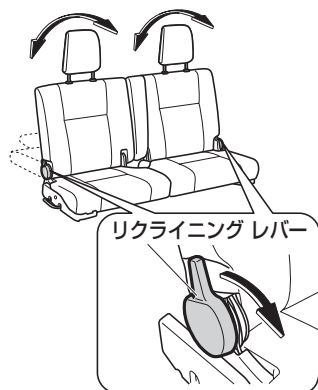
▼調整を行う前に

⚠注意

- リクライニング調整は必ず停車中に行い、調整後は背当てを軽くゆすり、背当てが確実に固定されたことを確認してください。背当てが固定されていないと走行中に背当てが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

リクライニング レバーを引きながら背当ての角度を調整します。



⚠注意

- リクライニング調整するときは、背当てにあまり力をかけないでください。背当てに強い力がかかっていると急に背当てが倒れ、けがをするおそれがあります。



アドバイス

- 左右独立してリクライニング調整することができます。

▼背当てを元に戻すときは

⚠注意

- 背当てが急に戻るおそれがありますので、必ず背当てを手で押さえながら操作してください。



ヘッド レストの取り外し

▼ 操作を行う前に

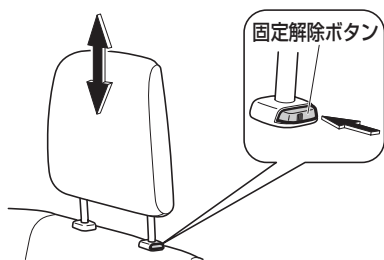
⚠ 警告

- リヤ シートに人を乗せるときは、ヘッド レストを外したまま、または下げた状態のまま走行しないでください。衝突時などに、首に大きな衝撃が加わり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッド レストは必ず上げた状態で使用してください。
- ヘッド レストを前後逆に取り付けないでください。いざというとき、効果を発揮しません。

▼ 操作方法

取り外すときは、固定解除ボタンを押しながら引き抜きます。

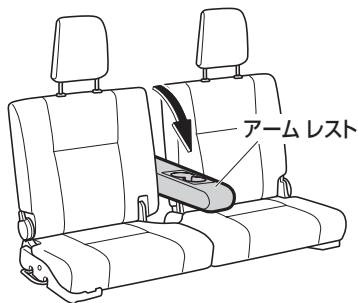
取り付けるときは、「カチッ」という音がする位置で固定してください。



アーム レスト

▼ 使用方法

前に倒して使用します。



⚠ 注意

- アーム レストを操作するときは、シートとアーム レストの隙間に手などを入れないでください。指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。特に、お子さまが指などを挟まないように十分注意してください。
- アーム レストの上に乗ったり、重いものを載せないでください。アーム レストが破損したりけがをするおそれがあります。



アドバイス

- シートのリクライニング調整やスライド調整を行うと、アーム レストも同時に動きます。



リヤ シートを格納するとき

▼ 操作を行う前に

⚠ 警告

- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- リヤ シートを格納および元に戻すときは、格納位置に人がいないことや、壊れやすい物がないことを確認してください。
- 操作するときは、手などを挟まないように注意してください。
- リヤ シートを格納した状態で、荷室に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。
- 格納および元に戻す場合は、必ず格納レバーを持って操作してください。

👉 アドバイス

- リヤ シートは左右独立して格納することができます。

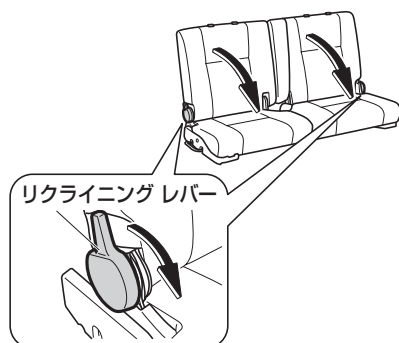
▼ 操作方法

1. リヤ シートのヘッド レストを外します。
2. リヤ シートを後方いっぱいまでスライドさせます。

👉 アドバイス

- リヤ シートはシートを後方いっぱいまでスライドさせないと、格納レバーでロックを解除できない構造になっています。

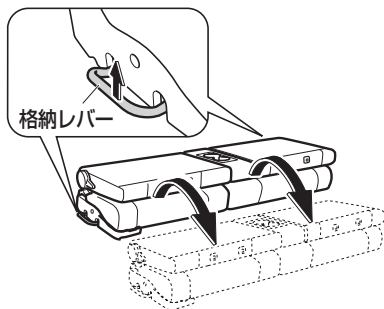
3. リクライニング レバーを引き、リヤ シートの背当てを前に倒します。



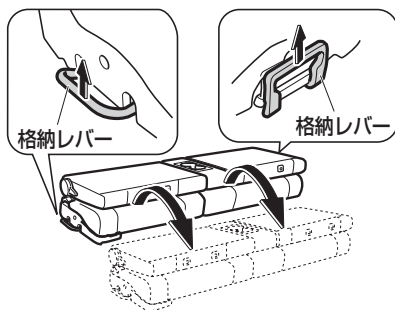


4. 格納レバーを引き上げて、ロックを解除し、さらにレバーを引き上げながら、リヤシートを持ち上げ、車両前方に格納させます。

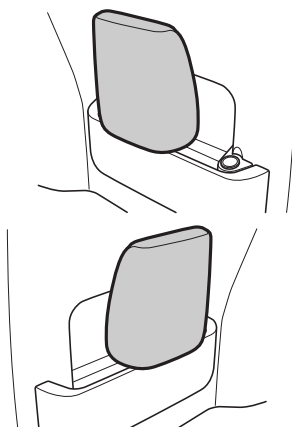
パワー スライド ドア装着車以外



パワー スライド ドア装着車



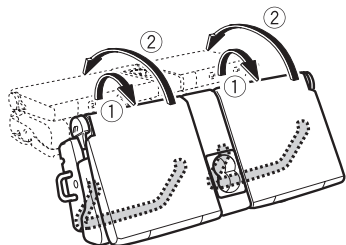
5. ヘッドレストをリヤ クォーター ポケットに収納します。





▼元に戻すときは

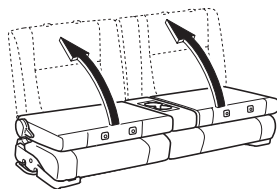
1. シートを①いったん上に引き上げたあと、②後方に回転移動させ真上からロックします。



⚠注意

- シートを元に戻すときは、確実にシートをロックさせてください。シートが固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬけがをするおそれがあります。

2. 背当てを「カチッ」と音がするまで起こします。



⚠注意

- リヤ シートの背当てを起こしたあとは、背当てが確実に固定されていることを確認してください。背当てが固定されていないと、走行中に背当てが動き思わぬけがをするおそれがあります。

3. ヘッド レストを取り付けます。



ソフト フラット シート

フル フラットにするとき

オプション/グレード別装備

▼ 操作を行う前に

⚠ 警告

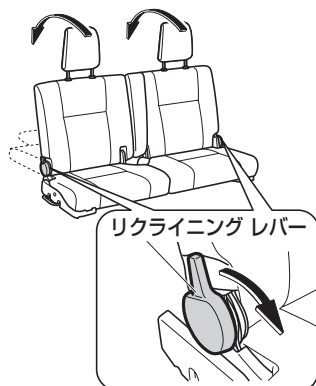
- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

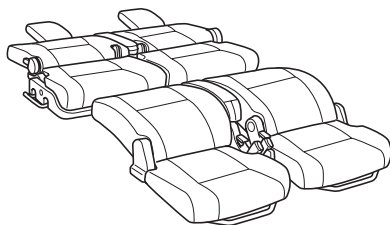
- フル フラットにした状態で人を乗せたまま走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。
- フル フラットにした状態で、シートの上を動き回ったりしないでください。
- シートの上を移動するときは、足を踏み外すおそれがあり危険です。シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。
- フル フラット状態は安全な場所に車を止めて休息するときに使用してください。

▼ 操作方法

1. リヤ シートのリクライニング レバーを引き、背当てを床と水平になるまで倒します。



2. フロント シートのヘッド レストを外します。
3. フロント シートを前方へスライドさせます。
4. フロント シートの背当てをリヤ シートと同じ高さになるまで倒します。



▼ 元に戻すときは

逆の手順で操作してください。



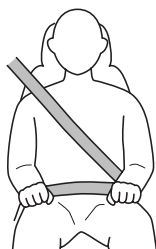


シート ベルト

正しい着用

運転者は車を運転する前に、下記のこと
に注意してシート ベルトを着用し、必ず
同乗者にも着用させてください。シート
ベルトは正しく着用しないと効果が半減
したり、危険な場合があります。

シート ベルトの使用方法を十分に理解し、
正しい取り扱い方を身に付けてくださ
い。



- シートを調整し、上体を起こし深く腰
かけて座ること
- シート ベルトにねじれないこと
- シート ベルトが肩に十分かかってい
ること、また必ず腰骨のできるだけ低
い位置に密着させること

⚠警告

- シート ベルトの着用は腹部をさけ、
必ず腰骨の位置にしてください。衝突
したときなどに腹部に強い圧迫を受
け、シート ベルトによりけがをする
おそれがあります。
- シート ベルトの肩にかかる部分を脇
の下に通して着用しないでください。
シート ベルトが肩に十分かかってい
ないと衝突したときなどに体が前方に
投げ出されるおそれがあります。
- シート ベルトの経路をさまたげる荷
物の積みかたはしないでください。衝
突したときなどに効果が十分発揮され
ません。



- お子さまにも必ずシート ベルトを着
用させるか、チャイルド シートを使
用してください。
ひざの上でお子さまを抱いていると、
衝突時などにお子さまを支えることが
できず、お子さまへの重大な傷害につ
ながるおそれがあります。



⚠警告

- シートベルトは、それを着用するのに十分な大人の体格を持った人用に設計されています。
- 6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずチャイルドシート（別売）を使用してください。
（チャイルドシート→53ページ）
（チャイルドシートの固定のしかた→60ページ）
- 妊娠中の方もシートベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シートベルトの着用については、医師に相談のうえ、注意事項を確認してください。
- 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させて着用してください。腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。
- 肩部ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用してください。肩部ベルトを腹部にかけていると衝突したときなどに、腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。



⚠警告

- シートベルトは1人用です。2人以上で1本のシートベルトを使用しないでください。衝突時にシートベルトが正常に動かず、けがをするおそれがあります。



- シートの背当てを必要以上に倒して走行しないでください。衝突時に体がシートベルトの下にもぐり、ベルトが腰骨にかからず腹部にかかることになり、シートベルトによりけがをするおそれがあります。



- ハンドルやメーターに必要以上に近づいて運転しないでください。衝突したときなどシートベルトの効果が発揮されません。
- シートベルト使用時、クリップなどでたるみをつけないでください。衝突時など効果を発揮しなくなります。





⚠警告

- シートベルトが汚れた場合は中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシートベルトの脱色や染色もやめてください。
- シートベルトを着用した状態で万一事故にあった場合は、スバル販売店でシートベルト一式を交換してください。シートベルト自体が損傷している場合があります、性能を十分発揮できないおそれがあります。
- 常にシートベルトにほつれや、擦り切れなどの異常がないかを点検してください。異常がある状態で使用すると衝突時に正常にはたらかず、性能を十分発揮できないおそれがありますので、スバル販売店で交換してください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。また、シートベルトの改造や取り付け、取り外しをしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。



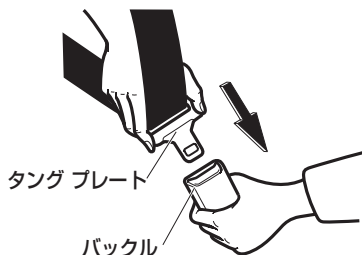


3点式ELRシートベルト

長さ調整の必要はありません。通常は体の動きに合わせて伸縮しますが、緊急時にはロックし、体を固定します。

▼着用するとき

1. 正しい運転姿勢が取れる位置にシートを調整します。
2. タングプレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認したのち、バックルの中にタングプレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。



⚠警告

- 肩部ベルトは、脇の下に通して着用しないでください。ベルトが十分肩にかかっていないと十分な効果を発揮しません。

⚠注意

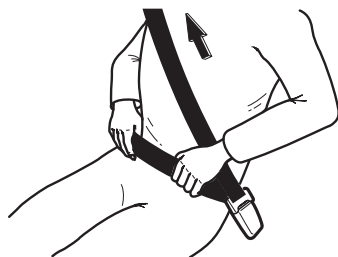
- タングプレートを差し込むとき、タングプレートでバックルを無理にこじらないでください。

📖 アドバイス

- ベルトがロックし引き出せない場合は、ベルトをゆるめてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、もう一度ゆっくり引き出してください。
- 運転席シートベルトは、シートベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h以上で走行すると、ブザーが約2分間鳴ります。

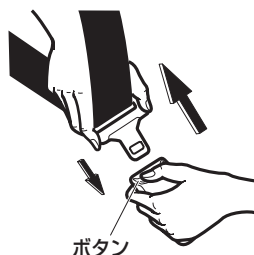
（シートベルト警告灯
→ 127 ページ）

3. 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引いて腰部に密着させます。



▼外すとき

バックルのボタンを押します。ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがないかを確認しながら、ベルトやタングプレートに手を添えてゆっくり戻します。





プリテンショナー& 可変ロード リミッター機構付 シート ベルト

フロント シート

⚠警告

- プリテンショナー&可変ロード リミッター機構付シート ベルトは絶対に取り外さないでください。また、分解、改造もしないでください。
- 下記のような場合は必ずスバル販売店にご相談ください。お客様自身で行うと、プリテンショナー機構が思いがけなく作動するおそれがあるほか、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - 車両前部を修理するとき
 - 無線機を取り付けるとき
 - 廃車にするとき

プリテンショナー機構

前方からの強い衝撃を受けるとプリテンショナー機構が作動し、シート ベルトを瞬時に引き込み、上体をシートにしっかりと固定してシート ベルトやSRSエアバッグの効果をいっそう高めます。

⚠注意

- プリテンショナー機構付シート ベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのスバル販売店で交換してください。



アドバイス

- プリテンショナー機構はシート ベルトを着用していなくても前方からの強い衝撃を受けると作動します。

可変ロード リミッター機構

前方からの強い衝撃を受けた場合、シート ベルトにある一定以上の荷重がかかったときに作動し、それ以上荷重がかからないようにする機構で、乗員の胸に加わる力を減少させます。

⚠注意

- 可変ロード リミッター機構付シート ベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのスバル販売店で交換してください。



チャイルド シート

チャイルド シート

6 歳未満のお子さまはチャイルド シートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずチャイルド シートをご使用ください。

車両に固定するチャイルド シートには、ISO^{*1} FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーで固定するタイプとシート ベルトで固定するタイプがあります。

(チャイルド シートの固定のしかた
→ 60 ページ)

チャイルド シートの固定方法、および取り扱い方法は、各チャイルド シートに付属の取扱説明書をお読みください。

アドバイス

- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて適切なチャイルド シートを選んでください。

チャイルド シートについて

- ここでは、ベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートの総称として、「チャイルド シート」と呼んでいます。

(チャイルド シートの種類→ 54 ページ)

チャイルド シートの 質量グループについて

ECE R44^{*2} の基準に適合するチャイルド シートは、お子さまの体重により、5 種類の質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループⅠ	9～18kg
グループⅡ	15～25kg
グループⅢ	22～36kg

^{*1} International Organization for Standardization
(国際標準化機構) の略

^{*2} チャイルド シートに関する国際的な安全基準です。





チャイルド シートの種類

○ベビー シート

体重の目安：～13kg

質量グループ 0、0⁺に相当します。



○チャイルド シート

体重の目安：9～18kg

質量グループ 0、0⁺および I に相当します。

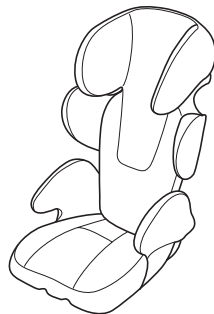


○ジュニア シート

体重の目安：15～36kg

年齢の目安：3～12 歳

質量グループ II、III に相当します。



(チャイルド シートの質量グループ
について→ 53 ページ)



チャイルド シートの選びかた

次の適合性一覧表から、各シート位置でどのチャイルド シートが使用できるかを選択してください。

- ISO FIX対応ISO FIX固定バー＆テザー アンカーで取り付ける場合
(ISO FIX対応ISO FIX固定バー＆テザー アンカーで取り付けるチャイルド シート
適合性一覧表→ 56 ページ)
- シート ベルトで取り付ける場合
(シート ベルトで取り付けるチャイルド シート
適合性一覧表→ 59 ページ)



アドバイス

- お子さまに適切なチャイルド シートについては、スバル販売店、チャイルド シート製造業者、または販売店にご相談ください。



ISO*1 FIX対応ISO FIX固定バー＆テザー アンカーで 取り付けるチャイルド シート適合性一覧表

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両ISO FIX位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0 (10kgまで)	E	ISO/R1	IL*2
0+ (13kgまで)	E	ISO/R1	IL*2
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I (9～18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF*2
	B1	ISO/F2X	IUF*2
	A	ISO/F3	IUF*2
II (15～25kg)		—	×
III (22～36kg)		—	×

●記号の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリのISO FIX 対応の前向きチャイルド シートのみ取り付け可能です。

IL：この質量グループでの使用を許可された下記「ISO FIXチャイルド シートのリスト」に示す準汎用（セミ ユニバーサル）カテゴリのチャイルド シートのみ取り付け可能です。

×：ISO FIX対応チャイルド シートを取り付けることはできません。

*2 チャイルド シートを取り付けるときは、チャイルド シートを取り付けるシートの前席背当てを直立状態にしてください。

●ISO FIX対応チャイルド シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISO FIX対応チャイルド シート	カテゴリ
0 (10kgまで)	E	ISO/R1	スバル純正ISO FIXベビー シート	準汎用
0+ (13kgまで)	E	ISO/R1		

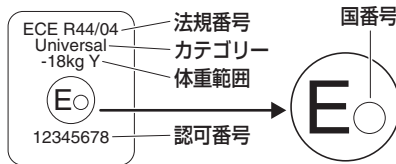
表に記載されていないチャイルド シートを使用する場合は、スバル販売店、チャイルド シート製造業者または販売店にご相談ください。

*1 International Organization for Standardization（国際標準化機構）の略

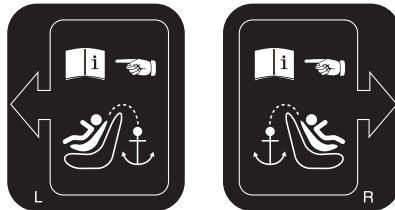


👉 アドバイス

- この車のISO FIX対応ISO FIX固定バー & テザー アンカーは、2006 年 10 月 1 日施行の新保安基準に適合しています。
これには、ECE R44 に適合しているISO FIX対応チャイルド シートしか取り付けられません。
- ECE R44 に適合しているISO FIX対応チャイルド シートには、下記の認可ラベルが表示されています。
- ECE R44 の認可マークです。
汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルド シートは、カテゴリーに「UNIVERSAL」と表示されています。



- スバル純正ISO FIX対応テザー アンカーの位置を示すマークの一例です。



- スバル純正の準汎用（セミ ユニバーサル）カテゴリー、および汎用（ユニバーサル）のチャイルド シートをご用意しています。ご購入、ご使用についてはスバル販売店にご相談ください。



アドバイス

- チャイルド シートを購入するときは、ISO FIXサイズ等級に一致したものをお選びください。

サイズ等級	固定具	お子さまの体格	使用の向き	形状、大きさ
A	ISO/F3	幼児	前	大型
B	ISO/F2	幼児	前	中型
B1	ISO/F2X	幼児	前	中型
C	ISO/R3	幼児	後ろ	大型
D	ISO/R2	幼児	後ろ	中型
E	ISO/R1	乳児	後ろ	小型

- 詳しくは、スバル販売店、チャイルド シートの製造業者、または販売店にご相談ください。



シート ベルトで取り付けるチャイルド シート適合性一覧表

質量グループ	座席位置	
	フロント シート	リヤ シート
	助手席	左右席
0 (10kg まで)	×	U*
0+ (13kg まで)	×	U*
I (9～18kg)	×	U*
II (15～25kg)	×	U*
III (22～36kg)	×	U*

●記号の説明

U : この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルド シートが取り付け可能です。

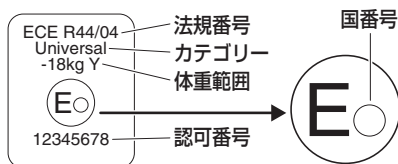
× : チャイルド シートを取り付けることはできません。

* チャイルド シートを取り付けるときは、リヤ シートを前方いっぱいまでスライドさせてください。

表に記載されていないチャイルド シートを使用する場合は、スバル販売店、チャイルド シート製造業者または販売店にご相談ください。

👉 アドバイス

- チャイルド シートを購入される際は、質量グループに一致したものを選択してください。
(チャイルド シートの選びかた→ 55 ページ)
- ECE R44 に適合している「U」のチャイルド シートには、下記の認可ラベルが表示されています。
- カテゴリーの「UNIVERSAL」は、汎用（ユニバーサル）チャイルド シートの認可であることを表します。





チャイルド シートの固定のしかた

⚠警告

- チャイルド シートはリヤ シートに取り付けてください。
- 助手席に前向きや後ろ向きのチャイルド シートを絶対に取り付けしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。



- 急ブレーキや事故の際、お子さまの安全のために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルド シートを使用してください。
また、お子さまをひざの上で抱いて走行しないでください。衝突したときなどに、十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- チャイルド シート（ジュニア シート）を使用しているときは、ジュニアシート付属の取扱説明書に従ってシートベルトで固定してください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突時などにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠警告

- チャイルド シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みの上、確実に取り付けて使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- チャイルド シートやシート ベルトが確実に固定されていることを前後左右にゆさぶり確認してください。
- チャイルド シートは、お子さまを乗せていないときでもしっかりとシートに固定しておいてください。また、荷室に収納する場合でも、ロープなどを利用して固定してください。固定しないまま客室または、荷室に放置すると、ブレーキをかけたときなどにチャイルド シートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お子さまをシート ベルトで遊ばせないでください。万一シート ベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
誤ってそのような状態になってしまい、シート ベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシート ベルトを切断してください。
- シート ベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。



⚠️注意

- 標準装備のシート ベルトは大人用です。6 歳未満のお子さまは、チャイルド シートの着用法が法律で義務付けられていますので、必ずチャイルド シートを使用してください。取り付けはチャイルド シートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
- シート ベルトに損傷をあたえないよう、取り付けにあたっては十分注意してください。

👉アドバイス

チャイルド シートをリヤ シートに取り付けるときは

- 運転席とチャイルド シートが干渉し、正しい運転姿勢が確保できない場合は、リヤ シートの助手席側に取り付けてください。

(正しい運転姿勢→ 38 ページ)

チャイルド シートを使用しないときは

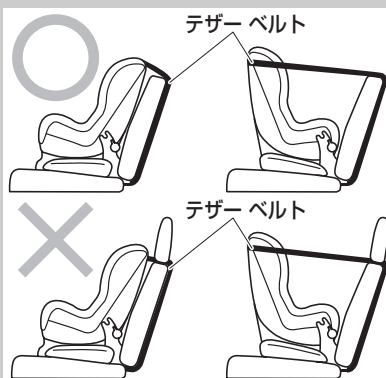
- チャイルド シートを長時間使用しない場合は、荷室に固定するか、車両から外して保管してください。シートに取り付けたままにしておくと、シートが変色したり、型くずれするおそれがあります。

ISO FIX対応ISO FIX 固定バー & テザー アンカーによる固定

▼チャイルド シートを取り付ける前に

⚠️警告

- チャイルド シートを取り付けるときは、ISO FIX対応ISO FIX固定バー & テザー アンカー周辺に異物がないこと、シート ベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。
異物やシート ベルトなどをかみ込むとチャイルド シートが正しく固定されず、衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- チャイルド シートを取り付けるときは、リヤ シートのヘッド レストを取り外してから、テザー アンカーに固定してください。

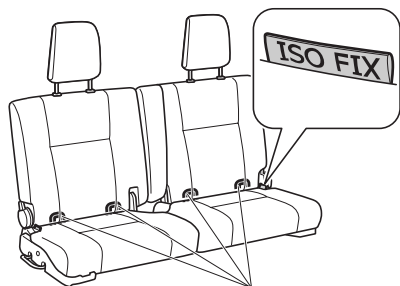




▼ 取り付けかた

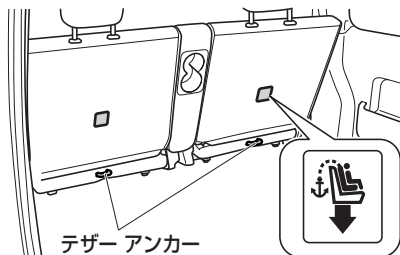
1. ISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザーアンカーの位置を確認します。

- 固定バーが装備されていることを示すタグがシートについています。



ISO FIX対応ISO FIX固定バー

- テザー アンカーを示すマークが背当て裏側にあります。



2. リヤ シートを後方いっぱいまでスライドさせて、背当てを直立状態にします。
3. チャイルド シートを取り付けるシートのヘッド レストを取り外します。
4. チャイルド シートのベース シートをISO FIX固定バーに確実に取り付けます。
5. ISO FIXチャイルド シート（テザー式）をチャイルド シートのベースシートに確実に取り付けます。
6. ISO FIXチャイルド シート（テザー式）を上下左右に軽くゆさぶり、ISO FIX固定バーに確実に固定されていることを確認します。
7. ISO FIXチャイルド シート（テザー式）のテザー ベルトのフックをテザー アンカーに確実に引っかけます。
8. ISO FIXチャイルド シート（テザー式）のテザー ベルトがピンと張る（5kg程度）まで強く引っ張って、チャイルド シートの上側を確実に固定します。

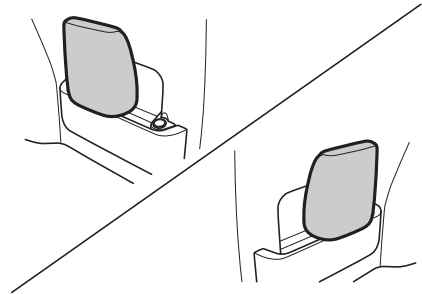


9. ISO FIXチャイルド シート（テザー 式）のテザー ベルトを軽く引っ張り、テザー アンカーに確実に固定されていることを確認します。
10. チャイルド シートが確実に固定されていることを前後左右にゆさぶり確認してください。
11. チャイルド シートを取り付けるシー トの前席背当てを直立状態にします。

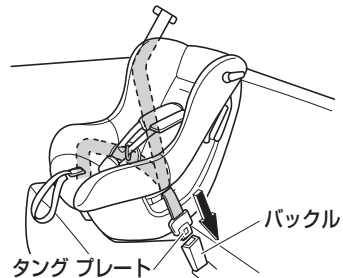
シート ベルトによる固定*

▼取り付けかた

1. リヤ シートを前方いっぱいまでスラ イドさせて、背当てを直立状態にし ます。
 2. チャイルド シートをリヤ シートに 置きます。
- ヘッド レストにチャイルド シートが 干渉するときは、ヘッド レストを 「カチッ」という音がする位置まで引 き上げるか、取り外してリヤ クオー ター ポケットに収納します。



3. タング プレートをつかんでゆっくり 引き出し、ベルトがねじれていない ことを確認してから、チャイルド シートの中に通します。



* 固定のしかたは代表例です。

また、イラストは説明のための物であり、実 際のチャイルド シートの形状とは異なります。



4. バックルの中にタング プレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。

⚠注意

- タング プレートを差し込むとき、タング プレートでバックルを無理にこじらないでください。

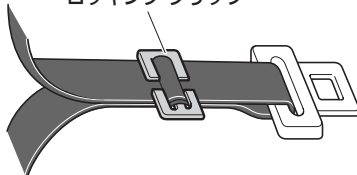
5. チャイルド シートのロック オフ レバーを開き、肩ベルトをロック オフ レバーの下に通します。
6. チャイルド シートに体重をかけてリヤ シートに押しつけながら、肩ベルトをたるみがなくなるまで巻き取らせます。
7. チャイルド シートのロック オフ レバーを閉じ、肩ベルトを固定します。
8. チャイルド シートやシート ベルトが確実に固定されていることを前後左右にゆさぶり確認してください。

⚠注意

- チャイルド シートを固定したあと、シート ベルトでチャイルド シートがロックされていることを必ず確認してください。万一のとき効果を発揮しないおそれがあります。

9. チャイルド シートにシート ベルトの固定装置が付いていない場合は、ロックング クリップを使用して固定します。

ロックング クリップ



📖 アドバイス

- ロックング クリップの取り付けは、チャイルド シートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
- また、ロックング クリップの購入については、スバル販売店にご相談ください。



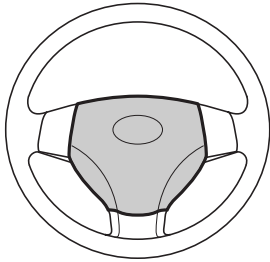
SRSエアバッグ

SRS*エアバッグ

SRSエアバッグは、車両前方からの強い衝撃により、センサーが一定以上の衝撃（重大な危害がおよぶような強い衝撃）を感知すると瞬時に膨らみます。

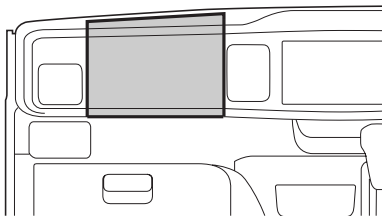
運転席SRSエアバッグ

シートベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。



助手席SRSエアバッグ

シートベルトで体を拘束するはたらきと併せて、助手席同乗者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。



⚠警告

- シートベルトは必ず着用してください。SRSエアバッグはシートベルトを補助するための装置で、シートベルトの代わりではありません。
- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時にSRSエアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。

（正しい着用→ 48 ページ）

- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRSエアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないとSRSエアバッグの効果を発揮させることができません。また、運転席SRSエアバッグはハンドルに近付きすぎると、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドル、インストルメントパネルは、絶対に取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。

* Supplemental Restraint System（サプリメンタル レストレイント システム）の略で、乗員保護補助拘束装置の意味です。

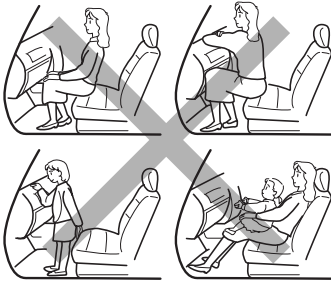




⚠警告

- SRSエアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRSエアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているのやけどをするおそれがあります。
- 助手席SRSエアバッグについては必ず下記の注意事項をお守りください。
- シートの前端に座ったり、インストルメント パネルにもたれかかったりしないでください。また、お子さまをインストルメント パネルの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。

助手席SRSエアバッグは瞬時に車室内に大きく膨らみますので、SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠警告

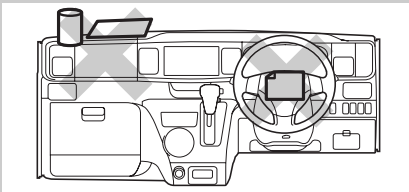
- 助手席に前向きや後ろ向きのチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。





⚠警告

- SRSエアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けしないでください。いざというときにパッド部が開かずSRSエアバッグが作動しないおそれがあります。
- インストルメント パネルの上にジュースや物を置かないでください。SRSエアバッグが膨らむときの衝撃でけがをするおそれがあります。



- ステアリング パッド、インストルメント パネルの上などSRSエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠警告

- SRSエアバッグの効力を十分に発揮させるため、下記の事項を必ず守ってください。
- サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
- 車両前部にグリル ガードなどを装着する場合は、最寄りのスバル販売店にご相談ください。
- 無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、スバル販売店にご相談ください。
- SRSエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。





⚠注意

- SRSエアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。

この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。

また、SRSエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。

- 衝突時などに助手席SRSエアバッグが膨らむことによって、車両のフロントウインドウ ガラスが破損することがあります。
- SRSエアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずスバル販売店で交換してください。

⚠注意

- 下記のような場合は必ずスバル販売店にご相談ください。

お客様自身で行うと、SRSエアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ハンドルを取り外すとき
- 車両前部を修理するとき
- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。
- SRSエアバッグが収納されているパット部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずスバル販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。



作動する場合

SRSエアバッグは車両前方からフロントバンパーに強い衝撃を受けたとき作動します。また、同時にシートベルトのプリテンショナー機構も作動します。走行中に路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときは、まれにSRSエアバッグが作動することがあります。

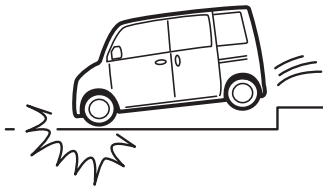
- 高速で縁石などに衝突したとき



- 深い穴や溝に落ち込んだとき



- ジャンプして地面に衝突したとき



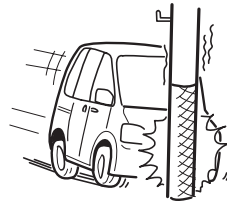
作動しない場合

下記のように前方からの衝撃が弱い場合や、衝撃が車体により十分吸収された場合など、車両の損傷が大きくても作動しないことがあります。

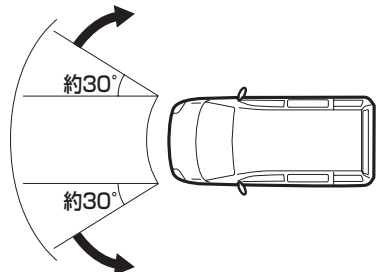
- コンクリートの壁に約 20km/h以下の速度で正面衝突したとき



- 電柱などポール状の物に正面衝突したとき

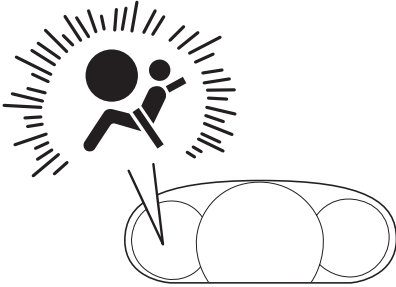


- 前方約 30°以上の角度でコンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき

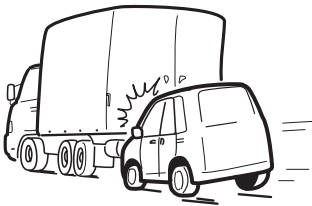




- SRSエアバッグ警告灯点灯時



- 大型トラックの後部荷台下にもぐり込んだとき

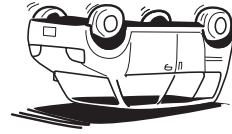


下記のようなときも作動しないことがあります
り効果を発揮しません。

- 側面や後方から衝撃を受けたとき



- 車両が横転、転覆したとき



下記のようなときは、SRSエアバッグが
作動しません。

- エンジン スイッチが“LOCK”、
“ACC” の位置のときに衝突したとき





SRSエアバッグ警告灯

メーター内に警告されます。



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、下記のシステムに異常があると点灯します。

▼ 異常があると点灯するシステム

- SRSエアバッグ
(SRSエアバッグ→ 65 ページ)
- プリテンショナー機構
(プリテンショナー機構→ 52 ページ)

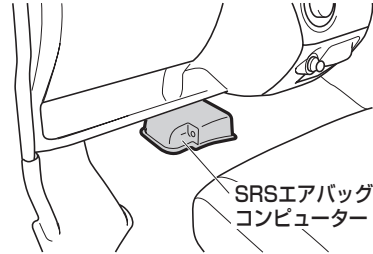
△注意

点灯した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

SRSエアバッグ コンピューター

SRSエアバッグを制御する装置です。



△注意

- SRSエアバッグ コンピューターは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
SRSエアバッグが誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRSエアバッグ コンピューターには、水、飲み物などをかけないように注意してください。
万一こぼしたときは、ただちにふき取ってください。
- SRSエアバッグ コンピューターおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。
- SRSエアバッグが一度作動すると再使用できません。スバル販売店で交換してください。



ABS

ABS* (EBD機能付)

- 急制動時や滑りやすい路面における制動時には、車輪がロックして方向安定性と操舵能力が低下することがあります。ABSは、このような状況下に発生する車輪ロックを防止して操舵能力を確保しようとする装置です。

▼ EBD

Electronic Brake force Distribution (電子制動力配分制御) の略で、車両の走行状態や積載状態に応じて最適な制動力配分を行う機能です。積載時のブレーキの効きを確保することができます。

⚠注意

- ABSを過信しないでください。ABSが作動した状態でも車両の方向安定性や操舵性の確保には限界があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 下記の場合などにはABSの付いていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。速度を控えて十分に車間距離を取ってください。
 - 砂利道、新雪路を走行しているとき
 - タイヤ チェーンを装着しているとき
 - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
 - 凹凸道などの悪路を走行しているとき
 - タイヤ空気圧が適正空気圧より高いときに荒れた路面を走行したとき

*ABSは、Anti-lock Brake System (アンチロック ブレーキ システム) の略です。



アドバイス

- 低速（約 10km/h以下）では、ABSは作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。
- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると、メーター内のABS警告灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン始動後にABS警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、スバル販売店で点検を受けてください。
- エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジン ルームからモーターなどの音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしているときの音で、異常ではありません。
- 走行中にABS警告灯が点灯した場合、通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、スバル販売店で点検を受けてください。
- ABSの作動中および作動後は、ブレーキ ペダルが奥に入り込むことがあります。また、ABSが正常に作動しているときは、ブレーキ ペダルを踏むとペダルがこきざみに動き「カタカタ」と作動音がすることがありますが、システムの異常ではありません。
- 雨の日にマンホールのふた、橋の継ぎ目などの滑りやすい場所でブレーキペダルを踏むとABSが作動しやすくなります。
- 急ブレーキ時は、ブレーキ ペダルを強く踏み続けてください。ブレーキペダルをゆるめるとABSが効果を発揮できません。

アドバイス

- 急ブレーキ時にポンピング ブレーキ*はしないでください。ポンピング ブレーキをすると制動距離が長くなります。

* ブレーキ ペダルを数回に分けてこきざみに踏むブレーキのかけかた

MEMO



車を運転する前に

車を運転する前に必要な各部の開閉、調整、点検
について説明しています。

■ 車体各部の開閉

キー-----	76
電波式リモコン ドア ロック-----	77
盗難警報装置-----	80
ドアの開閉-----	83
スライド ドア-----	85
チャイルド ブルーフ-----	95
集中ドア ロック-----	95
キー抜き忘れ警告ブザー-----	96
リヤ ゲート-----	96
ボンネット-----	101
エンジン ルームの開閉-----	103
フューエル リッド-----	106
パワー ウィンドウ-----	109

■ 車体各部の調整

ルーム ミラー-----	113
電動格納式ドア ミラー-----	113

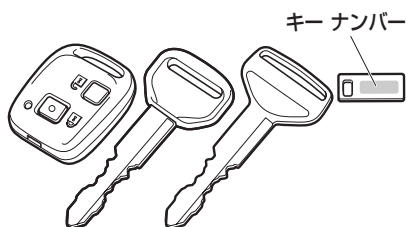


車体各部の開閉

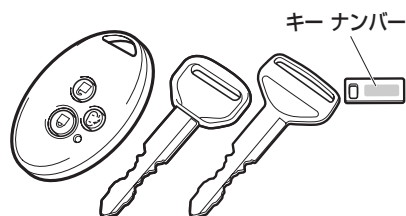
キー

キーはエンジンの始動や停止のほか、ドアの施錠、解錠など車を操作するためにはなくてはならない物です。大切に管理してください。

○パワー スライド ドア装着車以外



○パワー スライド ドア装着車



アドバイス

- キーは 2 枚用意しています。2 枚の内 1 枚は、いざという時のために予備として使用してください。
- リモコンは 4 個まで設定することができます。

キー ナンバー プレートについて

- お客様以外にキー ナンバーがわからないように、キーではなくプレートにキー ナンバーを打刻してあります。
- キー ナンバー プレートを車両以外の場所に大切に保管してください。
万一、キーを紛失したときに、キー ナンバーをスバル販売店にご連絡いただければ、指定キーを作ることができます。
- スペア キーを作るときもこのキー ナンバーは必要になりますので、車両以外の場所に大切に保管してください。

航空機に乗るときは

- 航空機にリモコン（電波式リモコンドア ロック）を持ち込む場合は、航空機内で“LOCK”、“UNLOCK”のボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。



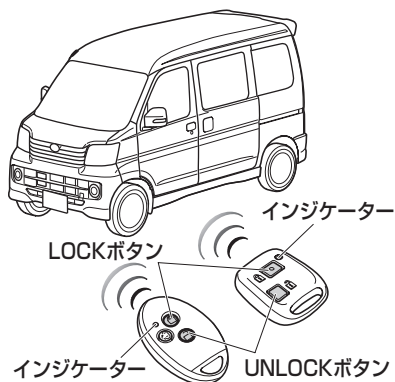
電波式リモコン ドア ロック

ドアの施錠、解錠をリモコンで行うことができます。

▼ 操作方法

ドアが施錠された状態で、リモコンの“UNLOCK”ボタンを押すと、インジケータが1回点滅し、すべてのドアは解錠されます。

“LOCK”ボタンを押すとインジケータが1回点滅し、すべてのドアは施錠されます。



パワー スライド ドア装着車は、左側スライド ドアの自動開閉をリモコンで行うことができます。

(リモコンでの自動開閉→ 93 ページ)

アドバイス

- “UNLOCK” ボタンを押し、ドア ロックが解錠されたあと、ドアの開閉を行わなかった場合は約 30 秒後、自動的にすべてのドアが施錠されます。(自動ロック機能)
- リモコンと車両中心の距離が約 3m以上離れているときは正確に作動しないことがあります。また、近くにTV塔や発電所、放送局があるなど周囲の状況によっても正確に作動しないことがあります。
- キーがエンジン スイッチのキー挿入口に差し込まれている場合、またはいずれかのドアが開いている場合は作動しません。
- リモコンには精密な電子部品が組み込まれています。故障の原因となりますので下記のことをお守りください。
 - 直射日光や高温下に放置しないでください。
 - 落とすなどして、強い衝撃や圧力を加えないでください。
 - 水にぬらしたり、ゴミ、ほこりなどが入らないようにしてください。
- 車を離れるときは、ドア ハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。
- リモコンの電池寿命は、1 日 10 回乗降時で約 2 年です。

電池の消耗について

- ボタンを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはインジケータが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

(リモコンの電池交換→ 78 ページ)



車を運転する前に 車体各部の開閉

作動完了の確認方法

非常点滅表示灯と室内照明により、電波式リモコン ドア ロックの作動完了を確認することができます。

▼確認方法

ドアの施錠、解錠と連動して非常点滅表示灯と室内照明（スイッチがドアと連動する位置のとき）が下表の通り作動します。（アンサー バック）

これにより、電波式リモコン ドア ロックの作動完了を確認してください。

作動	部位	アンサーバック
LOCK時	非常点滅表示灯	1回点滅
	室内照明	減光し、その後消灯
UNLOCK時	非常点滅表示灯	2回点滅
	室内照明	約15秒間点灯

リモコンの電池交換

- インジケーターが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。
- 電池は、お客様自身で交換できますが、破損などのおそれがあるため、スバル販売店での交換をおすすめします。

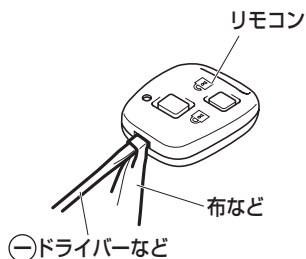
▼使用電池について

使用電池は「CR1616（3V）」です。

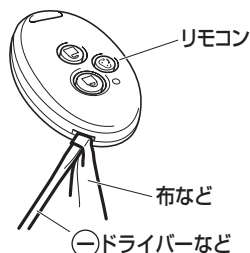
▼交換方法

1. 傷付き防止のため、先端に布などを巻いた、くぼみに入る程度の薄刃の⊖ドライバーなどを用意します。
2. 用意した⊖ドライバーなどをくぼみに差し込み、リモコンのカバーを外します。

パワー スライド ドア装着車以外

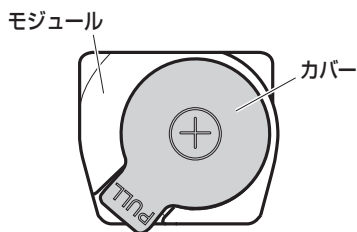


パワー スライド ドア装着車

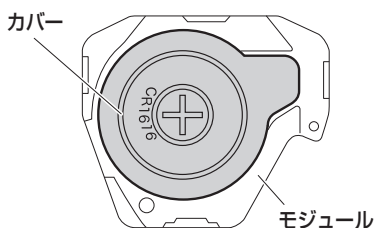


3. モジュールの裏側のカバーを外します。

パワー スライド ドア装着車以外



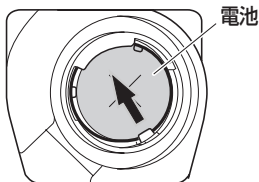
パワー スライド ドア装着車



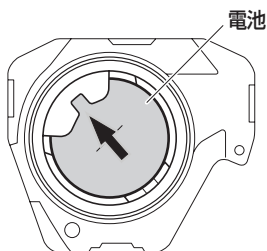


4. 矢印の方向にスライドさせて、電池を取り出し、新しい電池と交換します。

パワー スライド ドア装着車以外



パワー スライド ドア装着車



▼ 交換したあと

1. カバーとモジュール、およびリモコンのカバーを逆の手順で取り付けます。
2. スイッチを押したとき、インジケータが点滅することを確認します。

⚠ 注意

- 電池交換をする場合は、必ず身体や衣類に帯電している静電気を放電してください。静電気により、リモコンが損傷するおそれがあります。静電気を放電する場合は、静電気が除去できる物をあらかじめ用意しておくか、金属部分などに手を触れてください。
- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように特にご注意ください。

📖 アドバイス

- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。
- 故障の原因となりますので、下記のことをお守りください。
 - 端子部分などを曲げない
 - 水、油などでぬらさない
 - ゴミなどの異物を入れない
- 電池はスバル販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。
- 電池交換はスバル販売店に依頼することをおすすめします。
- 電池は新品を使用してください。
- 電池交換後はリモコンの機能が正常であることを確認してください。
- ボタン電池を廃棄する場合は、テープなどで端子部を絶縁してください。電池が重なり合ったり、他の金属製品を混ぜたりすると電池がショートして、漏液、発熱、破裂するおそれがあります。また、自治体が条例などを定めている場合は、その条例にしたがってください。

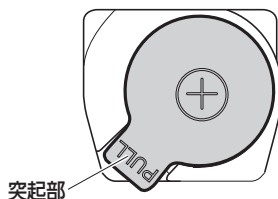


車を運転する前に 車体各部の開閉

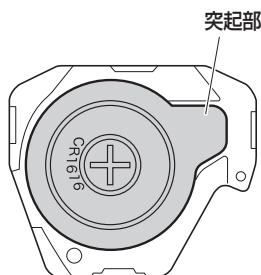
アドバイス

- カバーをはめ込むときは、突起部からはめ込み、全体を均等に押さえてください。カバーが確実ににはめ込まれていないと、水、ほこりなどが入り、故障の原因になるおそれがあります。

パワー スライド ドア装着車以外



パワー スライド ドア装着車



盗難警報装置

盗難警報装置は、すべてのドアを閉め、電波式リモコン ドア ロックでドアを施錠した場合に、盗難に対する警戒を開始します。

電波式リモコン ドア ロック以外の操作でドアを開けると、警報を発して周囲に異常を知らせます。

アドバイス

- 盗難警報装置は、周囲に異常を知らせる機能です。室内への侵入を防ぐ機能はありません。
- ほかの方にお車を貸したときや、盗難警報装置の作動について知らない方が運転するときは、盗難警報装置について十分ご説明ください。
盗難警報装置の作動について知らない方が操作を誤った場合、警報が作動し周辺への迷惑になります。
- たとえ盗難警報装置をセットしていても、現金や貴重品は車内に放置しないでください。

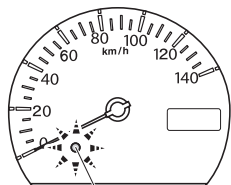


盗難警報装置のセット方法

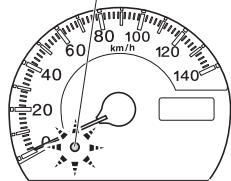
すべてのドアを閉め、電波式リモコン ドア ロックでドアを施錠すると、セキュリティ表示灯が点灯し、セットを開始します。

約 30 秒後にセットが終了し、盗難警報装置は警戒状態になります。

警戒中は、セキュリティ表示灯が点滅します。



セキュリティ表示灯



アドバイス

- 電波式リモコン ドア ロック以外の操作でドアを施錠した場合、盗難警報装置はセットされません。（電波式リモコン ドア ロックの自動ロック機能で施錠された場合は、セットされます）
- セキュリティ表示灯が点灯してから約 30 秒以内に下記の操作をした場合、盗難警報装置のセットは中断されます。
 - 運転席ドアを解錠したとき
 - ドアを開けたとき
 - キーがエンジン スイッチのキー挿入口に差し込まれたとき

警戒中の作動

警戒中に電波式リモコン ドア ロック以外でドアを開けると、警報が作動します。

（1 次警報）

この間、警報が解除されなかった場合、さらに警報が作動します。（2 次警報）

アドバイス

- 警報作動中にドアを閉めても、警報は停止しません。
- 警報終了後、ドアを閉めると、盗難警報装置が再び警戒状態になりますが、施錠はされません。お車を離れる際は確実に施錠してください。

○盗難警報

▼ 1 次警報

- セキュリティ表示灯が点滅
- 非常点滅表示灯が 10 秒間点滅
- 室内ブザーが 10 秒間断続して鳴る

▼ 2 次警報

- セキュリティ表示灯が点滅
- 非常点滅表示灯が 30 秒間点滅
- 室内ブザーが 30 秒間断続して鳴る
- ホーンが 30 秒間断続して鳴る



車を運転する前に 車体各部の開閉

盗難警報装置の解除方法

電波式リモコン ドア ロックでドアを解錠するか、エンジン スイッチを“ON”の位置にすると解除できます。

アドバイス

- 盗難警報装置は、車内に人が乗っているときや、ドア ウインドウ ガラスが開いているときにも作動します。盗難警報装置を誤作動させないために、車内に人が乗っているときや、ドア ウインドウ ガラスが開いているときは、盗難警報装置をセットしないでください。

警報の停止方法

すべてのドアを閉め、電波式リモコン ドア ロックで施錠するか、エンジン スイッチを“ON”の位置にします。

盗難警報装置の作動履歴の確認

盗難警報装置のセット中に警報（2 次警報まで作動した場合のみ）が作動したことを確認することができます。

▼ 確認方法

エンジン スイッチを“ON”の位置にすると、室内ブザーが「ピーツピツ」と鳴り、2 次警報まで作動したことを知らせます。

アドバイス

- 作動履歴の確認は、2 次警報作動後、1 回のみ行うことができます。

盗難警報装置の メンテナンスについて

盗難警報装置のメンテナンスは不要です。

注意

- 盗難警報装置の改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。



ドアの開閉

▼ 操作を行う前に

⚠ 警告

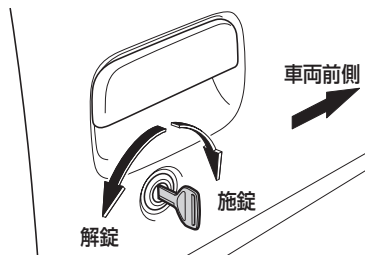
- ドアの開閉は確実に行ってください。
ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながったり、運転者や同乗者、または荷物が車から投げ出されるおそれがあります。
- 走行中は絶対にドアを開けないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を十分確認してください。いきなり開けると後続車にぶつかるおそれがあり危険です。風が強いときは特に注意してドアを開けてください。
- 車から離れるときは、必ずエンジンを止め施錠してください。無人で車が動き出したり、車両盗難のおそれがあります。
- お子さまに各ドアの開閉をさせたり、いたずらをさせないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

👉 アドバイス

- ドアを施錠している場合でも、車を離れるときは貴重品などは車の中に置いたままにしないでください。

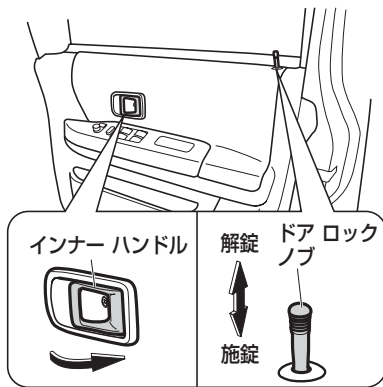
車外からの施錠、解錠

キーを確実に差し込んでから回します。キーを車両前側に回すと施錠され、後ろ側に回すと解錠されます。



車内からの施錠、解錠

ドア ロック ノブを押し下げると施錠できます。ドア ロック ノブを引き上げると解錠できインナー ハンドルを引くとドアが開きます。





車を運転する前に 車体各部の開閉

車外からキーを使わない施錠

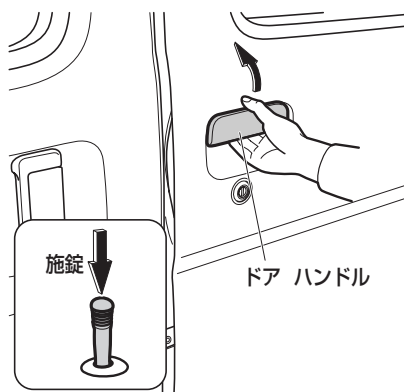
アドバイス

- キーを車内に置き忘れないようにしてください。不注意によりキーを車内に閉じ込めてしまう場合があります。
- キーを使用せずにドアを施錠するときにはキーを手を持っていることを確認してからドアを閉める習慣を身に付ければ、車内にキーを閉じ込めてしまうことを防止できます。

○フロント ドア

▼操作方法

ドア ロック ノブを押し下げ、ドア ハンドルを引いたままドアを閉めて施錠します。



○スライド ドア

▼操作方法

ドア ロック ノブを押し下げ、ドアを閉めて施錠します。

キー閉じ込み防止機能

キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。

エンジン スイッチにキーが差し込まれているときに作動します。

▼ キー閉じ込み防止機能が作動するとき以下の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。

- 車内の運転席ドアのドア ロック ノブを施錠方向に押し下げ、運転席ドアハンドルを引いたままドアを閉めたとき
- すべてのドアが施錠されている状態で、エンジン スイッチが“LOCK”または“ACC”の位置のときに、運転席以外のドアのドア ロック ノブを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき



アドバイス

- 必ずキーを携帯していることを確認してから施錠してください。



スライド ドア

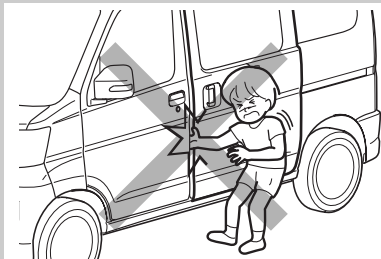
⚠警告

走行する前は

- スライド ドアが確実に閉まっていることを確認してください。半開のまま走行すると、ドアが全開または全閉方向に動き、手足や顔を挟んだり、車内の方が車外に放り出されるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

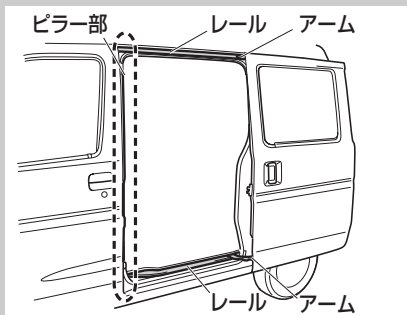
ドアを開閉するときは

- お子さまにはスライド ドアの開閉操作をさせないでください。不意にドアが動き出したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。



⚠警告

- スライド ドアを開閉するときは、下記のことをお守りください。ドアで手・頭・首を挟むなど、思わぬけがをするおそれがあります。
- スライド ドア周辺の安全を十分確認してください。
- 周りに人がいるときは、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ドア ハンドルをしっかりと持ち、スライド ドアのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
- スライド ドアのレール、アーム、およびピラー部には手足をかけないでください。



- スライド ドアのウィンドウ ガラスを開けたまま開閉するときは、ウィンドウから手足や顔を出さないでください。
- スライド ドアは必ず全開（ストッパーがかかり、固定される位置）にしてください。開け方が不完全で固定されていないと、不意に動き出すことがあります。
- スライド ドアを閉めるときは指などを挟まないよう、十分に注意してください。



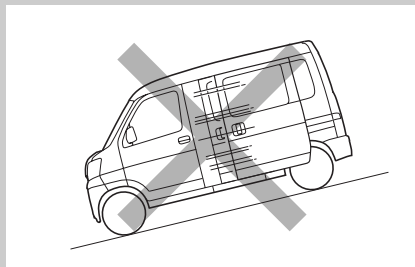


車を運転する前に 車体各部の開閉

⚠警告

傾斜地では

- 傾斜地でスライド ドアを開閉するときは、下記のことをお守りください。ドアが不意に動き出すことがあり、手・頭・首を挟むなど、思わぬけがをするおそれがあり危険です。
- スライド ドアは必ず全開（ストッパーがかかり、固定される位置）にしてください。
- スライド ドアを開けたままにしないでください。

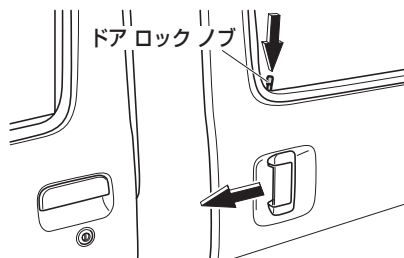


- 乗り降りの途中でドア ハンドルを操作しないでください。
- スライド ドアの開閉スピードが速くなりますので、注意してください。

車外からの施錠

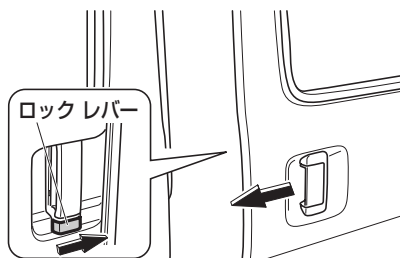
パワー スライド ドア以外

ドア ロック ノブを押し下げ、ドアを閉めて施錠します。



パワー スライド ドア（左側）

ロック レバーを車両前方に押して、ドアを閉めて施錠します。

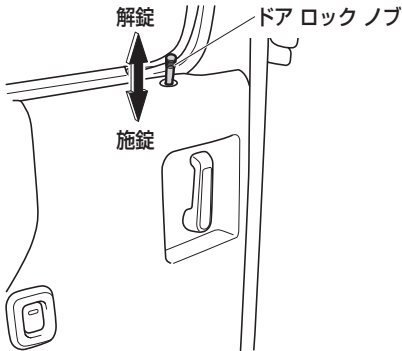




車内からの施錠、解錠

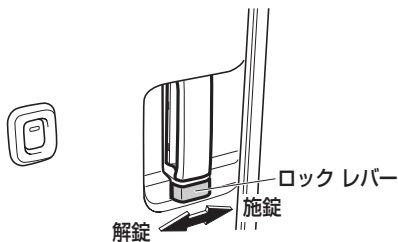
パワー スライド ドア以外

ドア ロック ノブを押し下げると施錠し、引き上げると解錠します。



パワー スライド ドア (左側)

ロック レバーを車両前方に押すと施錠し、後方に引くと解錠します。



スライド ドアの開閉

アドバイス

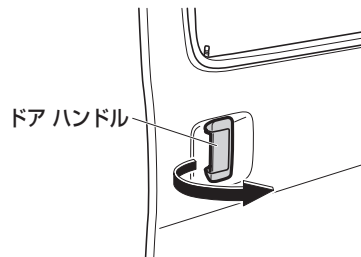
パワー スライド ドア (左側)

- パワー スライド ドア オフ スイッチが“OFF”のとき、スライド ドアを手動で開閉できます。

(パワー スライド ドア オフ
スイッチ→ 91 ページ)

○車外からの開閉

- 開けるときは、車外のドア ハンドルを引いて、スライド ドアを車両後方に操作します。
- 閉めるときは、車外のドア ハンドルを引いて、ストッパーを解除させてから、スライド ドアを車両前方に操作します。



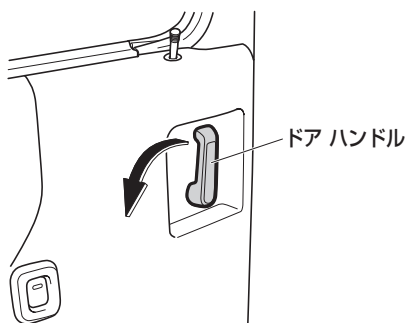


車を運転する前に 車体各部の開閉

○車内からの開閉

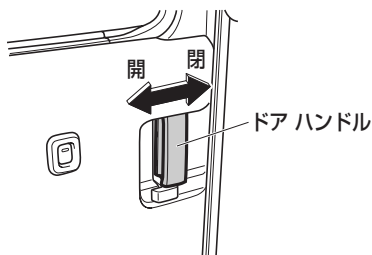
パワー スライド ドア以外

- 開けるときは、車内のドア ハンドルを引いて、スライド ドアを車両後方に操作します。
- 閉めるときは、車内のドア ハンドルを引いて、ストッパーを解除してから、スライド ドアを車両前方に操作します。



パワー スライド ドア（左側）

- 開けるときは、車内のドア ハンドルを車両後方に引いて、スライド ドアを車両後方に操作します。
- 閉めるときは、車内のドア ハンドルを車両前方に押して、ストッパーを解除させてから、スライド ドアを車両前方に操作します。



イージー クローザー機構 （左側ドア）

オプション/グレード別装備

スライド ドアを閉めたとき、半ドア状態でも、自動的にドアを閉めることができます。

⚠警告

- 半ドア状態のとき、スライド ドアが自動的に閉まるため、指などを挟まないように十分注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、お子さまにはドアの開閉操作をさせないでください。

⚠注意

- イージー クローザーの作動中は、ドアに無理な力をかけないでください。また、イージー クローザーを繰り返し作動させないでください。無理な力をかけると、故障の原因になります。

👉 アドバイス

- ドア ハンドルを引いたままスライド ドアを閉めると、イージー クローザーは作動しません。

パワー スライド ドア装着車（左側）

- パワー スライド ドア オフ スイッチが“OFF” のときでも、イージー クローザー機構は作動します。



パワー スライド ドア (左側ドア)

オプション/グレード別装備

ドア ハンドルやスイッチの操作により、左側のスライド ドアを自動で開閉することができます。

⚠警告

- パワー スライド ドアを自動開閉するときは、スライド ドアの警告および注意に加え、下記のことをお守りください。ドアで手足や顔を挟むなど、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

(スライド ドア→ 85 ページ)

ドアを自動開閉するときは

- 車が完全に停止している状態で行ってください。
- 自動開閉中に、パワー スライド ドア メイン スイッチを“OFF”にした場合、または、開いているときに車速約 3km/h以上で走行した場合は、ブザーが鳴り、作動を停止して手動操作に切り替わります。この場合、約 8 秒間スライド ドアにブレーキをかけて、ドアの動くスピードを抑制しますが、約 8 秒経過したあと、坂道などの傾斜地では、ドアが不意に動き出すおそれがあるので十分注意してください。
- エンジン停止時の自動開閉中に、エンジン スイッチを“ON”の位置にしないでください。バッテリー電圧の低下により、ドアが操作と反対方向に動いたり、停止したりすることがあり危険です。

⚠警告

傾斜地では

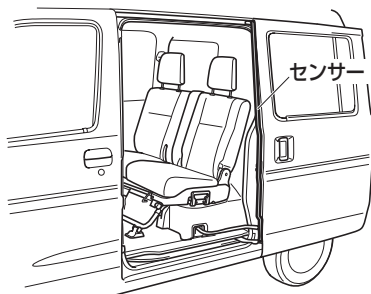
- 開いたあとにスライド ドアが閉まる場合があります。スライド ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。

スライド ドア周辺で作業をするときは

- 左側の後輪のタイヤ交換など、スライド ドア周辺で作業をするときは、パワー スライド ドア メイン スイッチを“OFF”にしてください。“ON”にしていると、誤ってスライド ドア ハンドルなどに触れ、スライド ドアが動き出すおそれがあります。

⚠注意

- スライド ドアの側面部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷付けしないでください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、パワー スライド ドアはただちに停止します。





車を運転する前に 車体各部の開閉

アドバイス

パワー スライド ドアの作動条件

- パワー スライド ドアは、エンジン スイッチの位置に関係なく使用できます。
- パワー スライド ドアは、パワー スライド ドア オフ スイッチが“ON”の状態、下記の作動可能条件をすべて満たしているときに使用できます。
- パワー スライド ドアが解錠されているとき(閉めるときを除く)
- 車速が約 3km/h未満のとき
- エンジン スイッチが“ON”の位置のときは、車速が約 3km/h未満で、
 - ・セレクト レバーがPレンジの位置
 - ・駐車ブレーキがかかっている
 - ・ブレーキ ペダルを踏んでいるのいずれかの条件を満たしているとき
- パワー スライド ドア オフ スイッチが“ON”の状態、作動可能条件を満たしていないときに手動により開閉をすると、約 8 秒間スライド ドアにブレーキをかけて、ドアの動く速度を抑制します。
- 下記のようなときは、パワー スライド ドアが作動しない場合があります。
 - ・バッテリーの電圧が低下しているとき
 - ・坂道などの傾斜地で駐車しているとき

アドバイス

自動開閉中の異常検知

- パワー スライド ドアの自動開閉中に、人や異物などによる挟み込みを検知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。
- 自動開閉中に連続して同方向に 2 回以上の挟み込みを検知すると、ブザーが鳴り、作動を停止します。

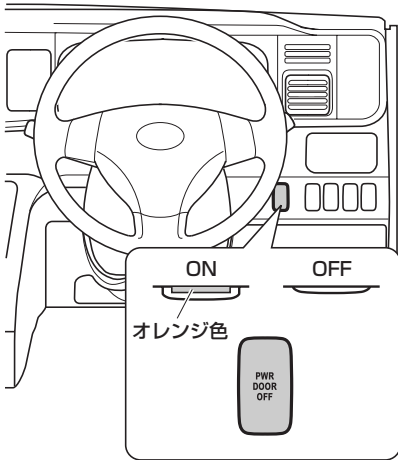
自動開閉中に作動が停止した場合

- 自動開閉中に作動が停止すると、ブザーが鳴り、作動を停止し手動に切り替わります。
- スライド ドアが停止した場合、急な開閉を防ぐために作動を停止した状態から、約 8 秒間スライド ドアにブレーキをかけ、スピードを抑制します。
- 停止した状態から、再度、自動開閉ができる状態にするには、一度、手動でスライド ドアを全閉、または全開してください。自動開閉ができる状態になります。



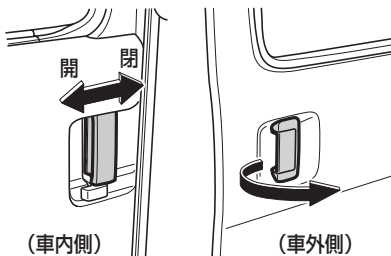
○パワー スライド ドア オフ スイッチ

スイッチを押すごとに、“ON”と“OFF”が切り替わります。“OFF”のときは、スライド ドアを自動で開閉することができません。



👉 アドバイス

- スイッチが“OFF”のときは、自動開閉はできませんが、車外、車内のドアハンドルで手動による開閉はできます。

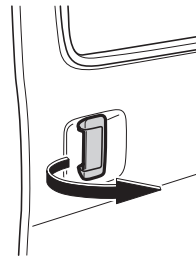


- スイッチが“OFF”のときでもイメージ クローザーは作動します。

○スライド ドア ハンドルでの 自動開閉

▼車外のドア ハンドルによる操作

- スライド ドアが全閉状態のとき、ドア ハンドルを引くと、ブザーが鳴り自動で全開します。
- スライド ドアが全開状態のとき、ドア ハンドルを引くと、ブザーが断続的に鳴り自動で全閉します。



- 全開、または全閉作動中に再度ドアハンドルを引くと、逆方向の作動に切り替わります。ただし、全開、または全閉の状態から作動したあとの約 1 秒間は、再度ドア ハンドルを引いても逆方向の作動に切り替わりません。

👉 アドバイス

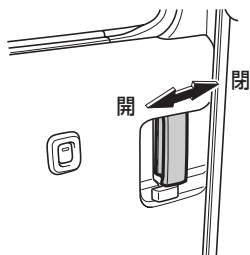
- 閉めるときは、スライド ドアを閉める方向に動かすと、自動で全閉します。



車を運転する前に 車体各部の開閉

▼車内のドア ハンドルによる操作

- スライド ドアが全閉状態のとき、ドア ハンドルを車両後方に引くと、ブザーが鳴り自動で全開します。
- スライド ドアが全開状態のとき、ドア ハンドルを車両前方に押すと、ブザーが断続的に鳴り自動で全閉します。



- 全開、または全閉作動中に再度ドア ハンドルを作動と逆方向に操作すると、逆方向の作動に切り替わります。ただし、全開、または全閉の状態から作動したあとの約 1 秒間は、再度ドア ハンドルを作動と逆方向に操作しても、逆方向の作動に切り替わりません。

👉 アドバイス

- チャイルド プルーフが施錠状態になっているときは、車内のドア ハンドルで、スライド ドアを自動で開くことができません。

○パワー スライド ドア開閉

スイッチでの自動開閉

運転席インストルメント パネル右側のスイッチで、左側のスライド ドアの自動開閉を行うことができます。

- スライド ドアが全閉状態のとき、スイッチを約 1 秒以上押し続けると、スイッチを押している間ブザーが鳴り、自動で全開します。
- スライド ドアが全開状態のとき、スイッチを約 1 秒以上押し続けると、スイッチを押している間ブザーが鳴り、自動で全閉します。
また、閉作動中はブザーが断続的に鳴ります。



- 全開、または全閉作動中に再度スイッチを押すと、逆方向の作動に切り替わります。ただし、全開、または全閉の状態から作動したあとの約 1 秒間は、スイッチを押しても、逆方向の作動に切り替わりません。



○リモコンでの自動開閉

▼施錠、解錠の操作

リモコンで、ドアの施錠、解錠を行うことができます。

(電波式リモコン ドア ロック
→ 77 ページ)

▼自動開閉の操作

リモコンで、左側のスライド ドアの自動開閉を行うことができます。

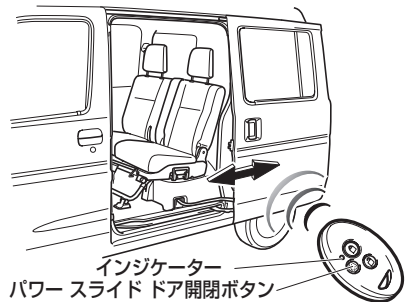
👉 アドバイス

- キーがエンジン スイッチのキー挿入口に差し込まれている場合は、リモコンによる自動開閉はできません。
- リモコンの電池寿命は、1 日 10 回開閉時で約 2 年です。

- スライド ドアが全閉状態のとき、パワー スライド ドア開閉ボタンを約 1 秒以上押し続けると、ボタンを押している間ブザーが鳴り、自動で全開します。

- スライド ドアが全開状態のとき、パワー スライド ドア開閉ボタンを約 1 秒以上押し続けると、ボタンを押している間ブザーが鳴り、自動で全閉します。

また、閉作動中はブザーが断続的に鳴ります。



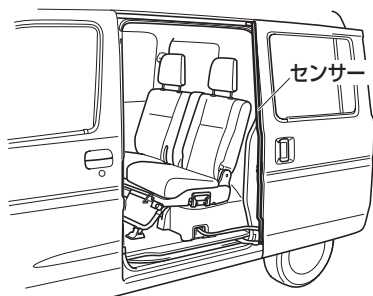
- 全開、または全閉作動中に再度パワー スライド ドア開閉ボタンを押すと、逆方向の作動に切り替わります。ただし、全開、または全閉の状態から作動したあとの約 1 秒間は、パワー スライド ドア開閉ボタンを押しても逆方向の作動に切り替わりません。



車を運転する前に 車体各部の開閉

挟み込み防止機構 (パワー スライド ドア)

- パワー スライド ドアの側面部には、センサーがついてます。
- パワー スライド ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが圧縮されると挟み込み防止装置が作動します。
- 挟み込み防止機構が作動すると、その位置からドアは反対方向に動き、全開位置で停止します。



⚠注意

- 挟まれる物の形状によって、挟み込み防止機構が作動しない場合があります。

初期設定 (パワー スライド ドア)

パワー スライド ドアが全開時で、ヒューズ切れやバッテリーあがりが発生したときは、パワー スライド ドアの初期設定をしてください。パワー スライド ドアが初期設定されていないと、下記の機能が作動しません。

- パワー スライド ドアの自動開閉
- 挟み込み防止機構

○初期設定のしかた

車外のドア ハンドルを操作して、手動で全閉にすると初期設定されます。

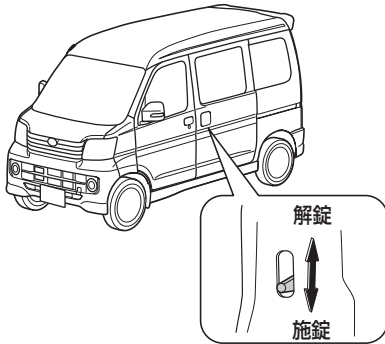


チャイルド プルーフ

お子さまの安全のため、チャイルド プルーフを左右スライド ドア前部に設けています。

▼操作方法

レバーを“施錠”側にしておくと車内のドア ハンドルを引いてもドアを開かなくすることができます。ドアを開けるときは、車外のドア ハンドルで操作します。



⚠注意

- お子さまをリヤ シートに乗せるときは必ずチャイルド プルーフを使用してください。

集中ドア ロック

運転席ドアのドア ロック ノブを操作すると、連動して助手席ドア・左右スライド ドア・リヤ ゲートが施錠、解錠されます。





車を運転する前に 車体各部の開閉

キー抜き忘れ警告ブザー

エンジン スイッチにキーが差し込まれているとき“LOCK”または“ACC”の位置でいずれかのドアを開けるとブザー（断続音）が鳴り、キーの抜き忘れを警告します。

リヤ ゲート

▼ 操作を行う前に

⚠警告

走行するときは

- 走行中はリヤ ゲートを閉じてください。開けたまま走行すると、ドアが車外のものに当たったり、荷物が道路に落下したりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
- 走行前はリヤ ゲートを軽くゆすり、ドアが確実に閉まっていることを確認してください。走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 荷室には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



⚠警告

お子さまを乗せているときは

- お子さまにはリヤ ゲートの開閉をさせないでください。不意にドアが動いたり、閉めるときに頭をぶついたり、首や手を挟んだりするおそれがあります。



- 荷室でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などになるおそれがあります。

⚠警告

リヤ ゲートを開閉するときは

- リヤ ゲートの開閉や荷物の出し入れをするときは、下記のことをお守りください。ドアで頭をぶついたり、首や手を挟むなど、思わぬけがをするおそれがあり危険です。
- リヤ ゲート周辺の安全を十分確認してください。
- 周りに人がいるときは、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- リヤ ゲートのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
- リヤ ゲートは必ず全開で静止させてください。開け方が不十分だと、ドアが不意に閉まるおそれがあります。
- リヤ ゲートを閉めるときは自分や周りの人の指などを挟まないよう、十分に注意してください。
- 強風時の開閉には注意してください。風にあおられて、ドアが勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

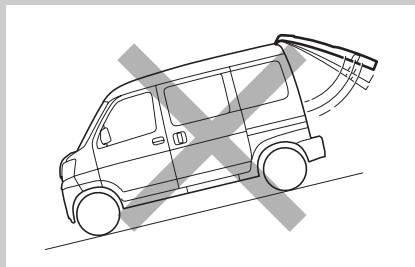




車を運転する前に 車体各部の開閉

⚠警告

- 傾斜地での開閉には注意してください。平坦な場所よりもリヤ ゲートが開閉しにくかったり、急にドアが閉じたり開いたりするおそれがあります。ドアを開けたときは必ず全開で静止していることを確認してください。

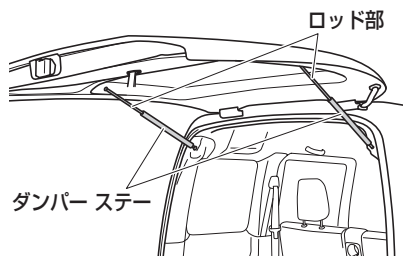


- リヤ ゲートを開ける前に、ドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでドアが閉まるおそれがあります。
- エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするときは、排気管の後方に立たないでください。排気熱でやけどをするおそれがあります。
- リヤ ゲートを支えているダンパー ステアを持ってドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、ステアが破損したりするおそれがあります。
- リヤ ゲートにスバル指定用品以外のアクセサリを取り付けしないでください。ドアの重量が極端に重くなると、開けた時にステアが支えきれなくなり、不意にドアが閉まるおそれがあります。

⚠注意

ダンパー ステアについて

- リヤ ゲートには、ドアを支えるためのダンパー ステアが取り付けられています。ステアの破損や作動不良を防ぐため、下記のことをお守りください。
- ステアに手をかけたり、横方向の力を加えたりしないでください。
- ビニール片、ステッカー、粘着材などの異物をロッド部（メッキの棒部）に付着させないでください。



- 繊維などの付着を防ぐため、ロッド部を軍手などで触らないでください。

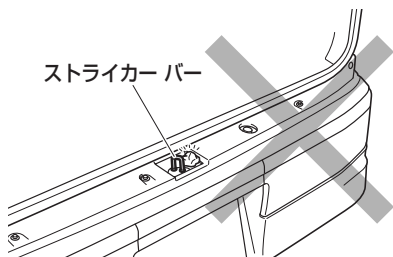


⚠注意

ストライカー バーについて

- リヤ ゲートを閉めるときはストライカー バーに異物がかみ込まないようにしてください。
バーが破損し、リヤ ゲートが閉まらなくなるおそれがあります。

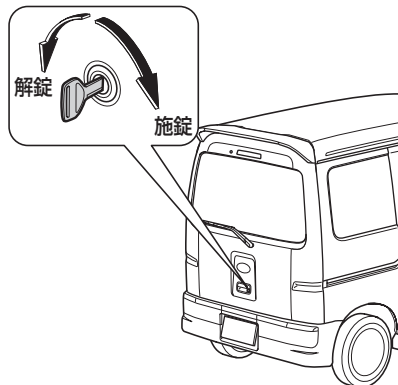
ストライカー バー



車外からの施錠、解錠

▼ 施錠方法

キーを差し込み、右に回すと施錠します。



▼ 解錠方法

キーを差し込み、左に回すと解錠します。



車を運転する前に 車体各部の開閉

車内からの施錠、解錠

○リヤ ゲート連動集中ドア ロック
運転席ドアのドア ロック ノブを操作すると、連動してリヤ ゲートが施錠、解錠されます。このとき助手席ドア、スライド ドアも同時に施錠、解錠されます。

▼ 施錠方法

運転席ドアのドア ロック ノブを押し込むと施錠できます。

▼ 解錠方法

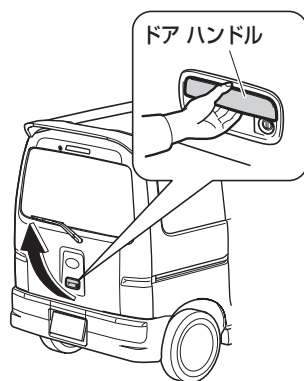
運転席ドアのドア ロック ノブを引き上げると解錠できます。



リヤ ゲートの開閉

▼ 開けるとき

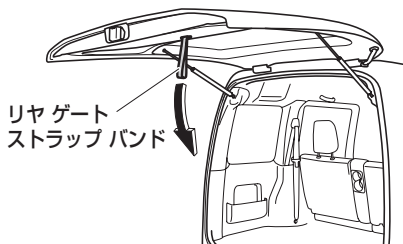
解錠したあとでドア ハンドルを引いて、リヤ ゲートをゆっくりといっぱいまで持ち上げます。





▼ 閉めるとき

1. リヤ ゲート ストラップ バンドを持ってリヤ ゲートを途中までゆっくりと下げます。



⚠ 注意

- リヤ ゲート ストラップ バンドを使ってリヤ ゲートを最後まで閉じようとししないでください。手や腕を挟み、けがをするおそれがあります。
2. バンドから手を離して、リヤ ゲートを上から手で押さえつけるように閉めます。
 3. 半ドアでないことを確認します。

ボンネット

▼ 操作を行う前に

⚠ 警告

- ボンネット内は大変高温になっていることがあるため、下記のことをお守りください。
- やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
- 点検したあとは、ボンネット内に工具や布を置き忘れていることを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをボンネット内に置き忘れていると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- ボンネットを閉めたあとは、ボンネットが確実にロックしたことを確認してください。ボンネットが確実に閉まっていないと、走行中に開くおそれがあり大変危険です。
- ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ボンネットを開けているとき風にあおられるとステーが外れボンネットが不意に閉まるおそれがあります。特に風の強い日はご注意ください。
- お子さまにボンネットの開閉はさせないでください。ボンネットは大変重く、開閉中うっかり手を離すと思わぬけがにつながるおそれがあります。



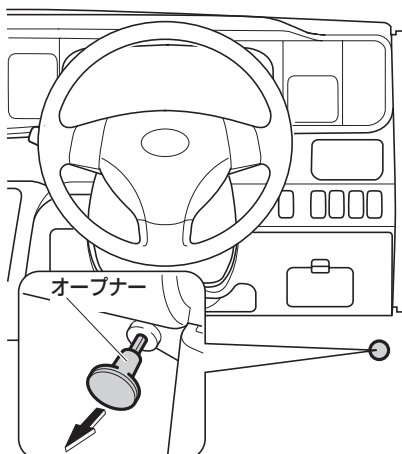


車を運転する前に 車体各部の開閉

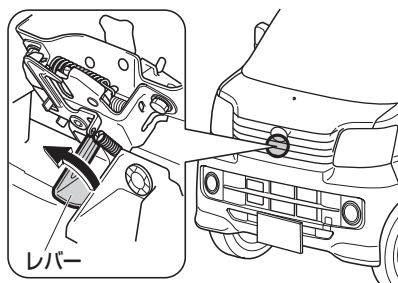
開けかた

▼ 操作手順

1. インストルメント パネル右下のオープナーを手前に引くと、ボンネット前部が少し浮き上がります。



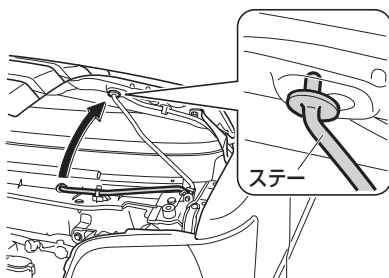
2. ボンネット前部中央にあるキャッチフックのレバーを矢印の方向に引き上げ、もう一方の手でボンネットを持ち上げます。



⚠ 注意

- エンジン回転中や停止直後は、レバーが熱くなっていることがあります。やけどや思わぬ事故につながるおそれがありますので、レバーを持つ前に必ず確認してください。

3. ボンネットをステーで確実に支えます。



⚠ 注意

- エンジン回転中や停止直後は、ステーが熱くなっていることがあります。やけどや思わぬ事故につながるおそれがありますので、ステーを持つ前に必ず確認してください。
- ステーを確実に固定穴に差し込んでください。ステーが外れると大変危険です。

📖 アドバイス

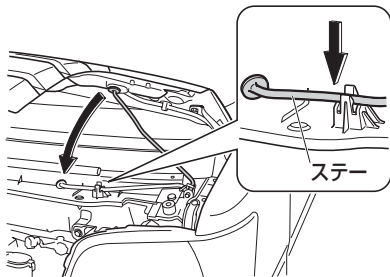
- ワイパーを起こしたままでボンネットを開けると、ワイパーがボンネットに当たり傷付くことがあります。



閉めかた

▼ 操作手順

1. ボンネットを片手で支えて、ステアーを元の位置へ戻します。



2. ボンネットを静かに下げ、手で押さえるようにして閉めます。

👉 アドバイス

- ボンネットを閉めるとき、手で強く押さえずにください。

エンジン ルームの開閉

⚠ 警告

- エンジン ルームは大変高温になっていることがあるため、下記のことをお守りください。
- やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
- 点検したあとは、エンジン ルーム内に工具や布を置き忘れていることを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジン ルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあります。
- エンジン ルームを閉めたあとは、前側のキャッチが確実にロックしたことを確かめてください。ロックが確実にされていないと、急ブレーキ時などにシートが動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジン ルームを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあります。
- お子さまにエンジン ルームの開閉をさせないでください。開閉中うっかり手を離すと大きなけがにつながるおそれがあります。



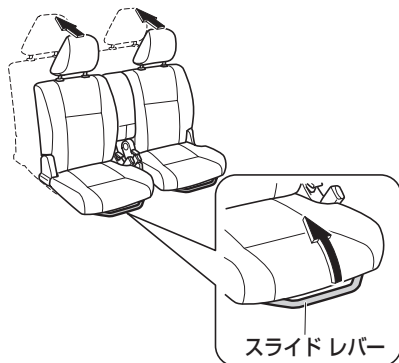


車を運転する前に 車体各部の開閉

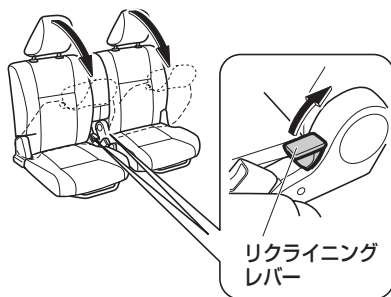
開けかた

▼操作方法

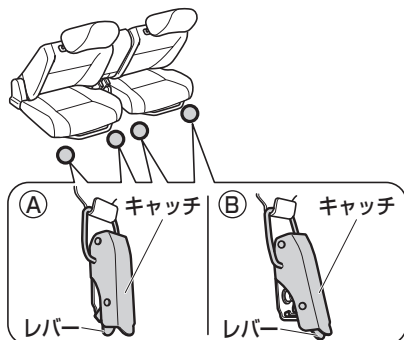
1. フロント シートのスライド レバーを引き、一番後ろまでスライドさせます。



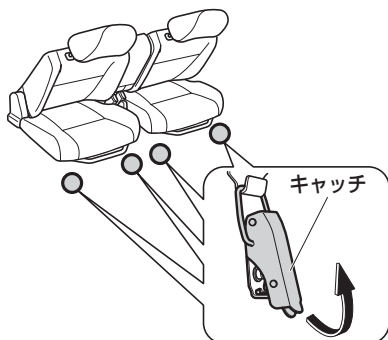
2. リクライニング レバーを矢印の方向に動かし、背当てを前に倒します。



3. シート前部のキャッチにあるレバーを動かし（Aの位置からBの位置）、ロックを解除します。

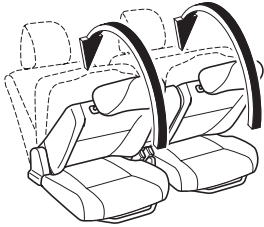


4. シート前部のキャッチを引き上げます。





5. シートを運転席、助手席の順に持ち上げ、リヤ シート側に倒します。



⚠注意

- 運転席側を先に持ち上げてください。助手席側を先に持ち上げると、アームレストに当たって、同時に運転席側も動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを持ち上げた状態でドアを閉めないでください。ドアの内側に当たるおそれがあります。

閉めかた

⚠注意

- シートを動かすときは、手などを挟まないように注意してください。

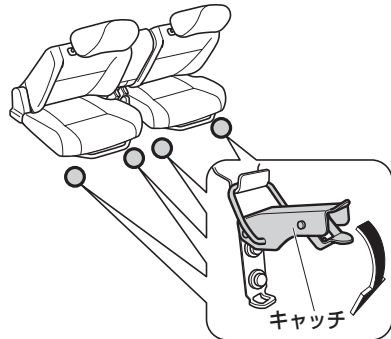
▼操作方法

1. フロント シートを車両前側に起こします。

⚠注意

- 助手席側を先に起こしてください。運転席側を先に起こすと、アームレストに当たって、同時に助手席側も動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

2. シート前部のキャッチをロックします。

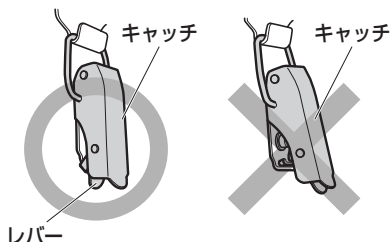




車を運転する前に 車体各部の開閉

アドバイス

- キャッチをロックするときは、レバーが押し込まれ、確実にロックしたことを確認してください。



3. 背当てを引き起こします。
4. スライド レバーを操作し、シート位置を調整します。

フューエル リッド

▼ 操作を行う前に

警告

- 燃料は引火しやすいため、下記のことを守らないと火災につながり、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンは必ず止めてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコを吸うなど、火気を近づけないでください。
- フューエル キャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花が引火するなどして、やけどのおそれがあります。
- フューエル キャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方お一人で行ってください。
- 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
- フューエル キャップを開ける際は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。



⚠警告

- フューエル キャップを少しゆるめた時に「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。
- 給油中に燃料がこぼれた場合はただちに給油を止め、こぼれた燃料を布きれなどでふき取ってください。
- こぼれた燃料が車の塗装面に付着した場合は水洗いをおすすめします。付着したままで放置すると、塗装面が劣化するおそれがあります。
- 給油口にほかの人を近付けないでください。
- 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。また、オートストップ作動後の継ぎ足し給油は行わないでください。給油口から燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油機によっては、早期にオートストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリンスタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
- 給油終了後、フューエル キャップを閉める場合「カチッ」という音が一度するまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。
- スバル指定フューエル キャップ以外は使用しないでください。燃料漏れなどを起こすおそれがあり危険です。
- その他ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- 燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、燃料の気化ガスを吸わないようにご注意ください。

⚠注意

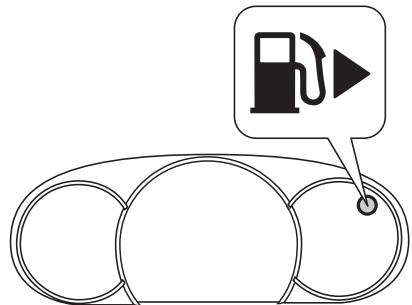
- 指定燃料は無鉛レギュラー ガソリンです。
- 給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
- 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま利用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。

フューエル リッドの位置

車体右側前部にあります。

📖 アドバイス

- メーター内にフューエル リッドの車両取り付け方向を示しています。



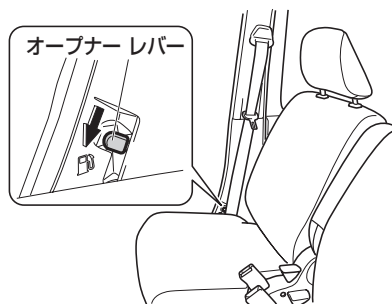


車を運転する前に 車体各部の開閉

フューエル リッドの開閉

▼開けるとき

運転席右下にあるフューエル リッド オープナー レバーを矢印の方向に動かします。



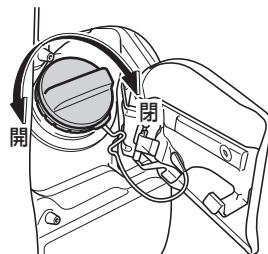
▼閉めるとき

リッドを押して閉めます。

フューエル キャップの開閉

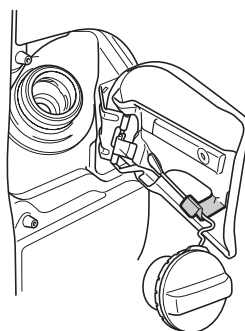
▼開けるとき

左に回して外します。



▼給油するとき

外したフューエル キャップをフューエル リッドの裏側にかけておくことができます。



▼閉めるとき

「カチッ」という音が一度するまで、右に回して閉めます。



パワー ウインドウ

スイッチ操作により運転席、助手席、後席のウインドウの開閉ができます。

▼ 操作を行う前に

⚠ 警告

- パワー ウインドウは大変強い力で開閉しますので、開閉するときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないよう注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあります。
- お子さまにパワー ウインドウの操作をさせないでください。開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。お子さまを乗せているときは、ロック スイッチを“OFF” にしてください。

🔧 アドバイス

- 運転席スイッチとほかのスイッチを同時に逆方向へ動かさないでください。故障の原因となるおそれがあります。
- ウインドウを完全に開閉した状態でスイッチを押し続けると故障の原因となりますので、操作完了後はすぐに手を離してください。
- パワー ウインドウの開閉はなるべくエンジン回転中に行ってください。エンジン停止時に行うと、バッテリーあがりの原因になります。
- ガラスが凍りついて固着したような状態でウインドウ スイッチの“開”または“閉”を連続操作しないでください。故障の原因となります。
- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると、運転席のウインドウ スイッチのマークが点灯します。
- スライド ドアが開いている状態では、スライド ドアのウインドウ ガラスを開閉することはできません。（パワー スライド ドア（左側）を除く）

パワー ウインドウ モーターの過熱保護機能について

- パワー ウインドウ モーターには、過熱保護機能を内蔵しています。パワー ウインドウ モーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、過熱保護機能が作動し一時的にパワー ウインドウが停止することがあります。数十秒経過すると、通常どおり使用できるようになります。

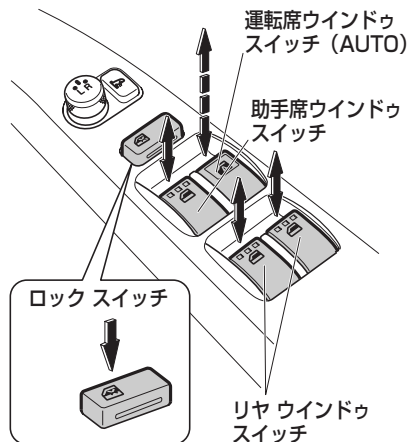




車を運転する前に 車体各部の開閉

運転席ドア側スイッチ

エンジン スイッチが“ON”の位置のとき、使用できます。



○運転席ウィンドウ スイッチ (AUTO)

▼操作方法

スイッチを軽く押し下げている間ウィンドウ ガラスは開き、軽く引き上げている間ウィンドウ ガラスは閉まります。

手を離すと、その位置で止まります。

「カチッ」と音がするまで押し下げる、または引き上げるとウィンドウ ガラスは自動的に全開、全閉します。途中で止めるときは、軽く逆方向にスイッチを操作します。

○助手席ウィンドウ スイッチ

▼操作方法

スイッチを押し下げている間ウィンドウ ガラスは開き、引き上げている間ウィンドウ ガラスは閉まります。

手を離すと、その位置で止まります。

○リヤ ウィンドウ スイッチ

▼操作方法

スイッチを押し下げている間ウィンドウ ガラスは開き、引き上げている間ウィンドウ ガラスは閉まります。

手を離すと、その位置で止まります。

○ロック スイッチ

▼操作方法

スイッチを押すと“OFF”になり、運転席ウィンドウ ガラス以外は開閉できなくなります。

もう一度押すと解除されます。



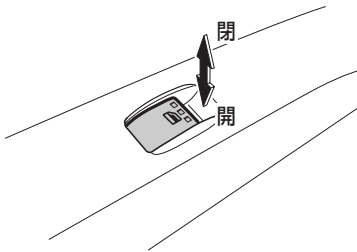
助手席ドア側スイッチ

エンジン スイッチが“ON”の位置のとき、使用できます。

▼操作方法

スイッチを押し下げている間ウィンドウガラスは開き、引き上げている間ウィンドウガラスは閉まります。
手を離すと、その位置で止まります。

○助手席

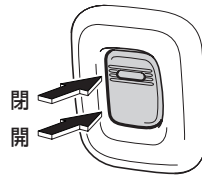


スライド ドア側スイッチ

エンジン スイッチが“ON”の位置のとき、使用できます。

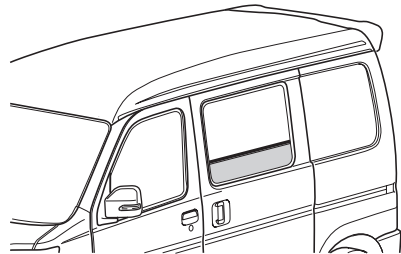
▼操作方法

スイッチの上側を押している間ウィンドウガラスは閉まり、スイッチの下側を押している間ウィンドウガラスは開きます。
手を離すとその位置で止まります。



アドバイス

- スライド ドアのウィンドウ ガラスは全開になりません。





車を運転する前に 車体各部の開閉

ウィンドウ反転機構（運転席）

運転席ウィンドウ ガラスを閉めるときに、窓枠とウィンドウ ガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ウィンドウ ガラスの上昇を停止し、自動的にウィンドウ ガラスが下降します。

アドバイス

- ウィンドウ反転機構は下記のときに作動します。
- 運転席ウィンドウ ガラスの開閉をスイッチにより自動（AUTO）で閉めているとき。
- 特に小さな物を挟み込んだとき、ウィンドウ反転機構が作動しないことがあります。
- 環境や走行条件により、異物を挟み込んだときと同じ衝撃がウィンドウ ガラスに加わると、ウィンドウ反転機構が作動することがあります。

初期設定

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断られたときは、パワー ウィンドウの初期設定をしてください。

パワー ウィンドウの初期設定がされていないと、下記の機能は作動しません。

- 運転席ウィンドウ ガラスの自動開閉
- ウィンドウ反転機構（運転席）

▼ 操作手順

1. エンジン スイッチを“ON”の位置にします。
2. 運転席ウィンドウ スイッチを引き上げ続け、ウィンドウ ガラスを全閉します。
3. 全閉後そのままの状態です約2秒間スイッチを引き上げ続けます。



車体各部の調整

ルーム ミラー

▼ 操作を行う前に

⚠注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。

▼ 調整のしかた

ルーム ミラー全体を動かして角度を調整します。



電動格納式ドア ミラー

ミラーの格納、角度調整をスイッチまたはノブの操作で行うことができます。

エンジン スイッチが“ACC”または“ON”の位置のときに使用できます。

▼ 操作を行う前に

⚠注意

- ミラーの操作を行う際は、ドアとミラーの間に手を挟まないように注意してください。
- ミラーを格納したまま走行しないでください。ミラーによる後方確認ができず事故につながるおそれがあります。

▼ 格納のしかた

ミラー格納スイッチを押すと、ミラーを格納することができます。もう一度押すと元に戻ります。走行するときは、必ず元に戻してください。

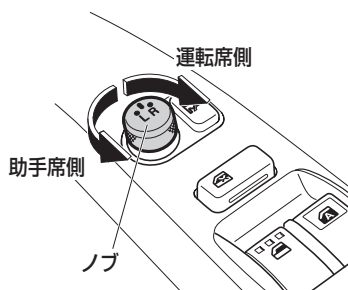




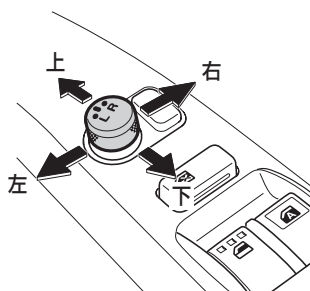
車を運転する前に 車体各部の調整

▼調整のしかた

1. ノブを調整する側にまわします。



2. ノブを動かして、ミラーの角度を調整します。



⚠注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。



アドバイス

- 調整するとき以外は、調整ノブを中立（中央）の位置に合わせておいてください。
- 調整ノブを中立（中央）の位置にすると操作することができません。

MEMO



車を運転するにあたって

車を運転するうえでの各部のはたらき、装置の使いかた、運転の方法について説明しています。

■ メーターのはたらき

メーター-----	118
-----------	-----

■ 表示灯、警告灯のはたらき

表示灯-----	122
警告灯-----	124

■ スイッチの使いかた

スイッチの名称-----	130
ライティング スイッチ-----	131
光軸調整ダイヤル-----	133
方向指示レバー-----	134
非常点滅表示灯スイッチ-----	134
ワイパー・ウォッシャー スイッチ----	135
リヤ ウィンドウ	
デフォッガー スイッチ-----	137
フォグ ランプ スイッチ-----	137
ホーン スイッチ-----	138

■ 運転装置の使いかた

エンジン スイッチ-----	139
駐車ブレーキ-----	140
ターボ車-----	141
AWD車-----	141

■ エンジンのかけかた

オートマチック車-----	143
---------------	-----

■ オートマチック車の運転

オートマチック トランスミッション-----	146
セレクト レバーの操作-----	148
運転のしかた-----	151



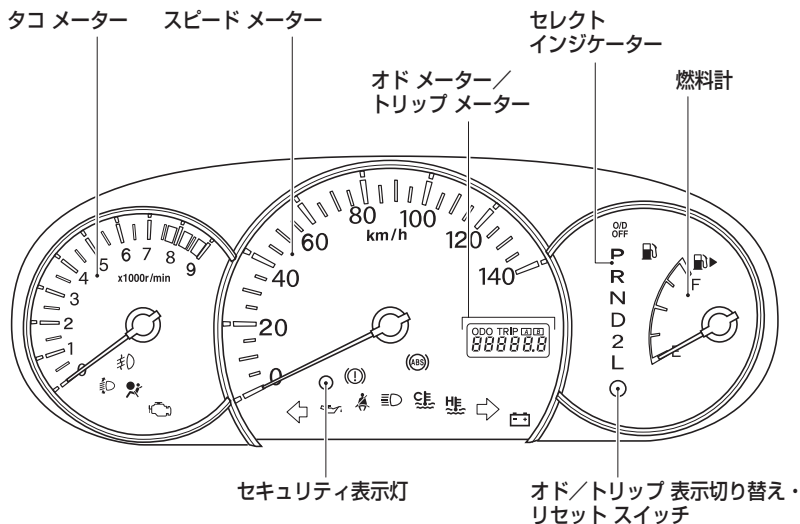
車を運転するにあたって メーターのはたらき

メーターのはたらき

メーター

ルミネセント メーターを除く

グレードの違い、オプションも含まれています。



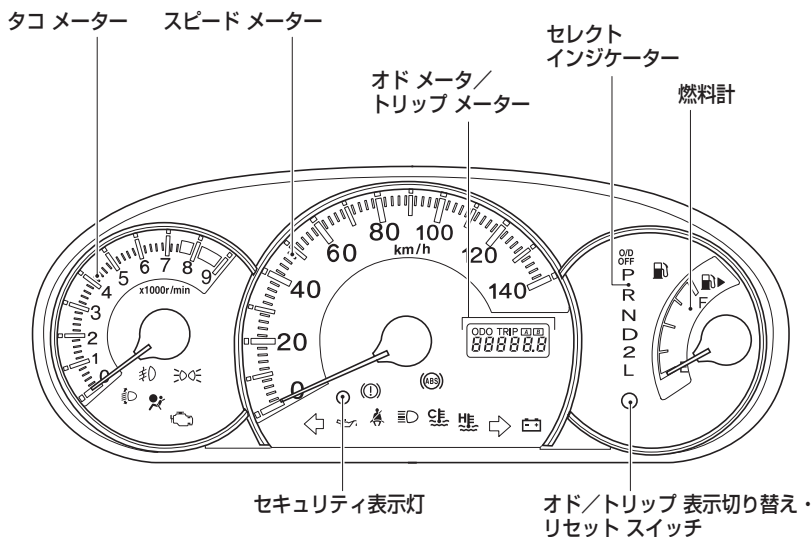
○メーター照明

車幅灯に連動して点灯・消灯をします。



ルミネセント メーター

グレードの違い、オプションも含まれています。



○メーター照明

- エンジン スイッチが“ON”の位置のときは、車幅灯の点灯・消灯に関わらず点灯します。
- メーター照明が点灯しているときに、車幅灯を点灯させると、メーター照明が減光します。

👉 アドバイス

- ライトの点灯・消灯の確認は、ライティング スイッチ表示灯で行ってください。
(ライティング スイッチ表示灯→ 122 ページ)
- メーター照明の照度は調整することができます。また、車幅灯を点灯させたときに、減光しないようにすることもできます。

(照度調整→ 121 ページ)



車を運転するにあたって メーターのはたらき

スピード メーター

走行速度をkm/h で示します。

タコ メーター

1 分間当たりのエンジン回転数を示します。

⚠注意

- 指針が赤色表示域（エンジンが許容回転数を超える範囲）に入らないよう運転してください。赤色表示域に入ると、エンジンが損傷するおそれがあります。

燃料計

エンジン スイッチが“ON” の位置のとき、燃料残量を表示します。

燃料残量が約 7.5ℓ以下になると、燃料残量警告灯が点灯します。

（燃料残量警告灯→ 128 ページ）

⚠注意

指針が“E” に近付いたり、燃料残量警告灯が点灯した場合

- ただちに燃料を給油してください。
燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。



オド メーター／ トリップ メーター

エンジン スイッチが“ON”の位置のとき、表示されます。

○オド メーター（積算距離計）

走行した総距離を表示します。

○トリップ メーター（区間距離計）

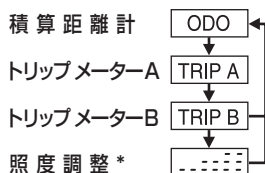
リセットした地点からの走行距離を表示します。

トリップ メーターは、同時に2つの区間の走行距離を表示することができます。

○オド／トリップ表示切り替え・リセット スイッチ

▼表示を切り替えるには

スイッチを押すごとに、表示が切り替わります。



* 自発光式メーターで、車幅灯が点灯しているときに表示されます。

▼トリップ メーター表示をリセットするには
リセットするトリップ メーター（AまたはB）を表示させ、スイッチを押し続けると、表示が“0.0”になります。

照度調整

ルミネセント メーター

照度調整表示中、オド／トリップ表示切り替え・リセット スイッチを約1秒以上押し続けている間、メーター照明の明るさが下表のように変わります。

明るさ	表示	照度レベル
明るい ↑	---	レベル1
	---	レベル2
	--	レベル3
↓ 暗い	-	レベル4

アドバイス

- エンジン スイッチが“ON”の位置で、車幅灯が点灯しているときのみ、照度調整を表示させることができます。
- “レベル 1”に設定すると、車幅灯を点灯させたときに、メーター照明が減光しません。



表示灯、警告灯のはたらき

表示灯

車両のさまざまな状態をメーター内に表示します。

⚠️注意

- 表示灯によっては、点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
この場合、それぞれの表示灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- 点灯操作を行っても、表示灯が点灯しないときは、スバル販売店で点検を受けてください。

方向指示器表示灯



○方向指示器表示灯

エンジン スイッチが“ON”の位置で、方向指示灯を点滅させると、同時に点滅します。

○非常点滅表示灯

エンジン スイッチの位置に関係なく、非常点滅表示灯を点滅させると、同時に点滅します。

👉アドバイス

点滅時間が異常に速くなった場合

- 方向指示灯（非常点滅表示灯）の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

ハイビーム/パッシング表示灯



エンジン スイッチの位置に関係なく、ヘッド ランプを上向きの状態にすると点灯します。

フォグ ランプ表示灯

オプション/グレード別装備



エンジン スイッチの位置に関係なく、フォグ ランプを点灯させると点灯します。

（フォグ ランプ スイッチ
→ 137 ページ）

ライティング スイッチ表示灯

ルミネセント メーター



エンジン スイッチの位置に関係なく、車幅灯が点灯しているときに点灯します。



水温表示灯



- エンジン スイッチが“ON”の位置で、エンジン冷却水温が低いときに点灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、暖機を十分続けていても、水温センサー等に異常があると点灯したままになります。

⚠注意

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。

暖機を十分続けていても点灯したままの場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。



アドバイス

- エンジン冷却水温が異常に高くなったときは、水温警告灯が点滅・点灯します。

(水温警告灯→ 126 ページ)

セキュリティ表示灯

(盗難警報装置→ 80 ページ)

セレクト インジケーター

P
R
N
D
2
L

エンジン スイッチが“ON”の位置のとき作動します。使用中のセレクト レバーの位置が点灯します。

O/D OFF表示灯

O/D
OFF

エンジン スイッチが“ON”の位置で、オーバー ドライブを“OFF”の状態にすると点灯します。

(オーバー ドライブ スイッチ
→ 150 ページ)

⚠注意

点滅した場合

- オートマチック トランスミッションシステムの異常が考えられます。
ただちにスバル販売店で点検を受けてください。
(オートマチック トランスミッション
警告灯→ 127 ページ)



車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

警告灯

さまざまなシステムの異常や、安全運転に関わる項目をメーター内に警告します。

⚠注意

- 警告灯が点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
この場合、それぞれの警告灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- エンジン スイッチを“ON”の位置にしても警告灯が点灯（または点滅）しないときは、スバル販売店で点検を受けてください。

エンジン警告灯



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン電子制御システムに異常があると点灯、または点滅します。

⚠注意

点灯・点滅した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

オイル プレッシャー警告灯



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン内部を潤滑しているエンジン オイルの圧力が低下すると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- そのまま走行すると、エンジンが故障するおそれがあります。
ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、スバル販売店にご連絡ください。
- エンジン オイルの量が少なくなると警告灯が点灯します。走行中に点灯したときは、エンジンを故障させないために高回転まで回らなくなります。
ただちにスバル販売店にご連絡ください。



アドバイス

- オイル プレッシャー警告灯は、オイル量を示すものではありません。オイル量の点検は、オイル レベル ゲージで行ってください。（オイル量の点検方法は、別冊の「メンテナンス ノート」参照）



チャージ警告灯



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、充電系統に異常（ベルトののび、損傷など）があると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。

ブレーキ警告灯



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、エンジンを始動して、駐車ブレーキを完全に解除すると消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、下記の場合に点灯します。

▼点灯理由

- 駐車ブレーキが完全に解除されていないとき
- ブレーキ液の量が不足しているとき
- EBD制御に異常があるとき
(ABS (EBD機能付) → 72 ページ)

▼駐車ブレーキが解除されている場合

エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

○警告ブザー

駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h以上で走行すると、ブザーが鳴ります。

駐車ブレーキを解除すると、ブザーが鳴りやみます。



車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

△注意

- 制動時、常に異音（キーキー音など）が発生するときは、ブレーキパッドの摩耗が考えられます。
ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

エンジン回転中、駐車ブレーキを解除しても、点灯したまま消灯しない場合

- ブレーキ液量の不足が考えられます。
この場合、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。
効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏み、ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。

ABS警告灯と同時に点灯した場合

- 強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。

水温警告灯



- エンジンスイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”の位置で、エンジン冷却水温が異常に高くなると点滅し、その後、さらに水温が高くなると点灯に変わります。

△注意

点滅・点灯した場合

- エンジン冷却水温の異常な上昇によるオーバーヒートが考えられます。
ただちに安全な場所に停車して、処置を行ってください。

（オーバーヒートの処置
→ 199 ページ）



オートマチック トランスミッション警告灯



エンジン スイッチが“ON”の位置で、オートマチック トランスミッション システムに異常があると点滅します。

(O/D OFF表示灯→ 123 ページ)

⚠注意

点滅した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

シート ベルト警告灯

運転席



- エンジン スイッチが“ON”の位置で、運転席側シート ベルトを装着していないと点滅します。
- シート ベルトを着用すると消灯します。

○警告ブザー

シート ベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。



アドバイス

- 1 度警告ブザーが鳴ると、たとえ約 20km/h以下で走行しても、約 2 分間鳴り続けますので、走行するときは必ずシート ベルトを着用してください。
- ブザーが鳴り始めてから、約 30 秒後に断続音の速さが変わります。



車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

燃料残量警告灯



エンジン スイッチが“ON”の位置のとき、燃料残量が約 7.5ℓ以下になると、燃料残量警告灯が点灯します。

(燃料計→ 120 ページ)

⚠注意

点灯した場合

- ただちに燃料を給油してください。
燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。



アドバイス

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

ABS警告灯



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、ABSに異常があると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- 通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、スバル販売店で点検を受けてください。

ブレーキ警告灯と同時に点灯した場合

- ABSに異常があるだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。



アドバイス

- エンジン始動後に警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、スバル販売店で点検を受けてください。



SRSエアバッグ警告灯



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、下記のシステムに異常があると点灯します。

▼ 異常があると点灯するシステム

- SRSエアバッグ
(SRSエアバッグ→ 65 ページ)
- プリテンショナー機構
(プリテンショナー機構→ 52 ページ)

⚠注意

点灯した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

オート レベライザー警告灯

HIDランプ装着車



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、ロービームのオートレベリング機能に異常があると点灯します。
(ロービーム・オートレベリング機能 → 132 ページ)

⚠注意

走行中に点灯した場合

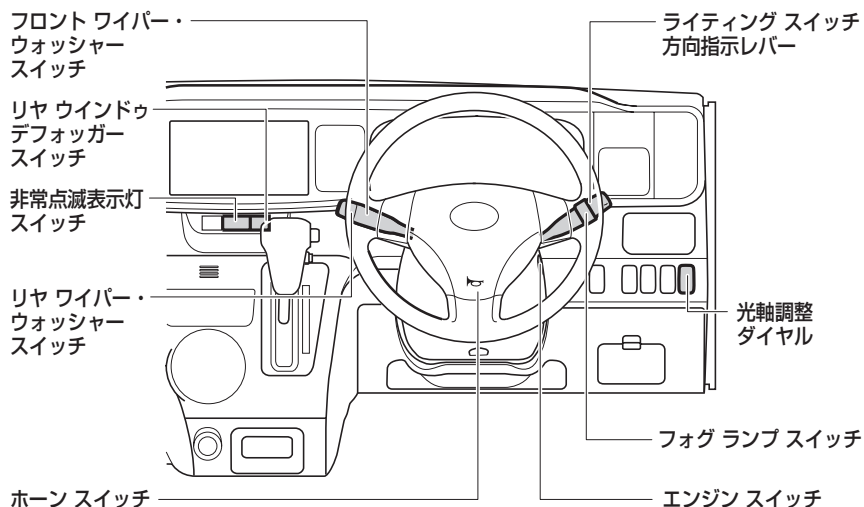
- ただちに安全な場所に停車し、いったんエンジンを止めてください。
再度エンジンスイッチを“ON”の位置にしたとき、警告灯が数秒間点灯したあとに消灯すれば、そのまま走行することができます。
消灯しないときや、再び点灯するときは、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。



スイッチの使いかた

スイッチの名称

グレードの違い、オプションも含まれています。



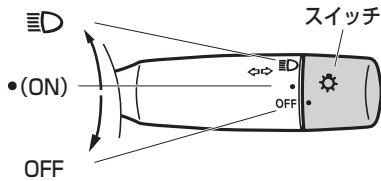


ライティング スイッチ

ランプの点灯

▼操作方法

スイッチを回すと、下表のランプ類が点灯します。



ランプ	前照灯	車幅灯・番号灯・尾灯・計器照明灯
スイッチ位置		
OFF	—	—
● (ON)	—	点灯
≡D	点灯	点灯

⚠注意

バッテリーあがりを防止するために

- エンジン停止中は、ランプ類を長時間点灯しないでください。また、車から離れるときは、必ずライティング スイッチを“OFF”にしてください。

ランプの消灯

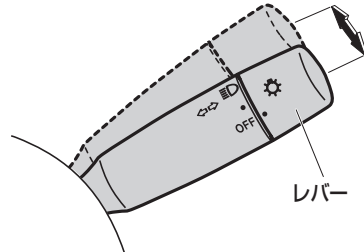
▼操作方法

スイッチを“OFF”の位置にします。

ヘッド ランプの切り替え

▼操作方法

ライティング スイッチが“≡D”の位置のときレバーを押すと、前照灯が上向き（ハイ ビーム）になり、戻すと下向き（ロー ビーム）になります。



⚠注意

- 対向車のあるときや市街地走行のときは、対向車や通行人の迷惑となり危険ですので前照灯を下向きにして走行してください。

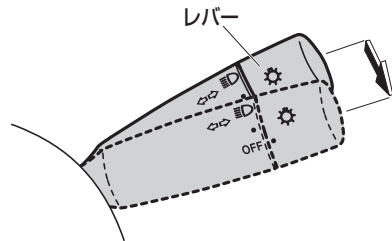
▼一時的に使用する場合



アドバイス

- 前照灯が上向きのときは使用できません。

レバーを手前に引いている間、前照灯が上向きに点灯します。





車を運転するにあたって スイッチの使いかた

ランプ消し忘れ警告ブザー

ランプを点灯したままで、エンジン スイッチからキーを抜き、いずれかのドアを開けると、ブザー（連続音）が鳴りランプの消し忘れを知らせます。

HIDランプ

オプション/グレード別装備

HIDランプは、ランプ管内のガスと金属ヨウ化物物を使って発光させ、通常のランプより白い光と伸び、広がりのある配光を持つランプです。

⚠警告

- HIDランプのバルブ・コネクター・電源回路・光軸調整部分を分解したり、取り外したりしないでください。HIDランプは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いをすると、感電するおそれがあり危険です。

ランプを交換・修理・破棄するときは、必ずスバル販売店にご相談ください。

📖 アドバイス

- HIDランプが点滅を繰り返すようになると電球の寿命が考えられます。スバル販売店で点検を受けてください。
- 衝突などでランプ周りに衝撃を受けた場合は点灯装置も衝撃を受け正常に作動しなくなっているおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。
- システムの異常により電圧がHIDランプの作動電圧範囲から外れたときは、電圧が正常に復帰次第、再点灯します。
- 点灯中に作動電圧範囲から外れたときは消灯し、電圧が正常に復帰次第、再点灯します。
- 点灯操作をするときに作動電圧範囲から外れているときは、ライティングスイッチを操作しても点灯しません。

○ロー ビーム・オート レベリング機能

乗員数や積載量などの車両姿勢の変化に対して、ヘッド ランプの光軸（光の照らす方向）の上下方向を自動的に調整する機能です。

📖 アドバイス

- エンジンを始動して、初めてヘッドランプを点灯したとき、システムの正常な作動をチェックしているため、ヘッド ランプの光軸が動くことがありますが、異常ではありません。
- ヘッド ランプの光軸に異常を感じたときは、スバル販売店で点検を受けてください。



光軸調整ダイヤル

ハロゲン ヘッド ランプ装着車

ヘッド ランプが点灯しているときに使用できます。

乗員数や積載量によって車両の姿勢が変化し、ヘッド ランプの光軸（光の照らす方向）が上に向いた場合、ダイヤルを回すことで光軸を下向きに調整することができます。

通常はダイヤルを“0”（光軸が一番上向きの位置）で使います。



アドバイス

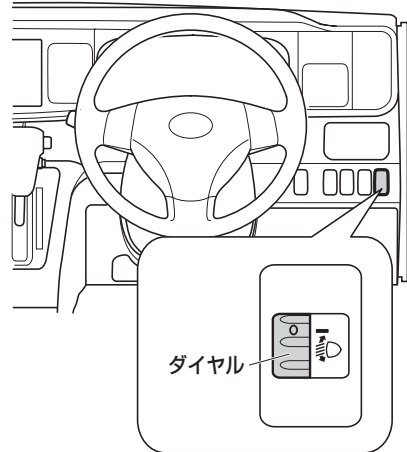
HIDランプ装着車

- ヘッド ランプの光軸は自動的に調整されるため、光軸調整ダイヤルは装着されていません。

▼ 操作方法

ダイヤルを回転させると、ヘッド ランプの光軸が上下に変わります。

ダイヤルの数字が大きいほど下向きになります。



アドバイス

- 乗員数などに応じて、下表を目安にダイヤルを調整してください。

乗車や荷室の 積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席と助手席に乗車時	0
4名乗車時	0.5
4名乗車で荷室満載時	1
運転席のみ乗車で 荷室満載時	1.5

- 乗員や荷物を降ろしたあとは、ダイヤルを“0”に戻してください。
- 車検などで光軸の調整をするときは、ダイヤルを“0”にしてから行ってください。



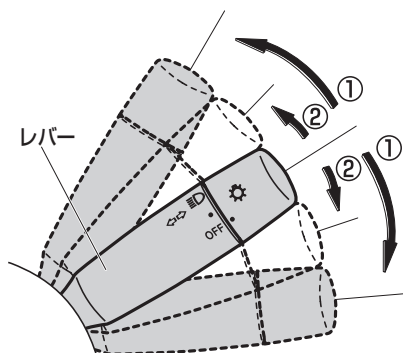


車を運転するにあたって スイッチの使いかた

方向指示レバー

▼ 操作方法

レバーを①の位置まで上下に操作すると、方向指示灯およびメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。レバーはハンドルを戻すと自動的に戻ります。車線変更などのときには、レバーを②の位置まで軽く上下に押すと点滅し、手を離すと消灯します。



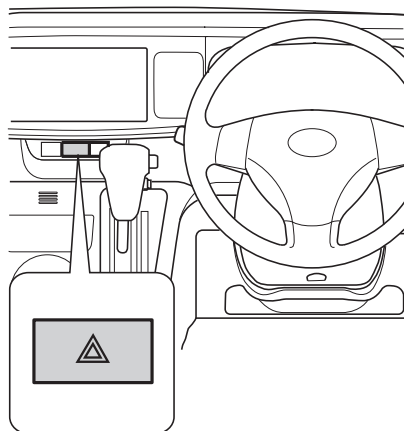
アドバイス

- ハンドルの切れ角が小さいと、レバーが自動的に戻らないときがあります。手で戻してください。
- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

非常点滅表示灯スイッチ

▼ 操作方法

スイッチを押すと左右の方向指示灯が点滅します。もう一度押すと元に戻ります。



注意

- 故障などの非常時に、やむを得ず路上駐車するとき以外はむやみに使用しないでください。
- 使用後はスイッチを確実に戻してください。スイッチを戻さないと方向指示灯がはたらきません。
- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因となります。



ワイパー・ウォッシャー スイッチ

△注意

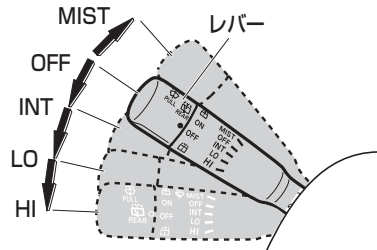
- 空ぶきはガラス面に傷を付けますので、ウォッシャー液を噴射させてからワイパーを作動させてください。
- フロント ワイパー アームを起こすときは、必ず運転席側のワイパー アームから起こしてください。また、もとに戻すときは助手席側のワイパー アームから戻してください。
- 寒冷時、または長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパー ゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。張り付いたまま作動させるとワイパー モーターが損傷し、故障の原因になります。
- 積雪などの障害物によりワイパーが途中で止まってしまうときは、障害物を取り除いてからワイパーを作動させてください。無理に作動させるとワイパー モーターに負担がかかり故障の原因となります。
- ウォッシャー液を連続して 20 秒以上噴射させないでください。またウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを作動させないでください。モーターに負担がかかり故障の原因となります。
- 寒冷時は、ガラスが暖まるまで、ウォッシャー液を吹き付けしないでください。吹き付けられた液が凍結し、視界をさまたげることがありますので、先にガラス面を暖めてください。

フロント

エンジン スイッチが“ACC”または“ON”の位置のとき使用できます。

○ワイパーの使いかた

レバーを下げると、ワイパーが作動します。



MIST	一時作動
OFF	停止
INT	間欠作動
LO	低速作動
HI	高速作動

🔧 アドバイス

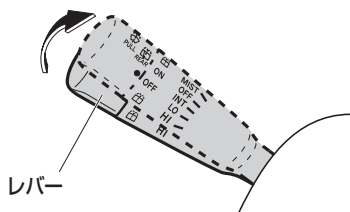
- MIST（一時作動）はレバーを“OFF”から押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すと“OFF”に戻ります。
- ワイパーは、雪がたまったときにワイパーの反転位置を切り替える機構になっています。この機構の作動中に「コン、コン」という音が発生しますが、異常ではありません。



車を運転するにあたって スイッチの使いかた

○ウォッシャー液の噴射

レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。



アドバイス

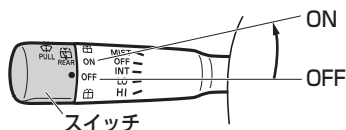
- フロント ウォッシャーを作動させると連動してフロント ワイパーが低速作動します。

リヤ

エンジン スイッチが“ACC”または“ON”の位置のとき使用できます。

○ワイパーの使いかた

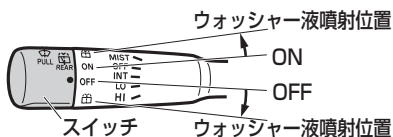
スイッチを“ON”の位置に回すと、リヤワイパーが作動します。



○ウォッシャー液の噴射

リヤ ワイパー作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、スイッチを“ON”の位置から上側の“ウォッシャー液噴射位置”に回します。

また、スイッチを“OFF”の位置から下側の“ウォッシャー液噴射位置”に回しても噴射します。



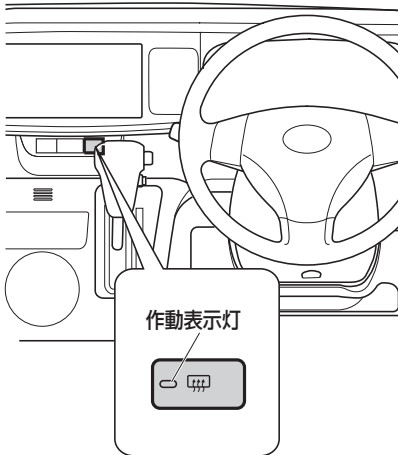


リヤ ウインドウ デフォッガー スイッチ

リヤ ウインドウ ガラスの曇りを取るときに使用します。

▼操作方法

スイッチを押すと作動表示灯が点灯し、リヤ ウインドウ ガラスが暖められ曇りが取れます。作動を停止するときには、スイッチをもう一度押してください。作動表示灯も消灯します。



👉 アドバイス

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因になります。
- リヤ ウインドウ ガラス内面を清掃するときは、電熱線を傷付けないでください。

フォグ ランプ スイッチ

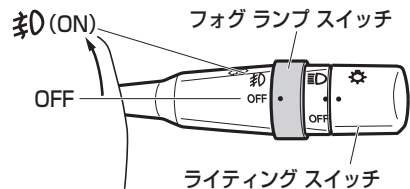
オプション/グレード別装備

夜間の雨、霧のような天候のときにご利用ください。

▼操作方法

車幅灯が点灯しているとき、スイッチを“ON”にすると、メーター内のフォグランプ表示灯が点灯し、フォグランプが点灯します。

消灯するときには、スイッチを“OFF”にしてください。フォグランプ表示灯も消灯します。





車を運転するにあたって スイッチの使いかた

ホーン スイッチ

ハンドルのマーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。



アドバイス

- 緊急時、非常時以外は、むやみに使用しないでください。



運転装置の使いかた

エンジン スイッチ

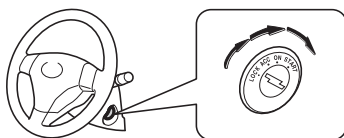
⚠警告

- 走行中は、エンジン スイッチにさわらないでください。誤って操作し、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

エンジンをかけるときやオーディオを聞くとときなどに使用します。

⚠注意

- エンジンを止めた状態で、キーを“ON”または“ACC”の位置にしたまま長時間放置しないでください。バッテリーあがりの原因になります。



LOCK	キーを抜き差しする位置です。キーを抜くとハンドルがロックされます。
ACC	エンジンを止めたまま、オーディオが聞ける位置です。
ON	エンジン回転中の位置です。
START	エンジンを始動するときの位置です。手を離すと自動的に“ON”の位置に戻ります。

⚠注意

- エンジン始動後は、すぐにキーから手を離してください。“START”の位置にしたまましていると、エンジンを損傷するおそれがあります。

👉 アドバイス

- キーは確実にエンジン スイッチに差し込んで操作してください。

ハンドル ロックを解除するには

- キーが“LOCK”から“ACC”の位置に軽く回らないときは、ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。

キー インター ロック

誤操作防止のため、セレクト レバーがPレンジ以外有的时候に、エンジン スイッチが“LOCK”の位置まで回らないようにする装置です。

▼ 操作方法

エンジン スイッチを“ACC”から“LOCK”の位置にするときは、セレクト レバーをPレンジにしてから行います。

⚠注意

- Pレンジ以外では、キーは“LOCK”位置まで回すことができないため、キーを抜くことができません。





車を運転するにあたって 運転装置の使いかた

駐車ブレーキ

△注意

- 走行するときは、駐車ブレーキを完全に解除してください。また、ブレーキ警告灯が消灯していることを必ず確認してください。

駐車ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキが熱を持ち、ブレーキの効が悪くなったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼かけるとき

- 右足でブレーキ ペダルを踏みながら、左足でパーキング ペダルをいっぱいまで踏み込みます。
- エンジン スイッチが“ON”の位置のときは、ブレーキ警告灯が点灯します。

▼解除するとき

- 右足でブレーキ ペダルを踏みながら、左足でパーキング ペダルを踏み込みます。「カチッ」という音がしたらパーキング ペダルをゆっくり戻します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置のときは、ブレーキ警告灯が消灯します。



△注意

- 駐車ブレーキをさらに強くかける必要がある場合はブレーキ ペダルをしっかり踏み、一度駐車ブレーキを解除させ、完全にパーキング ペダルを戻してからもう一度駐車ブレーキをかけ直してください。
- 駐車ブレーキをかけるとき、解除するときは必ずペダルの位置を目で確認してから操作してください。



アドバイス

- 駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h以上で走行すると、警告ブザーが鳴ります。

（ブレーキ警告灯→ 125 ページ）

坂道に駐車するとき

▼操作方法

坂道に駐車するときは、駐車ブレーキをかけるとともに、セレクト レバーをRレンジに入れます。さらに輪止めもしてください。



ターボ車

△注意

- エンジン始動直後（エンジンが冷えているとき）は、エンジンの急激な空ぶかし、または急加速をしないでください。
- エンジン回転数がタコメーターの赤色表示域（エンジン許容回転数以上）に入らないように運転してください。
- 定期的なオイル交換、オイル フィルターの交換を必ず行ってください。

高速走行、登坂走行直後にエンジンを停止するときは、必ず約 1 分程度アイドリング状態にしてからエンジンを止めてください。

運転状態	アイドリング時間
一般走行後	—
高速走行後、登坂走行後	約1分

AWD車

オプション/グレード別装備

△注意

- AWD車はどのような所でも走れる万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転に心がけてください。
また、オフロード走行や、ラリー走行を目的とした車ではありません。タイヤがはまり込むような深い砂地、海水、水たまりなどに乗り入れないでください。やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。渡河などの水中走行をすると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。万一、水中に浸かってしまったときは、必ずスバル販売店で点検を受けてください。
- AWD車は雪道や水たまりなどの滑りやすい路面ですぐれた走行性能を発揮しますが、極端な急ブレーキ、急ハンドルはさけて、十分に余裕を持って走行してください。

万一脱輪したときは

- いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



フル タイムAWDシステム

アドバイス

- フル タイムAWDシステムは、FWDと2WDを切り替えるモード切り替えスイッチはありません。またAWD表示灯もありません。

AWD車のタイヤ交換

AWD車は 4 つのタイヤに駆動力がかかるため、タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。

タイヤの状態には細心の注意をしてタイヤの点検は忘れずに行ってください。

注意

- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤ交換をするときは、4 輪とも同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、および同一トレッド パターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。

アドバイス

- タイヤ空気圧の点検は最低でも月に 1 回行ってください。タイヤの空気圧が前輪と後輪で大きく異なるときは、車の性能が十分に発揮できません。（タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。）
- タイヤのローテーションは 5,000kmごとに行ってください。タイヤ間で摩耗差があると車の性能が十分に発揮できません。
- タイヤ チェーンは必ず後輪に装着してください。



エンジンのかけかた

オートマチック車

エンジン始動の準備

▼操作方法

1. 駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーがPレンジの位置にあることを確認します。
2. ペダル類が確実に踏め、ハンドル操作が楽にできるようにシートの位置を調整します。
3. アクセル ペダルおよびブレーキ ペダルを右足で踏み位置を確認します。



エンジンをかけるとき

▼操作方法

1. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだまま、エンジン スイッチを“START”の位置まで回します。

⚠注意

- エンジン始動時は、必ず運転席に座ってエンジンをかけてください。窓越しからエンジンをかけると車が急に動き出すおそれがあり危険です。
- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。

📖 アドバイス

- バッテリーあがりを防ぐため、エンジン スイッチを連続して 10 秒以上“START”の位置にしないでください。
- エンジンの始動性を良くするためにランプ、リヤ ウインドウ デフォグガー、ヒーター ファンなどのスイッチは“OFF”にしてください。
- 外気温が -20°C 以下のとき、エンジン スイッチを“START”の位置にしてからエンジンを始動させるまでの時間が長くなります。確実に始動させるには、かかったと思って、さらに 3 秒程度、手を離さず“START”の位置で保持してください。
- エンジン始動後は、各警告灯が消灯するのを確認してください。（ただしブレーキ警告灯は除きます）
- エンジン始動後は、自動制御装置のはたらきによりエンジン回転が高くなりますが、暖機完了後、自動的にアイドル回転に下がります。



車を運転するにあたって エンジンのかけかた

○スターター コントロール

システム

スターター コントロール システムはエンジン寒冷時の始動操作を補助するシステムです。

エンジン冷却水温が 15℃以下のとき、エンジンが始動するまでの間、自動的にスターターを回す時間を延長します。エンジン スイッチを“START”の位置で保持する必要はありません。

アドバイス

- スターター コントロール システム作動中にエンジン始動を中止したいときは、エンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”の位置にしてください。
- バッテリーあがりを防ぐため、スターター コントロール システム作動中に始動操作を中断することがあります。
- エンジン冷却水温が 15℃以上のときは、スターターを回す時間は延長されません。
- 外気温が 15℃以下でも、エンジン冷却水温が 15℃以上のときは、スターターを回す時間が延長されませんので、エンジンが始動するまで、エンジン スイッチを“START”の位置で保持してください。



エンジンを止めるとき

▼ 操作方法

エンジンを止めるときは、アイドリング
回転にしてからエンジン スイッチを
“ACC” または “LOCK” の位置にします。

⚠ 注意

- ターボ車は、高速および登坂走行の直後にエンジンを止めるときは、必ずアイドリングを 1 分程度行ってください。



オートマチック車の運転

オートマチック トランスミッション

オートマチック車は、ギヤ チェンジやクラッチ ペダルの操作から解放され、運転は大変楽になりますが、いくつかの特性があります。オートマチック車の運転の基本を理解し、正しく操作する習慣を身に付けてください。

オートマチック車の特性

○クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがP、Nレンジ以外の位置で、動力がつながった状態になりアクセル ペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象のことをいいます。

△注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジンの回転が上がり（アイドル アップ）、クリープ現象が強くなります。その際、ブレーキペダルの踏みごたえに変化がでることがありますので、ブレーキ ペダルはしっかりと踏んでください。



アドバイス

- 停車中は、平坦路であっても車が動かないように、ブレーキ ペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用し、アクセル ペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。

○キック ダウン

走行中にアクセル ペダルを踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して強く加速させることができます。これをキック ダウンといいます。

△注意

- 滑りやすい路面やカーブ走行中では、急激なアクセル ペダルの操作はさけてください。車がスリップするおそれがあります。



アドバイス

- 追い越しなど強い加速が必要とするときや、高速道路での合流が楽に行えます。



セレクト レバー

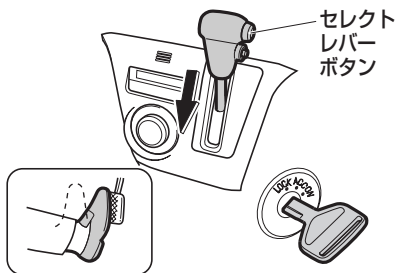
セレクト レバーの操作は確実に行ってください。

○シフト ロック装置

誤操作防止のため、シフト ロック装置が付いています。

▼シフト ロック解除方法

シフト ロックを解除する場合は、エンジン スイッチを“ON”または“ACC”の位置にし、ブレーキ ペダルを踏むとセレクト レバーの操作ができます。



📖 アドバイス

- セレクト レバーはブレーキ ペダルを踏みながらでないと、**P**レンジからほかのレンジへは動きません。
- エンジン スイッチが“LOCK”の位置では、ブレーキ ペダルを踏んでもセレクト レバーは**P**レンジからほかのレンジへは動きません。
- 先にセレクト レバー ボタンを押した状態で、ブレーキ ペダルを踏むと、セレクト レバーが動かない場合があります。一度ボタンから手を離し、ブレーキ ペダルを先に踏んでから操作してください。

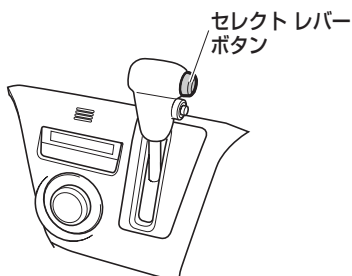


車を運転するにあたって オートマチック車の運転

セレクト レバーの操作

インパネ センター シフト式 4速オートマチック トランスミッション

セレクト レバー部には、セレクト レバーを動かすときに使用するセレクト レバー ボタンが装着されています。



▼ 操作をする前に

⚠警告

- **Pレンジ**から**Rレンジ**へセレクト レバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、ブレーキ ペダルを踏みながら、セレクト レバー ボタンを押して動かしてください。

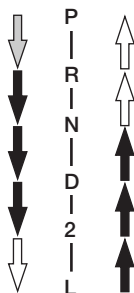
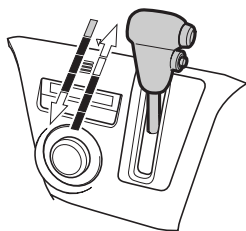
○各位置のはたらき

Pレンジ	駐車するとき、エンジンを始動するとき、およびキーを抜くときの位置
Rレンジ	車を後退させるときの位置 (車が完全に止まってから入れてください)
Nレンジ	一時停止などで動力を伝えない位置
Dレンジ	通常の走行をする位置 [前進] (1速から4速*まで自動的に変速されます)
2レンジ	下り坂走行するときの位置 [前進] (エンジン ブレーキが必要なときの位置)
Lレンジ	急な下り坂走行するときの位置 [前進] (強いエンジン ブレーキが必要なときの位置)

*オーバー ドライブがOFFのときは3速



○セレクト レバーの動かしかた



↓ ブレーキ ペダルを踏みながら
セレクト レバー ボタンを押し
て動かします。

↑ ↓ セレクト レバー ボタンを押し
て動かします。

↑ ↓ そのまま動かします。

⚠警告

- ➡の操作は誤作動を防ぐため、セレクト レバー ボタンを押さずに動かしてください。常にセレクト レバー ボタンを押して操作していると、**P・R・L**レンジに思いがけず入ることがあり、その場合、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中に**N**レンジに入れないでください。エンジン ブレーキが全く効かず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が完全に止まらないうちに**P**レンジに入れないでください。また、前進走行中に**R**レンジ、および後退走行中に**D・2・L**レンジに入れないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえと共に、車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

📖アドバイス

- 走行開始直後でトランスミッションオイルの温度が低いとき、3 速、4 速へ自動変速しないことがあります。トランスミッション オイルの温度が上がれば自動変速するようになります。





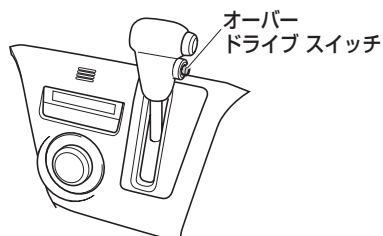
車を運転するにあたって オートマチック車の運転

○オーバー ドライブ スイッチ

通常走行時はスイッチを押して“ON”の状態にしておいてください。4速オートマチック トランスミッションとしてはたらし、燃費性能と静粛性を高めます。

オーバー ドライブ スイッチをもう一度押して“OFF”の状態にすると3速オートマチック トランスミッションとしてはたります。この場合は、メーター内のO/D OFF表示灯が点灯します。

4速オートマチック トランスミッションに戻すときは、スイッチを“ON”の状態にしてください。



	ON	4速オートマチック
	OFF	3速オートマチック

アドバイス

- 長い坂道を走行するときは、オーバードライブ スイッチを押して“OFF”の状態にしてください。
下り坂ではエンジン ブレーキの効きが良くなり、上り坂では変速回数の少ないなめらかな走行ができます。

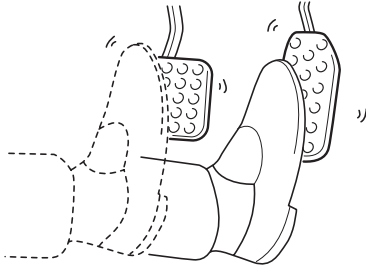


運転のしかた

エンジン始動前

▼ 操作を行う前に

アクセル ペダルおよびブレーキ ペダルの位置を右足で確認します。



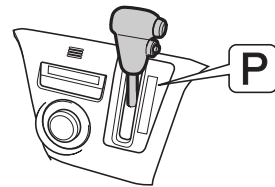
⚠ 注意

- 踏み誤りを防ぐため、ブレーキ ペダルは右足で踏む習慣を身に付けてください。左足でのブレーキ操作は思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジン始動時

▼ 操作手順

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。
2. セレクト レバーがPレンジにあることを確認します。
3. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
4. ブレーキ ペダルを踏んだまま、エンジン スイッチを“START”の位置にします。





車を運転するにあたって オートマチック車の運転

発進時

▼ 操作を行う前に

⚠ 警告

- **P**レンジから**R**レンジへセレクト レバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、ブレーキ ペダルを踏みながら、セレクト レバー ボタンを押して動かしてください。
- アクセル ペダルを踏んだままセレクト レバーの操作をしないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。

▼ 操作手順

1. ブレーキ ペダルを右足で踏んだままセレクト レバーを前進であれば**D**レンジに、状況に応じて**2**、**L**レンジに、また後退のときは**R**レンジに入れます。
2. 駐車ブレーキを戻したあと、徐々にブレーキ ペダルから足を離し、アクセル ペダルをゆっくりと踏み込み発進します。

⚠ 注意

- セレクト レバーがどの位置にあるかをセレクト レバー部またはメーター内のインジケーターで確認してください。
- セレクト レバーが**P**、**N**レンジ以外の位置にあると、アクセル ペダルを踏まなくても動こうとする特性を持っています。（クリープ現象）

⚠ 注意

- 始動直後およびエアコン使用時は、自動的にエンジン回転が高くなり（アイドル アップ）、動こうとする力が強くなります。発進時にセレクト レバー操作をするときはしっかりとブレーキ ペダルを踏んでください。
- マニュアル車は発進のスピードを半クラッチ操作とアクセル操作を併用して調整しますが、オートマチック車ではアクセル操作のみで行いますので、アクセル操作は特に慎重に行ってください。
- 切り返しなどで**D**レンジから**R**レンジ、**R**レンジから**D**レンジと何度もセレクト レバー操作をするときは、そのつどブレーキ ペダルをしっかりと踏み、完全に車を止めてから行ってください。
完全に止まらない状態でシフトの切り替えを行うとトランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。また必ずシフト位置も確認してください。
- 急発進を防ぐために**P**レンジから**R**レンジ、**N**レンジから**D**レンジ、**N**レンジから**R**レンジにセレクト レバー操作をするときもブレーキ ペダルをしっかりと踏んでから行ってください。
- 坂道発進時などアクセル ペダルとブレーキ ペダルを同時に踏んで発進しないでください。故障の原因となります。



アドバイス

- セレクト レバーを[R]レンジに入れると警告ブザーが鳴り、運転者にセレクト レバーが[R]レンジにあることを知らせます。警告ブザーは車外の人には聞こえませんので注意してください。

▼ 坂道発進をする場合

1. 駐車ブレーキがしっかりかかっていることを確認しながら、セレクト レバーを[R]レンジに入れます。
2. 右足でアクセル ペダルをゆっくり踏み、車が動き出す感触を確認してから、駐車ブレーキを解除し、発進します。

走行時

▼ 操作手順

1. 通常は[D]レンジで走行します。
2. 強い加速が必要な場合は、アクセルペダルを踏み込むとギヤは自動的に低速ギヤに切り替わります。（キック ダウン）
3. 長い下り坂や急な下り坂など、強いエンジン ブレーキを必要とする場合は、路面状態やスピードに応じて[2]または[L]レンジに切り替えます。

⚠ 警告

- 坂道などでは、セレクト レバーを[D]、[2]レンジまたは[L]レンジに入れたまま惰性で後退したり、[R]レンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。





車を運転するにあたって オートマチック車の運転

⚠注意

- 走行中は[N]レンジに入れしないでください。エンジン ブレーキが全く効かなくなり、思わぬ事故の原因になります。
- 走行中に[P]レンジ、また前進走行中に[R]レンジに入れしないでください。トランスミッションに重大な損傷をあたえる原因となります。
- 上り坂などでスピードを保つために、アクセル ペダルを踏み込んでいくと、意に反してキック ダウンし、急にエンジン回転数が高くなることがありますので、急激なアクセル ペダルの操作はしないでください。
- 滑りやすい路面やカーブ走行中では、急激なアクセル ペダルの操作はやめてください。キック ダウンにより回転が高くなり急加速をするため、スリップをしたり、カーブを曲がりきれずに思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂を[D]レンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。
このようなときに、フット ブレーキを使いすぎるとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。
シフト ダウンしてエンジン ブレーキを併用してください。また、より強いエンジン ブレーキが必要な場合は、[L]レンジに入れてください。

⚠注意

- ブレーキ ペダルに足をのせたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。
- 走行中にアクセル ペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。走行中、アクセル ペダルを踏んでいるときにブレーキ ペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。



アドバイス

- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用し、アクセル ペダルを踏まずに、ブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。
- 上り坂でスピードを保つためにアクセル ペダルを踏み込んでいくと、意に反してキック ダウンし、急にエンジン回転が上がる場合があります。
このようなときは、あらかじめ[2]レンジにしておくと、エンジン回転数の変化が少なく、なめらかな走行ができます。



一時停止時

▼ 操作手順

1. セレクト レバーは走行位置のままでブレーキ ペダルをしっかりと踏み続けます。
2. 停車が長びくときは、ブレーキ ペダルを踏んだままで駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーをNレンジに入れます。
3. 発進するときは、セレクト レバーの位置を確認したあと、アクセル ペダルをゆっくりと踏み込みます。

⚠注意

- 上り坂での停車はクリープ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキ ペダルを踏み、駐車ブレーキをかけてください。
- 平坦路であっても、停車が長びくときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。
- エアコン作動中は自動的にエンジン回転が高くなり、急にクリープ現象が強くなりますので、特にしっかりとブレーキ ペダルを踏んでください。

後退時

▼ 操作方法

車が完全に止まってからも、ブレーキ ペダルをしっかりと踏み続け、セレクト レバーをRレンジに入れます。

⚠注意

- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるよう注意してください。
- 少し後退したあとなどはRレンジに入れたことを忘れてしまうことがあります。後退したあととはすぐNレンジに戻すよう習慣付けましょう。
- 切り返しなどでDレンジからRレンジ、RレンジからDレンジと何度もセレクト レバー操作をするときは、そのつどブレーキ ペダルをしっかりと踏み、完全に車を止めてから行ってください。また、シフト位置も忘れずに確認してください。



アドバイス

- セレクト レバーをRレンジに入れると警告ブザーが鳴り、運転者にセレクト レバーがRレンジにあることを知らせます。警告ブザーは車外の人には聞こえませんのでご注意ください。



駐車時

▼ 操作手順

1. 車を完全に止めます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだままで駐車
ブレーキをかけ、セレクト レバーを
Pレンジに入れます。
3. エンジン スイッチを“LOCK”の位
置まで回してキーを抜きます。

⚠ 注意

- 必ず駐車ブレーキをかけてください。
- エンジンをかけたままで車から離れないでください。
- 車から離れるときはエンジン スイッチを“LOCK”の位置にしてキーを抜いてください。バッテリーあがりの原因となります。
- Pレンジでは車輪が固定されます。駐車するときは必ずPレンジにあることを確認してください。
- 車が完全に止まらないうちにPレンジに入れないでください。トランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。
- キー インター ロック装置により、セレクト レバーがPレンジ以外有的时候は、エンジン スイッチを“LOCK”の位置まで回すことができません。
(キー インター ロック→ 139 ページ)

MEMO



装備品の使いかた

車の装備品の使いかたについて説明しています。

■ 空調

オート エアコン -----	160
リヤ ヒーター-----	168

■ オーディオ

アンテナ-----	169
-----------	-----

■ 室内装備品

室内照明-----	170
シガー ライター -----	172
カーゴ ソケット -----	172
灰皿-----	173
サン バイザー-----	173
グローブ ボックス-----	175
リヤ シート アンダー ボックス-----	175
カップ ホルダー -----	176
アシスト グリップ-----	177
乗降用グリップ-----	177



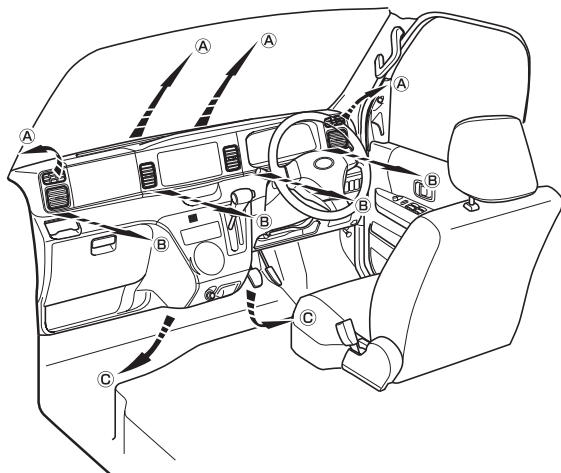
空調

オート エアコン

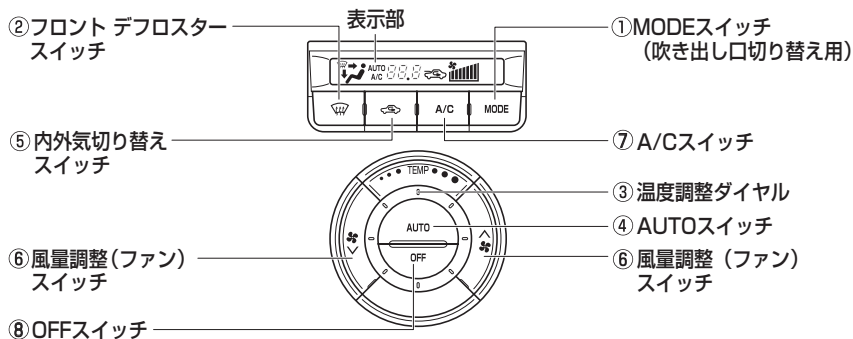
室内の冷暖房、除湿、曇り取りなどを行うことができます。

コントロール パネルの操作により、吹き出し口から冷風、または温風が吹き出します。

▼ 吹き出し口の位置



オート エアコン コントロール パネル





○各ダイヤル／スイッチの使いかた

①MODE（吹き出し口切り替え用）

スイッチ

吹き出し口を選択します。

選択された吹き出し口が表示部に表示されます。

選択された表示の方へ風が出てきます。

風量は吹き出し口によって異なります。



表示				
吹き出し口	(B)	(B) (C)	(C) (A)	(A) (C)

() は特に風量の少ないものを示します。

▼操作方法

スイッチを押すごとに、吹き出し口が「 → → → 」の順に切り替わります。

⚠警告

ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、吹き出し口をに切り替えないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

②フロント デフロスター スイッチ ガラスの曇りを取ります。



▼操作方法

- スイッチを押すと自動的にエアコンが作動し、吹き出し口が切り替わります。同時に内外気切り替えが外気導入に切り替わり、表示部に“”が表示されます。
- もう一度スイッチを押すと“”が非表示になり、元の状態に戻ります。

⚠警告

ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、スイッチを“ON”にしないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。



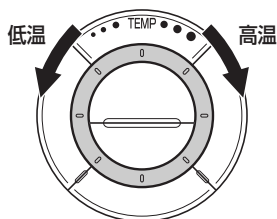


装備品の使いかた 空調

③温度調整ダイヤル

室内の温度を調整します。

設定温度が表示部に表示されます。



▼操作方法

ダイヤルを左右に回して調整します。



アドバイス

- 設定温度を 18℃～32℃の間で調整することができます。最大冷房にすると“LO”、最大暖房にすると“HI”の表示になります。

④AUTOスイッチ

スイッチを押すと、吹き出し口、風量、および内外気の切り替えが自動的に調整され、エアコンが“ON”になります。



▼操作方法

スイッチを押すと“ON”になります。

“ON”のときは表示部に“AUTO”・“A/C”が表示されます。



アドバイス

- AUTOスイッチが“ON”のときは、下記のようになります。
 - 吹き出し口、または風量を手動で調整すると、表示部の“AUTO”が表示されなくなりますが、調整した機能以外は自動調整のままとなります。すべての機能を自動調整に戻すときは、再度AUTOスイッチを押してください。
 - 吹き出し口が❖または❖で、冬場などの寒いときには、温風の準備ができるまで、中央、左右、足元吹き出し口から風は出ません。
 - 吹き出し口が❖または❖で、夏場などの暑いときには、冷風の準備ができるまで、数秒間ファンが“弱”で作動します。
 - エアコン始動時に発生する臭いを抑えるため、エアコン始動直後は、しばらく風が出ない場合があります。



⑤内外気切り替えスイッチ

内気循環、外気導入の切り替えを行います。



● 内気循環

外気をシャ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。

● 外気導入

外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。

▼ 操作方法

スイッチを押して内気循環、外気導入を切り替えます。

- “内気循環” のとき表示部に “” が表示されます。
- “外気導入” のとき表示部に “” が表示されます。

⚠ 注意

- “内気循環” を長時間使用しないでください。ガラスが曇りやすくなります。通常は、“外気導入” を使用してください。
- 渋滞に巻き込まれたときや、トンネル内は、“内気循環” にして付近の排気ガスが室内に入るのを防いでください。

📖 アドバイス

- 設定温度や室内温度などにより、自動的に“内気循環”または“外気導入”へ切り替わることがあります。
- エアコン使用中に、室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

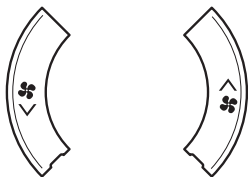


装備品の使いかた

空調

⑥風量調整（ファン）スイッチ

吹き出し口からの風の強さを調整します。
風量が表示部に表示されます。



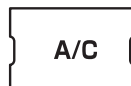
▼ 調整方法

スイッチを押して調整します。

- 風量を強くするには↑側のスイッチ、弱くするには✓側のスイッチを押します。
- ファンを停止させたいときは、OFFスイッチを押します。

⑦A/Cスイッチ

冷房、除湿機能の作動と停止を行います。



▼ 操作方法

ファンが作動中のとき、スイッチを一度押すと“ON”になり、表示部に“A/C”が表示されます。

もう一度押すと“OFF”になります。

アドバイス

- 停車時の冷房効果を向上させるために、エンジン アイドリング回転を少し高くするアイドル アップ装置が付いています。アイドル アップ装置作動中の発進、停止時の運転操作に注意してください。

特に、冷房中に一時停止する場合はブレーキ ペダルをしっかりと踏んでください。

(オートマチック車の運転→ 146 ページ)

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。



⑧OFFスイッチ

空調機能の停止を行います。



▼ 操作方法

スイッチを押します。

風向きの調整

左右および中央の吹き出し口からの風向きの調整を行うことができます。

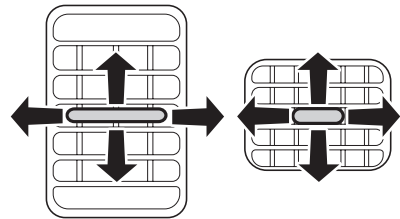


アドバイス

- 冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

▼ 操作方法

ノブを動かして調整します。



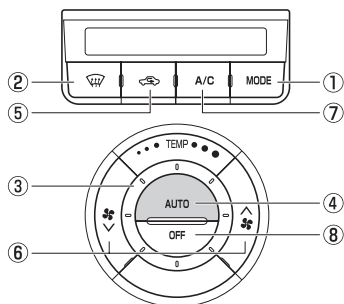


オート エアコンの使いかた

代表的な使用例におけるダイヤル、スイッチのセット位置を説明します。

○通常の使いかた

室内温度を一定に保ちたいときに使用します。



- | | |
|----------|--------|
| ① 操作不要 | ⑤ 操作不要 |
| ② OFF | ⑥ 操作不要 |
| ③ お好みの温度 | ⑦ 操作不要 |
| ④ ON | ⑧ 操作不要 |

アドバイス

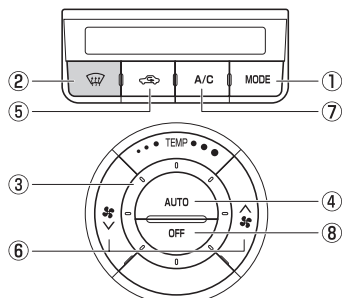
- ④のスイッチを“ON”にすることにより、状況に応じて①・⑤・⑥のスイッチが最適な状態に自動的に選択されます。
- 設定温度は 25℃を目安に、お好みで調整してください。

乗車直後の室内温度が高い（または低い）ときに、設定温度を 25℃より極端に低く（または高く）調整しても、希望の室内温度になるまでの時間はほとんど変わりません。



○ ガラスの曇りを取るとき

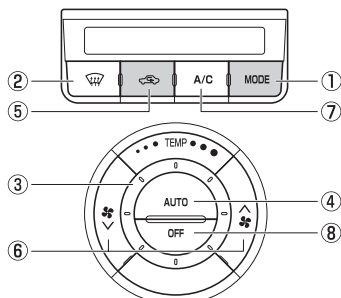
寒冷時や、雨のときなどガラスが曇ったときに使用します。



- | | |
|----------|---------------|
| ① 操作不要 | ⑤ 操作不要 (外気導入) |
| ② ON | ⑥ お好みの風量 |
| ③ お好みの温度 | ⑦ 操作不要 |
| ④ OFF | ⑧ 操作不要 |

○ 換気するとき

導入された外気が中央および左右の吹き出し口から吹き出します。



- | | |
|----------|----------|
| ① 〰 | ⑤ 外気導入 |
| ② OFF | ⑥ お好みの風量 |
| ③ お好みの温度 | ⑦ OFF |
| ④ OFF | ⑧ 操作不要 |

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

- ③のダイヤルを最低温に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。

👉 アドバイス

- 外気温が 0℃ 近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

外気が汚れているときは

- 一時的に“内気循環”にしてください。

より早くガラスの曇りを取る場合

- ガラスの曇りを取る操作と併せて、下記の操作を行います。
- ⑥のスイッチを操作して、風量を増す
- ③のダイヤルを操作して、設定温度を上げる





温度調節センサー

オート エアコンには、自動的に温度調節を行うために、日射センサーと内気センサーが取り付けられています。

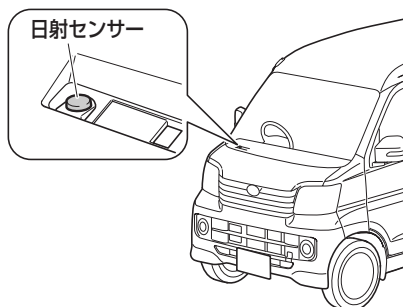
アドバイス

- 日射センサーの上に物を置いたり、内気センサーをシールなどでふさぐなどすると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

○ 日射センサー

日射量を検知します。

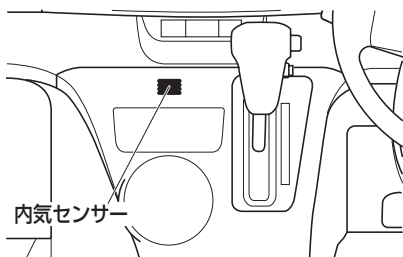
インストルメント パネル上部に取り付けられています。



○ 内気センサー

室内温度を検知します。

インストルメント パネル中央部に取り付けられています。

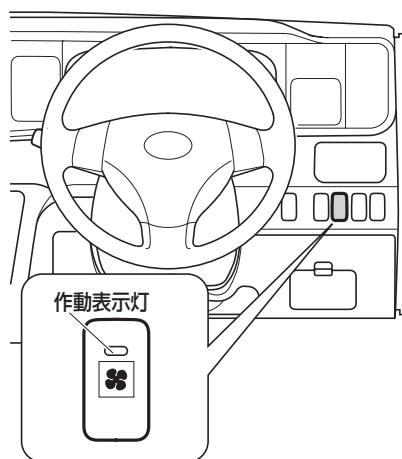


リヤ ヒーター

リヤ ヒーター スイッチ

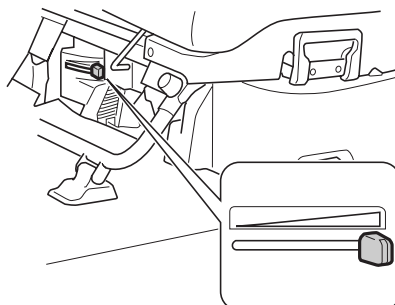
リヤ ヒーター スイッチは運転席インストルメント パネル右側にあります。

エンジン スイッチが“ON”の位置のとき、リヤ ヒーター スイッチを押すと、作動表示灯が点灯し、ファンが作動します。



レバーの位置

後席足元のコントロール レバーで吹き出し温度を調整します。





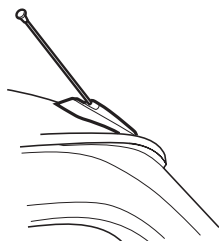
オーディオ

アンテナ

ラジオを受信するときは、アンテナをいっぱいまで伸ばしてください。

▼使用方法

使用するときは、アンテナの先を持っていっぱい引き出します。収納するときは、アンテナの根元を持って少しずつ収納してください。



⚠注意

- 走行中に引き出し、収納などの操作をしないでください。運転のさまたげになるほか車外の物に当たったり、急ブレーキをかけたときけがをするおそれがあり危険です。
- 下記のようなときは、アンテナを収納してください。破損したり、変形したりする場合があります。
 - 自動洗車機を使用するとき
 - ボディ カバーをかけるとき
 - 立体駐車場など屋根の低いガレージなどに入れるとき
 - 降雪時に長時間駐車するとき



室内装備品

室内照明

アドバイス

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で長時間点灯させないでください。

ルーム ランプ

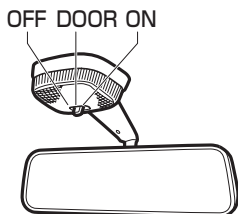
スイッチの位置によって、点灯、消灯の切り替えができます。

▼スイッチが“ON” のとき
ドアの開閉に関係なく点灯します。

▼スイッチが“OFF” のとき
ドアの開閉に関係なく消灯します。

▼スイッチが“DOOR” のとき
ドア連動機能により、点灯・消灯します。
(ドア連動機能→ 171 ページ)

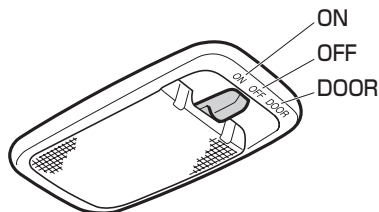
○フロント



○センター

オプション/グレード別装備

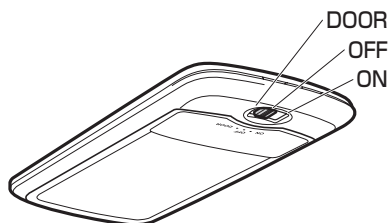
後席天井中央部にあります。



○大型カーゴ ルーム ランプ (LED)

オプション/グレード別装備

後席天井中央部にあります。





ドア連動機能

室内照明のスイッチがドアと連動する位置のとき、ドア操作、エンジン スイッチ操作に連動して、点灯・消灯する機能です。

○タイマー機能*

▼ドアの開閉

ドア	エンジンスイッチ	室内照明
全閉 ↓ いずれか開	—	消灯 ↓ 点灯
いずれか開 ↓ 全閉	ON	点灯 ↓ すぐに消灯
	ON以外	点灯 ↓ 約15秒後消灯

▼ドアの施錠・解錠

エンジン スイッチが“LOCK”の位置で、すべてのドアが閉まっているとき、下記の作動になります。

運転席 ドアロック	室内照明
解錠 ↓ 施錠	点灯 ↓ 減光し、その後消灯
施錠 ↓ 解錠	消灯 ↓ 約15秒間点灯

▼エンジン スイッチの操作

すべてのドアが閉まっているとき、下記の作動になります。

エンジン スイッチ	室内照明
ACC ↓ ON	点灯 ↓ すぐに消灯
ON / ACC* ↓ LOCKにしてキーを抜く	消灯 ↓ 約15秒間点灯

*ONからACCにしたときの経過時間により、点灯しないことがあります。

○バッテリーあがり防止機能

室内照明のスイッチがドアと連動する位置のとき、バッテリーあがり防止のため自動的に室内照明を消灯する機能です。

- エンジン スイッチが“LOCK”または“ACC”の位置で、ドアを開けたまま約 10 分が経過すると、自動的に消灯します。
- 再度、点灯させるには、すべてのドアを閉めるか、エンジン スイッチを“ON”の位置にしてください。

* 実際には、いくつかの条件が同時に成立することにより、表中の作動と異なることがあります。



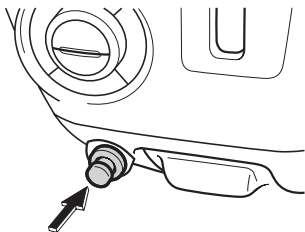
装備品の使いかた 室内装備品

シガー ライター

エンジン スイッチが“ACC”または“ON”の位置のとき使用できます。

▼使用方法

押し込んで手を離し、自動的に戻るまで待ちます。



⚠注意

- 手で押し込んだままにしないでください。過熱して非常に危険です。
- シガー ライターの金属部分に触れないでください。やけどをするおそれがあります。
- 30 秒以上たっても自動的に戻らないときは、故障が考えられます。手で引き出したあと、スバル販売店で点検を受けてください。
- 故障の原因となりますので、下記のことをお守りください。シガー ライターを使用したとき、赤熱したシガーライターが飛び出したり、押し込んだまま戻らなくなることがあります。
- 他車のシガー ライターを差し込まないでください。
- スバル指定部品以外の電気製品の電源として使用しないでください。

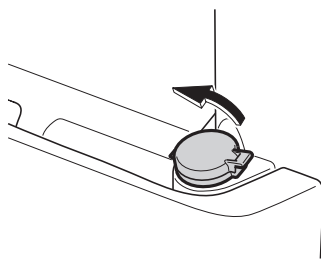
カーゴ ソケット

オプション/グレード別装備

電気製品の電源用ソケットとして利用することができます。

▼使用方法

カバーを外し、電気製品の電源プラグを差し込んで使用します。



⚠注意

- 電気容量は、DC12Vで最大電流 5A（最大消費電力 60W）です。この容量以上の電化製品を使用しないでください。最大電気容量を超える電化製品を使用すると、ヒューズが切れるおそれがあります。
- エンジンを停止した状態で使用しないでください。バッテリーあがりのおそれがあります。また、エンジンがかかっても、アイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。
- カーゴ ソケットを使用しないときは、カバーを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水などがこぼれたりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。



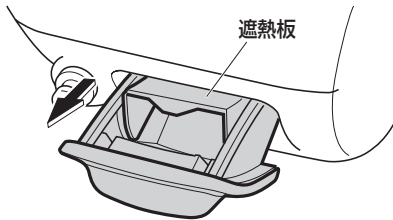
灰皿

▼ 使用するとき

手前に引き出し使用します。

▼ 清掃するとき

遮熱板を押し下げながら引き抜きます。



⚠注意

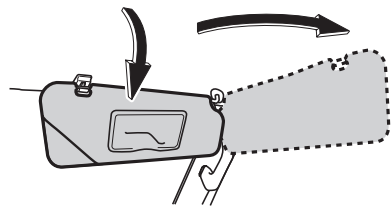
- タバコ、マッチなどは確実に火を消してから入れてください。また、紙くずなどの燃えやすい物を入れないでください。出火するおそれがあります。
- 灰皿を使ったあとは、必ず閉めてください。
- 吸いがらは、ためすぎないように注意してください。

サン バイザー

直射日光などでまぶしいときに使用します。側面に移動させて使用することもできます。

▼ 使用するとき

図中の矢印の方向に動かします。



📖 アドバイス

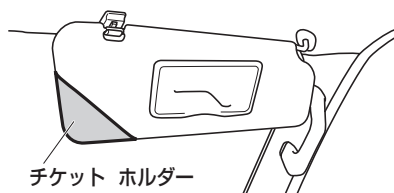
- サン バイザーと天井の間に物を挟まないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり危険です。



装備品の使いかた 室内装備品

チケットホルダー

チケット類を収納することができます。



アドバイス

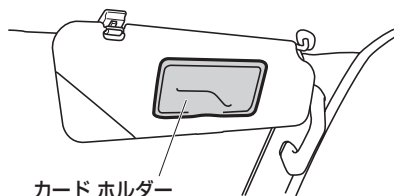
- チケットホルダーにチケット類以外の物を入れないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり、危険です。

カードホルダー

カード類を収納することができます。

アドバイス

- カードホルダーにカード類以外の物を入れないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり、危険です。



バニティミラー

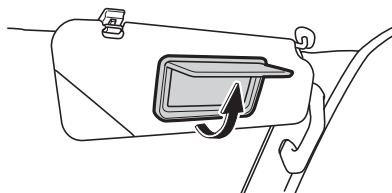
鏡として使用できます。

注意

- 走行中は使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 使用方法

カバーを矢印の方向に開けます。



注意

- カバーを開けたままサンバイザーを側面に移動させると、カバーが損傷するおそれがありますので、サンバイザーを側面に移動させるときは、カバーを閉めてください。

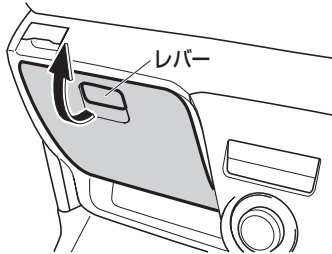


グローブ ボックス

物入れとして利用できます。

▼ 開閉方法

- レバーを引いて開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。



⚠ 注意

- 走行中はグローブ ボックスを必ず閉めておいてください。急ブレーキなどの激しい運転の際に開いたフタに体が当たるなど思わぬけがをするおそれがあります。

リヤ シート アンダー ボックス

オプション/グレード別装備

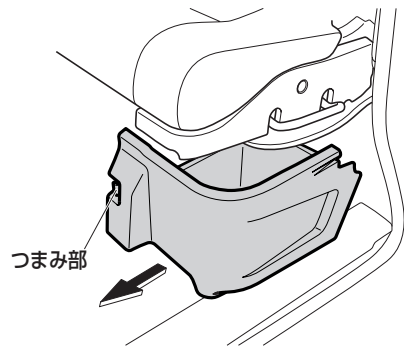
後席左側シートの下にあります。

小物入れとして利用できます。

▼ 使用方法

サイド カバーのつまみ部をつまみながら矢印の方向へ動かします。

(サイド カバーの外しかた
→ 180 ページ)



⚠ 注意

- 走行中に引き出し、戻し操作をしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行時はボックスを一番奥まで確実に戻してください。



カップホルダー

缶ジュースやカップなどを置くのに便利です。

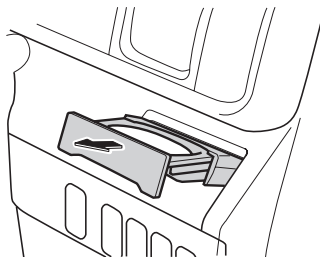
⚠注意

- 飲み物には、フタをするなどしてこぼさないように注意してください。振動で中身がこぼれるおそれがあります。特に温かい飲み物には、やけどを防ぐために必ずフタをしてください。
- 飲み物がこぼれたときはただちにふき取ってください。カップホルダーの開閉機構が損傷するおそれがあります。また、スイッチ類や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
- カップホルダーには、カップや飲料缶以外の物を置かないでください。急ブレーキをかけたときや、衝突したときなどに置いていた物が飛び出し、けがをするおそれがあります。また、下記のような異物が入ると、カップホルダーの開閉機構が損傷するおそれがあります。
 - 爪楊枝・ヘアピン等の小さいもの、細かいもの
 - タバコの灰
 - 芳香剤の液体
- 使用しないときは、カップホルダーを必ず格納してください。急ブレーキなどの激しい運転の際に、カップホルダーに体が当たるなど、思わぬけがをするおそれがあります。

前席用

▼使用方法

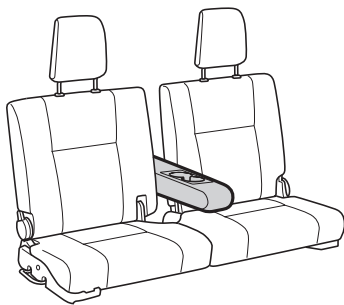
- 使用するときは、矢印の方向にトレイを引き出します。
- 収納するときは、そのままトレイを押し込みます。



後席用

アームレストに装着されています。

(アームレスト→ 43 ページ)



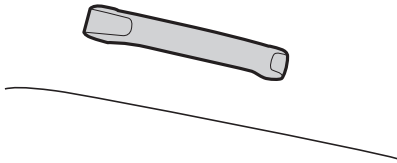
アドバイス

- カップホルダーに飲み物を入れているとき、シートのリクライニング調整やスライド調整を行うと、アームレストも同時に動きますので、飲み物がこぼれるおそれがあります。



アシスト グリップ

走行中、車体がゆれたときなどにご使用ください。

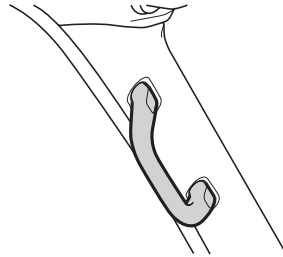


⚠注意

- 特に重たい物や、大きな物をアシストグリップにかけないでください。アシストグリップが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

乗降用グリップ

車両に乗り降りするときなどにご使用ください。



⚠注意

- 特に重たい物や、大きな物を乗降用グリップにかけないでください。乗降用グリップが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

MEMO



いざというときに

車載工具の使いかたや、車を運転するうえで
いざというときの処置の方法について
説明しています。

■ 工具類

格納場所-----	180
ジャッキの使いかた-----	182

■ いざというときの処置

スタック（立ち往生）したとき-----	185
故障したとき-----	186
けん引されるとき-----	187
パンクしたとき-----	190
応急用スペア タイヤ-----	190
タイヤの交換-----	193
バッテリーあがりの処置-----	197
オーバー ヒートの処置-----	199
ヒューズの交換-----	200
電球（バルブ）交換-----	202
キーを閉じ込めたとき-----	214
車両を緊急停止するには-----	214
事故が起きたとき-----	215



工具類

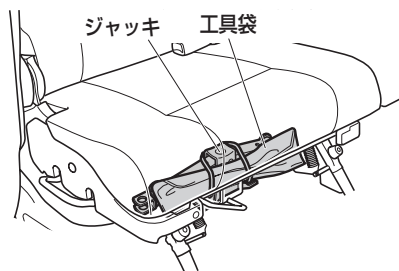
格納場所

△注意

- スペア タイヤ、ジャッキ、工具は所定の位置にしっかり固定してください。室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具が体に当たるなど、大変危険です。

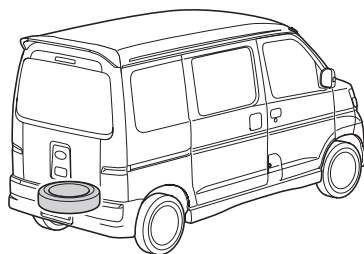
工具の位置

リヤ シート下部に収納しています。
工具袋の中にジャッキ ハンドル、ホイール ナット レンチ、けん引フックが入っています。



スペア タイヤの位置

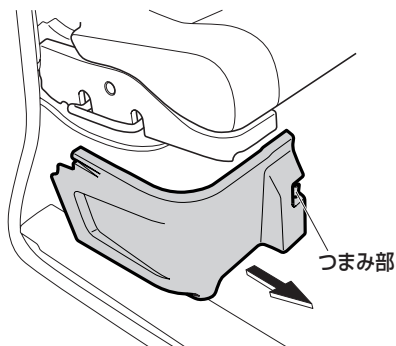
リヤ ゲート下部に収納しています。



工具の取り出し、取り付け

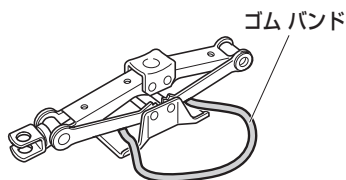
○取り外し

サイド カバーのつまみ部をつまみながら矢印の方向へ動かします。

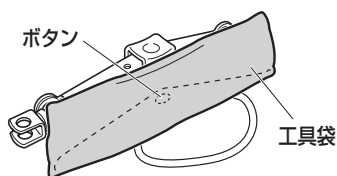


○取り付け

1. 付属のゴム バンドをジャッキの下部に取り付けます。

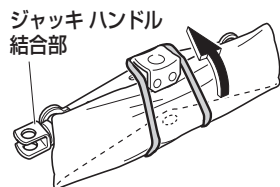


2. 工具袋をボタンのない側を手前にして、ジャッキの前側に置きます。





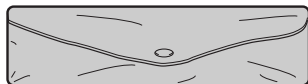
3. 工具袋の中にある工具をジャッキ ハンドル結合部側に寄せ、ゴム バンドをジャッキの上部にかけます。



工具袋

タイヤ交換のときなどに使用します。

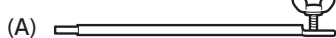
工具袋



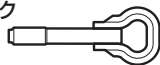
ホイール ナット レンチ



ジャッキ ハンドル



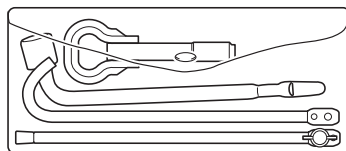
けん引フック



アドバイス

工具を収納する場合

- 振動で音が発生するおそれがありますので、下図のように収納してください。





ジャッキの使いかた

⚠警告

- ジャッキ アップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキが外れると大変危険です。
- ジャッキ アップするときはジャッキの上や下に物を挟まないでください。
- ジャッキ アップするときは、必ず、駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーをPレンジにして、輪止めをしてください。車が動き出すおそれがあり危険です。
- ジャッキは砂や石ころのない安定した平らなきたい場所を選んでセットしてください。ジャッキ アップしたとき、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車に備え付けのジャッキは、タイヤの交換およびタイヤ チェーンの脱着以外には使用しないでください。
- ジャッキ アップするときは、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをしてください。
- ジャッキは、セット位置以外にかけないでください。外れたり、車を損傷するおそれがあります。
- ジャッキ アップするときは、人や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキは、伸ばすほど不安定になります。タイヤが地面から 3cm以上離れないようにしてください。
- ジャッキ アップしているときは、エンジンをかけないでください。

⚠警告

- タイヤのローテーション時などに、車載のジャッキを用いて、両車輪同時に上げるようなことはしないでください。接地しているタイヤが動き、車体がずれるおそれがあります。

⚠注意

- 車に備え付けのジャッキは、お客様の車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。車を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

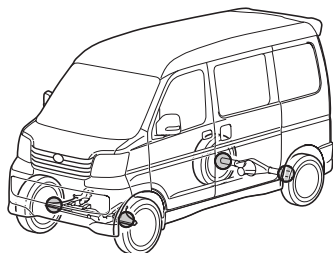


ジャッキをセットする位置

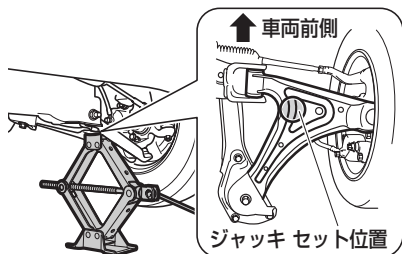
ジャッキは必ずジャッキ セット位置にセットしてください。

▼セットする位置

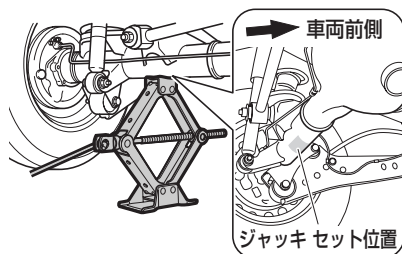
取り替えるタイヤに近いジャッキ セット位置にセットします。



○フロント

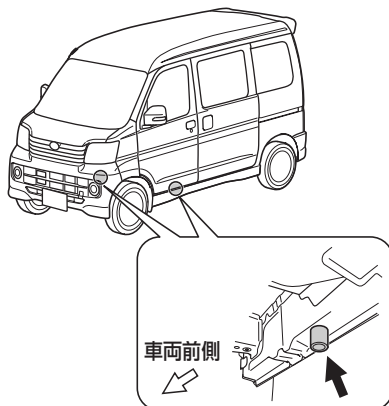


○リヤ



アドバイス

- 下図の位置は、整備（2 柱リフト）用です。車に備え付けのジャッキでのジャッキ アップ用ではありません。

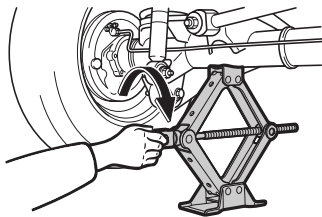




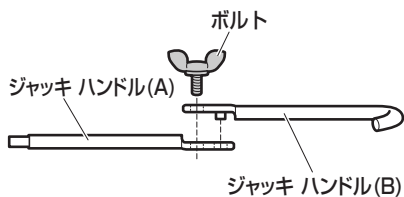
ジャッキのかけかた

▼ 操作手順

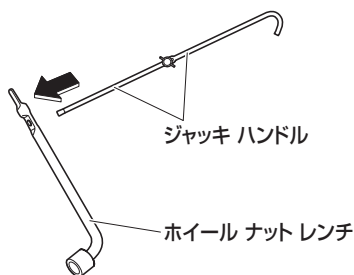
1. ジャッキを手で回して、セット位置まで上げます。



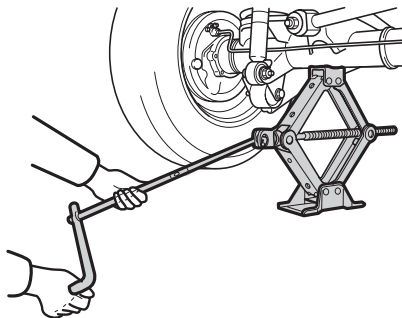
2. ジャッキ ハンドル (A) からボルトを外します。
3. ジャッキ ハンドルを下図のように組み立てます。



4. ホイール ナット レンチの穴にジャッキ ハンドルを差し込みます。

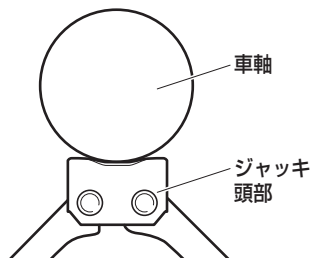


5. ジャッキが確実にセット位置にかかっていることを確認し、ジャッキ ハンドルを使って、タイヤが地面から少し離れる位置まで車を持ち上げます。



⚠ 注意

- リヤをジャッキ アップするときは、下記のことをお守りください。ジャッキが外れて車を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ジャッキを車軸に対して直角にセットする
- ジャッキ頭部の中心を車軸の中心に確実に合わせる





いざというときの処置

スタック（立ち往生） したとき

スタックから脱出するには

ぬかるみや砂地、深雪路などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、下記の手順にしたがって脱出操作をしてください。

▼脱出操作をする前に

⚠警告

- 必ず周囲に他の車、物、または人がいないことを十分に確認してください。スタックから脱出する際に、車が前後に飛び出したり、あてがった石や木が飛散したりするおそれがあり危険です。
- セレクト レバーを操作するときは、アクセル ペダルを踏んだまま操作しないでください。車が急発進したり、トランスミッションなどに重大な損傷をあたえるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

- 数回試して脱出できないときは、脱出操作を中止し、けん引による救援を依頼してください。
(けん引されるとき→ 187 ページ)

▼脱出手順

1. 駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーをRレンジに入れ、エンジンを停止します。
2. タイヤ前後の土や雪などを取り除きます。
3. スリップしているタイヤの下に、石や木などをあてがい滑り止めにします。
4. エンジンを始動します。
5. セレクト レバーをD、またはFレンジに確実に入れ、注意しながら、アクセル ペダルを軽く踏みます。

⚠注意

- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセル ペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。





いざというときに いざというときの処置

故障したとき

エンスト

安全な場所まで移動してください。
付近に人がいる場合は押してもらってください。

⚠注意

- 車を押す場合、セレクト レバーは **[N]** レンジにしてください。

👉 アドバイス

- 緊急を要する場合は発炎筒で合図してください。

○踏切内の場合

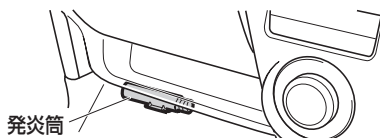
踏切内で動かなくなったり、脱輪などで
すぐ動かせない場合は、ただちに踏切の
非常ボタンを押してください。

発炎筒

発炎筒は高速道路や踏切内での故障など、
非常事態が発生したときに使用する非常
信号用具です。

▼設置場所

グローブ ボックス左下に設置されていま
す。



⚠注意

- 非常用信号としてのみお使いください。
- お子さまに絶対触らせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 発炎筒を使うとき、顔や体に向けるとやけどの危険があるのでさけてください。
- ガソリンなどの可燃物のそばで使用すると、火災をまねく危険がありますのでさけてください。
- トンネル内では使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯や懐中電灯で合図してください。

👉 アドバイス

- 使用法は、発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでください。
- 発炎筒を使うときは、非常点滅表示灯も点滅させてください。
- 発炎筒には有効期限がありますので、事前に確認しておいてください。



けん引されるとき

故障車の移動は、スバル販売店、スバル指定サービス工場、または専門業者に依頼し、車両積載車で4輪とも持ち上げて運搬してください。

(スバル販売店、スバル指定サービス工場とJAFロードサービスの連絡先は、別冊の「スバル サービス ネットワーク」に記載されています。)

⚠警告

- 後輪だけをもち上げたけん引は、車両が不安定になるので、行わないでください。
- AWD車の場合、前輪、または後輪だけをもち上げたけん引は絶対にしないでください。
前輪、または後輪だけをもち上げて運搬すると、駆動装置が損傷したり、車がレッカー車(台車)から飛び出すおそれがあります。

やむを得ず、ロープによるけん引をするときは、下記の注意にしたがってください。

▼けん引を行う前に

⚠注意

- 他車をけん引する能力はありません。
車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。
- ロープによるけん引を行う前に、駆動系に故障がないことを、スバル販売店、スバル指定サービス工場にご確認ください。
駆動系に故障の可能性がある場合は、ロープによるけん引はしないでください。
- 下記の場合は、駆動系の故障が考えられるため、ロープによるけん引はせずにスバル販売店にご連絡ください。
 - エンジンがかかるが車が動かない
 - 異常な音がする
- ロープによるけん引をするときの速度は30km/h以下、けん引距離は50km以内にしてください。この速度・距離を超えると、トランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。





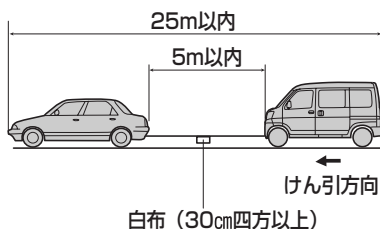
⚠注意

- けん引される車は、下記の事項を守って慎重に運転してください。通常と同じ感覚で運転すると、事故につながるおそれがあります。
- できるだけ人や荷物をおろし、車体を軽くしてください。
- エンジン スイッチはハンドル ロックを解除させるために“ACC”の位置にし、セレクト レバーは[N]レンジにしてください。
- エンジンが停止していると、いつもよりハンドル操作が重くなりますので、できるだけエンジンを始動してください。また、ブレーキの効きが悪くなりますので、通常より強めにブレーキペダルを踏んでください。
- 長い下り坂では、ブレーキが過熱して、効かなくなるおそれがありますので、けん引しないでください。

けん引の方法

前の車の制動灯に注意して、常にけん引ロープをたるませないように気を付けてください。

また、けん引ロープには必ず白い布（30cm四方以上）を付けてください。



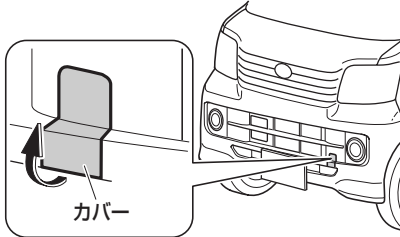


ロープをかける位置

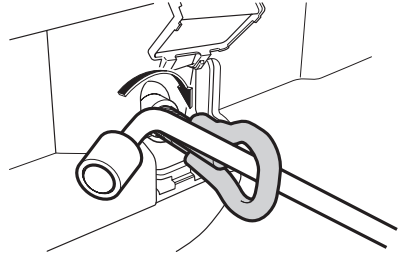
ロープは必ず車体先端のフックにかけてください。

▼けん引フックの取り付けかた

1. カバーを上側に持ち上げながら、矢印の方向に外します。

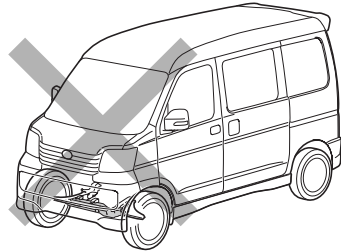


2. けん引フックを矢印の方向に回しながら差し込み、ホイール ナット レンチでしっかりと固定します。



📢 アドバイス

- フロント サスペンションメンバーにロープを取り付けないでください。



- けん引が終わったら、けん引フックを取り外し、カバーを確実に取り付けてください。



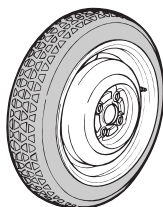
いざというときに いざというときの処置

パンクしたとき

高速走行中にパンクやバースト（破裂）したときは、ハンドルをしっかりと持って、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

応急用スペア タイヤ

応急用スペア タイヤは、タイヤがパンクしたときの応急用としてのみ使うタイヤです。応急用スペア タイヤは標準タイヤに比べて、空気圧が高く、直径がやや小さくできています。お使いになるときは注意事項をお守りください。



△注意

- 応急用スペア タイヤを装着した場合は 80km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- この応急用スペア タイヤは型式、車種によって違います。ほかのタイヤやホイールと組み合わせたり、ほかの型式、車種の車に使わないでください。走行に悪影響が出て、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 後輪がパンクしたときには、応急用スペア タイヤを後輪に使用しないでください。後輪がパンクしたときには、応急用スペア タイヤを前輪に装着し、外した前輪タイヤを後輪に付けて走行してください。



⚠注意

- 応急用スペア タイヤにタイヤ チェーンを装着しないでください。タイヤ チェーンが車体側に当たったり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

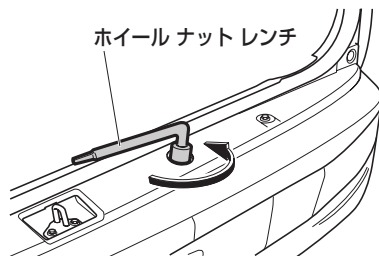
雪道、凍結路で後輪がバンクした場合は、応急用スペア タイヤを前輪に装着し、外した前輪タイヤを後輪に付けてからタイヤ チェーンを装着してください。

- 応急用スペア タイヤを装着して突起物などを乗り越えるときは、標準タイヤを装着しているときと同じ感覚で運転しないでください。応急用スペア タイヤ装着時は車高が低下します。同じ感覚で運転するとぶつけるおそれがあります。

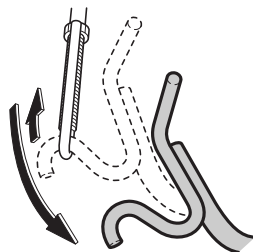
- 応急用スペア タイヤの点検は、最低でも月1回行ってください。空気圧が不足している状態で走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。（空気圧はフロント ドア開口部に記載しています。）

スペア タイヤの脱着

1. リヤ ゲートを開けて、ホイール ナット レンチで、スペア タイヤ キャリアがたつくまで固定ボルトをゆるめます。



2. スペア タイヤ キャリアを少し持ち上げて、フックから外します。

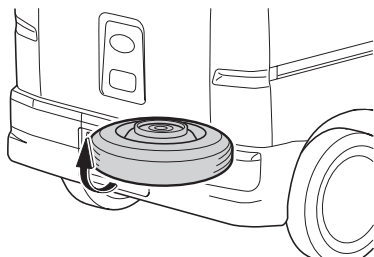




いざというときに いざというときの処置

3. 取り付けるときは、逆の手順で行います。スペア タイヤを元に戻すときは、ホイール意匠面を上部に、スペア タイヤ キャリアのセンター 部に引っかけてから、フックに掛けてください。

フックに掛からないときは、スペア タイヤの後端部分を矢印の方向に少し持ち上げた状態で、フックに掛けてください。



⚠注意

- スペア タイヤを収納するときは、取り付け状態を十分確認してください。取り付けが不安定な状態になっていると、走行中の脱落により思わぬ事故の原因になります。

📖 アドバイス

- パンクしたタイヤをスペア タイヤ キャリアに取り付けるときは、ホイール表面（意匠面）を上向きに取り付けてください。
- パンクしたタイヤをスペア タイヤ キャリアに取り付けるとき、空気が十分残っていると、取り付けできない場合があります。そのときは空気を完全に抜いてから取り付けてください。
- アルミ ホイールをスペア タイヤ キャリアに取り付けると、傷付くことがあります。荷室に仮置きすることをおすすめします。



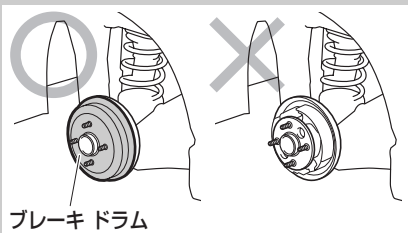
タイヤの交換

▼ 交換作業を行うにあたって

⚠警告

- ジャッキ アップした車の下にもぐらないでください。万一、ジャッキが外れると大変危険です。
- 駐車ブレーキは、必ずしっかりとかけてください。駐車ブレーキをかけずに後輪タイヤを取り外すと、まれにブレーキ ドラムがタイヤと一緒に外れることがあります。タイヤを外したあとは、ブレーキ ドラムが外れていないことを確認してください。

ブレーキ ドラムが外れたままタイヤを交換すると、ブレーキが効かず大変危険です。



ブレーキ ドラム

- この車専用以外のホイールを使用しないでください。専用以外のホイールを使用すると、走行装置やブレーキ装置に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。

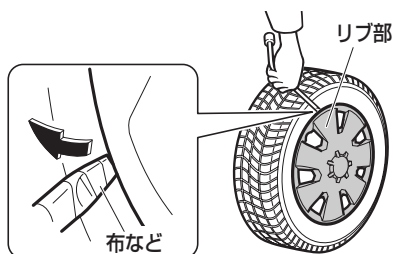
交換の準備

⚠注意

- 車を交通のさまたげにならず安全に作業できる平らな場所に移動させて、作業を行ってください。
- パンクなどにより路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならない場所によせ、非常点滅表示灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。
- 人は車から降り、重い荷物は車から降ろしてください。

フル ホイール キャップ装着車

傷付き防止のため、先端に布などを巻いたホイール ナット レンチを穴の開いていない部分（リブ部）に差し込み、タイヤを支点にしてフル ホイール キャップを外します。



⚠注意

- キャップは手で外さないでください。けがをするおそれがあります。
- ホイール キャップを外すとき力を入れすぎないでください。けがをしたり、ボディなどを傷付けるおそれがあります。
- ホイール ナット レンチは必ず穴の開いていない部分（リブ部）に差し込んでください。ホイール キャップが割れるおそれがあります。

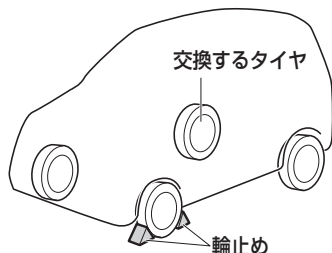




いざというときに いざというときの処置

交換の手順

1. 駐車ブレーキをしっかりとかけ、エンジンは停止し、セレクト レバーをPレンジの位置にします。
2. 交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めを置きます。



アドバイス

- 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

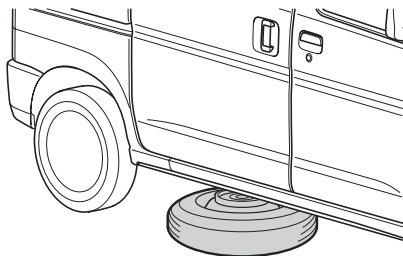
3. 工具、ジャッキ、スペア タイヤを取り出します。

(格納場所→ 180 ページ)

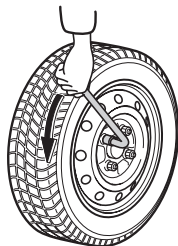
(ジャッキの使いかた→ 182 ページ)

(応急用スペア タイヤ→ 190 ページ)

4. ジャッキが外れた場合の危険防止のため、スペア タイヤは交換するタイヤの近くの車体の下に置きます。

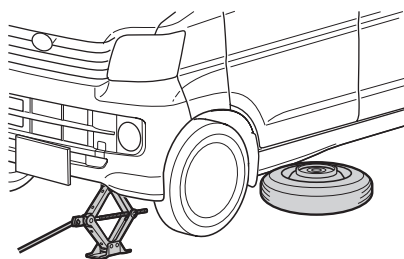


5. ホイール ナット レンチでホイール ナットを左に回し、手で回るくらいまでゆるめます。



6. タイヤと路面が少し離れるまでゆっくりとジャッキ アップし、車体を上げます。

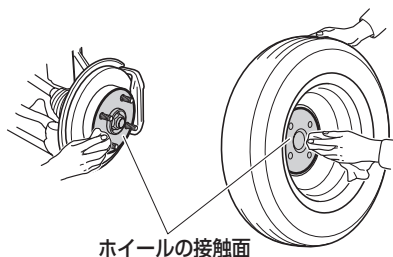
(ジャッキの使いかた→ 182 ページ)



7. 4 個のホイール ナットを外し、タイヤを外します。
- タイヤを地面に置くときは、傷が付かないように、ホイール意匠面を上向きに置いてください。



8. 交換するタイヤのホイールの接触面の汚れをふき取ります。

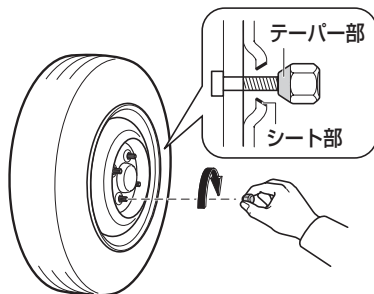


⚠ 警告

- タイヤを取り付けるときに、ホイールの取り付け部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。

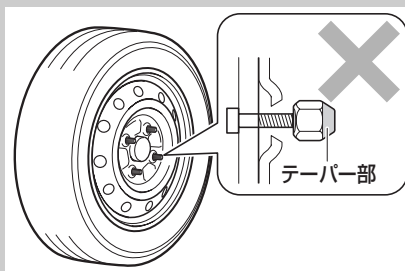
9. 交換するタイヤを取り付けます。

10. ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまで、ナットを右に回して仮締めします。



⚠ 警告

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



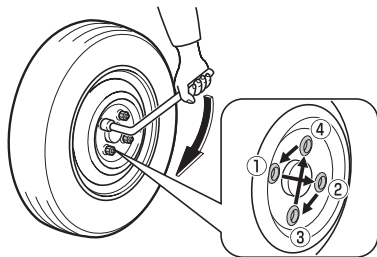
- ナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損するおそれがあります。





いざというときに いざというときの処置

11. タイヤが地面につくまで車体をおろし、ホイール ナットを均等に対角線の順にホイール ナット レンチで 2、3 度にわたり十分締め付けます。



△注意

- ホイール ナット レンチを足で踏んだり、パイプを継ぎたしたりしないでください。必要以上に締め付けると、ボルトが破損するおそれがあります。
- 締付力（ホイール ナット レンチ先端にて）：440～590N {45～60kgf}
- 締付トルク：103N・m {1,050kgf・cm}

12. 工具、ジャッキ、タイヤを所定の位置に確実に収納します。

13. 走行後ホイール ナットのゆるみがないことを点検します。

△注意

- パンク時に限らず、タイヤを脱着したときは、しばらく走行したあと、再度ホイール ナットにゆるみがないことを確認してください。
- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッド パターン（溝模様）の物を装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。
- 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、タイヤのバランスの点検をスバル販売店で受けてください。
- アルミ ホイール装着車は、専用品以外のナットは使用しないでください。走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。



標準タイヤに戻すとき

タイヤ交換の手順と同じです。

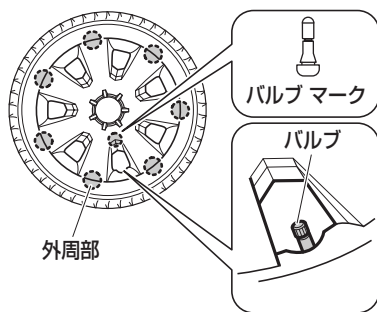
⚠注意

- 傷、変形がある物は再使用しないでください。
- タイヤの空気圧を確認してください。
(タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています)
- タイヤを新品に交換する場合は、必ず指定のサイズのタイヤに交換してください。

フル ホイール キャップ装着車

フル ホイール キャップを取り付けます。

- タイヤのバルブとフル ホイール キャップ裏側のマークを合わせ、フル ホイール キャップの外周部を押して取り付けます。



バッテリーあがりの処置

下記のような症状が見られるとバッテリーあがりが考えられます。

- スターターが回らない。
- スターターが回っても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ヘッド ランプがいつもより暗い。
- ホーンの音が小さい、または鳴らない。

⚠警告

- バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは、確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

📞アドバイス

- バッテリーあがりを防ぐために下記のことをお守りください。
- エンジンを止めたままランプをつけたり、オーディオを長時間使用しない。
- エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不要な電装品の電源を切る。
- バッテリー液量が減っていると充電能力が低下して寿命が短くなります。ときどき点検して液の補充をしてください。





いざというときに いざというときの処置

▼ 処置を行う前に

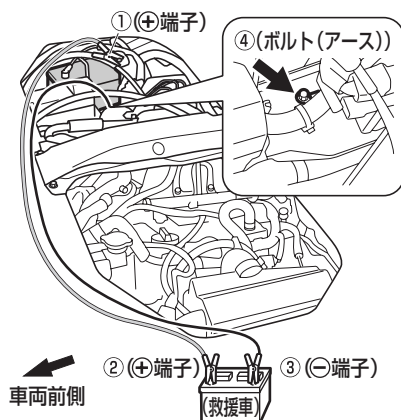
⚠ 警告

- 火気をバッテリーに近付けないでください。バッテリーから発生する可燃ガスにより爆発するおそれがあり危険です。
- バッテリー液が万一皮膚や目に付いたら、その箇所を多量の水で十分洗浄して、ただちに医師の診断を受けてください。バッテリー液には希硫酸が含まれており、毒性、腐食性があります。
- 処置の手順でブースター ケーブルをバッテリーあがり車のバッテリーの⊖端子に接続しないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃ガスに引火する危険があります。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしないでください。バッテリーの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。
- ブースター ケーブルを接続するとき、⊕端子と⊖端子を絶対に接触させないでください。火花が発生し、引火する危険があります。

▼ 処置の手順

1. バッテリーの⊕端子のカバーを外し、ブースター ケーブルを図の番号順で接続します。

- ① バッテリーあがり車の⊕端子
- ② 救援車の⊕端子
- ③ 救援車の⊖端子
- ④ 下記の箇所
(ボルト（アース）につなぐ)



2. 救援車（電源側の車）を始動し、少しエンジン回転を高めに保ちます。
3. バッテリーあがり車のエンジンを始動します。
4. ブースター ケーブルを接続順序の逆で外します。

⚠ 注意

- 押しがけによる始動はできません。
- 必ず 12Vバッテリー車と接続してください。
- ケーブル接続の際には、⊕端子をボディ金属部や⊖端子に接触させたり、逆に接続しないでください。
- ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように、接続には十分注意してください。



オーバー ヒートの処置

下記の状態がオーバー ヒートです。

- 水温警告灯が点滅・点灯したとき
- エンジン ルームまたはボンネットから蒸気が立ちのぼり、エンジンの出力が低下したとき

車を安全な場所に止め、下記の処置をしてください。

▼ 処置を行う前に

⚠ 警告

- 水温が高いときは、冷却水注入口を外さないでください。冷却水の圧力が冷却水注入口にかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出し、大変危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。突然、ファンが回転するため、大変危険です。

▼ 処置の手順

1. エンジン ルームまたはボンネットから蒸気が出ていたら、エンジンを止めて、蒸気が出なくなるまでエンジン ルームまたはボンネットを開けないでください。蒸気が出なくなったらエンジンを始動しエンジン ルームまたはボンネットを開け、風通しを良くします。
2. エンジン ルームまたはボンネットから蒸気が出ていなければ、エンジンをかけたままエンジン ルームまたはボンネットを開け、風通しを良くします。

3. 1 または 2 の処置を行ったあと、エンジン ルームおよびボンネットをチェックします。エンジン ルームおよびボンネット内が下記のような状態であれば、ただちにエンジンを止めてスバル販売店にご連絡ください。
 - 冷却ファンが回転していないとき
 - ホース類などから蒸気や熱湯が漏れているとき
 - 冷却水リザーバー タンクの水がないとき
 - ファン ベルトが切れているとき
4. 水温警告灯が消灯したらエンジンを止めます。
5. エンジンが十分に冷えてから冷却水の量、ファン ベルトのゆるみ、ラジエーターのコア（放熱部）の著しい汚れやゴミの付着の有無などを点検します。
6. 冷却水が不足しているときは、補給します。冷却水の補給は、別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

⚠ 注意

- 冷却水は、エンジンが熱いときに入れしないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

🔧 アドバイス

- オーバー ヒートを防止するため、日頃から冷却水の量と冷却水の漏れがないかを点検するように心がけてください。（冷却装置、冷却水の点検は別冊の「メンテナンス ノート」参照）





いざというときに いざというときの処置

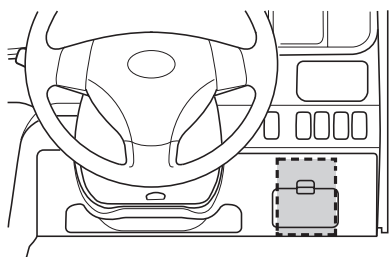
ヒューズの交換

ランプが点灯しない場合や、電気系統の装置がはたらかない場合は、ヒューズ切れが考えられます。点検、交換を行ってください。ヒューズについてはスバル販売店にご相談ください。

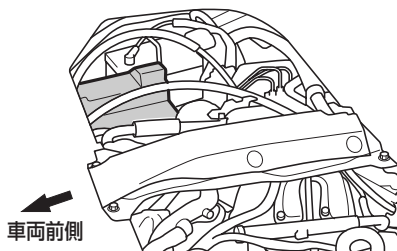
ヒューズの位置

○インストルメント パネル ヒューズ ボックス

運転席右下のインストルメント パネルの裏に設置されています。



○エンジン ルーム ヒューズ ボックス



ヒューズ ボックス

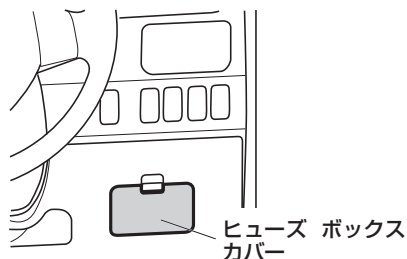
ヒューズ ボックスのラベルに各ヒューズのアンペア数と受け持つ装置の名称を表示しています。

ヒューズは、ラベル表示にしたがって交換してください。

▼ラベル位置

○インストルメント パネル ヒューズ ボックス

ヒューズ ボックス カバーの裏側に表示されています。



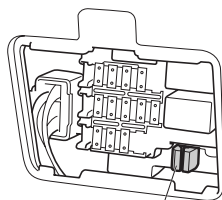
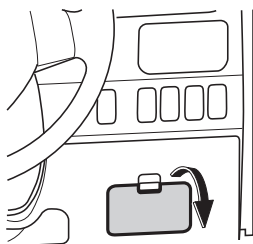
○エンジン ルーム ヒューズ ボックス
ヒューズ ボックスのカバーに表示されています。



ヒューズの点検と交換

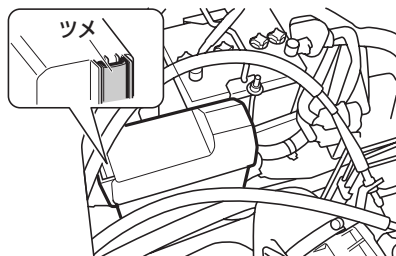
1. エンジン スイッチを“LOCK”の位置にします。
2. カバーを外します。

▼インストルメント パネル ヒューズ ボックス
突起物を押さえながら矢印の方向に動かし、ヒューズ ボックスのカバーを外します。

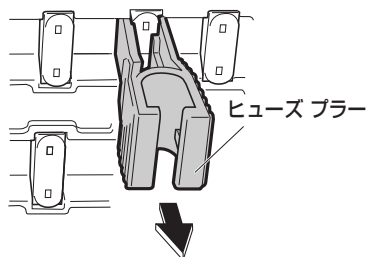


ヒューズ プラー

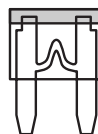
▼エンジン ルーム ヒューズ ボックス
カバー横のツメを押しながら、カバーを外します。



3. 備え付けのヒューズ プラーを使用して、ヒューズを挟んで外します。



4. 取り外したヒューズを点検し、切れている場合は、規定容量のヒューズと交換してください。ヒューズが切れていないときはほかに原因が考えられます。スバル販売店で点検を受けてください。



(正常)



(切れているとき)

⚠注意

- 交換してもすぐに切れてしまうときは、スバル販売店で点検を受けてください。
- 規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱、損傷し、火災につながるおそれがあり危険です。

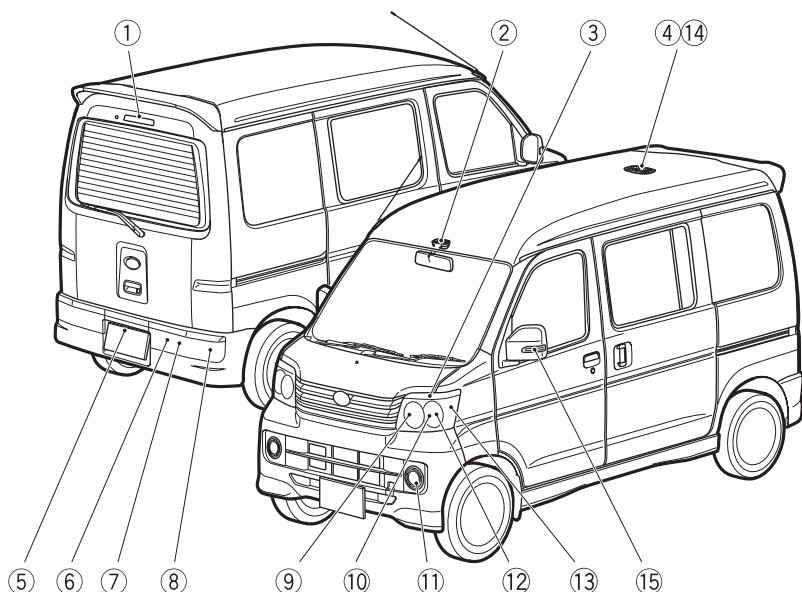


電球（バルブ）交換

ヒューズが切れていないにも関わらず、ランプが点灯しないときは、電球切れが考えられますので、電球を点検し、切れている場合は電球を交換してください。

- 電球の交換作業に不慣れな方や、部品などの破損が心配な場合は、スバル販売店にご相談ください。
- 電球の交換作業をするときに必要な工具は、カー用品店などでご購入することができます。

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。





電球 (バルブ)		W(ワット) 数
①	ハイマウント ストップ ランプ	16
②	ルーム ランプ (フロント)	8
③	前面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯	21
④	ルーム ランプ (センター)	8
⑤	番号灯	5
⑥	後退灯	16
⑦	後面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯	21
⑧	制動灯 / 尾灯	21 / 5
⑨	前照灯 / ロー ビーム (ハロゲン ヘッド ランプ 装着車)	55
⑩	前照灯 / ハイ ビーム	60
⑪	フォグ ランプ	35
⑫	車幅灯	5
⑬	側面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯	5

⚠注意

- 電球は上記のワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、過熱による故障や車両火災の原因につながるおそれがあります。

下記の電球の交換は、スバル販売店にご相談ください。

- ⑨前照灯 / ロー ビーム (HIDランプ装着車)
- ⑭大型カーゴ ルーム ランプ (LED)
- ⑮側面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯 (LED)
(ドア ミラー ターン ランプ 装着車)



アドバイス

- HIDランプは、高電圧を使用しているため、お客さまご自身による電球の交換はできません。スバル販売店にご相談ください。

LEDランプについて

- LEDを使用しているランプは、LEDのみの交換をすることができません。点検・交換の際は、スバル販売店にご相談ください。



いざというときに いざというときの処置

交換の手順

⚠警告

- 電球を交換するときは、ランプを消灯させ電球が冷えている状態で行ってください。電球が熱い状態で、電球やその周辺を触ると、やけどをするおそれがあり危険です。
- 電球および電球固定具の取り付けが不完全な場合、発熱や発火、および水入りなどによる故障、レンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を修理、分解しないでください。感電による重大な傷害の原因となります。

HIDランプ装着車

- HIDランプのバルブ・コネクター・電源回路・光軸調整部分を分解したり、取り外したりしないでください。HIDランプは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いをすると、感電するおそれがあり危険です。
ランプを交換・修理・廃棄するときは、必ずスバル販売店にご相談ください。

⚠注意

- 同じバルブ色の電球以外は使用しないでください。道路運送車両の保安基準に適合しない場合があります。
- ⊖ドライバーなどを使用するときは、布などを巻いてください。クリップ、レンズなどに傷が付くおそれがあります。
- ランプ本体やレンズを取り外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- ネジなどでレンズを取り付けるときは、締めすぎないようにしてください。レンズを破損するおそれがあります。
- フォグランプなどに使用しているハロゲン電球は、ガラス球内部の圧力が高いため、落したり、物をぶついたり、傷を付けたりすると破損して、ガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。
また、電球のガラス部は、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。油脂が付着すると、発熱による早期電球切れを起こします。
- 電球を交換しても点灯しない場合は、電球切れ以外の理由が考えられます。スバル販売店で点検を受けてください。

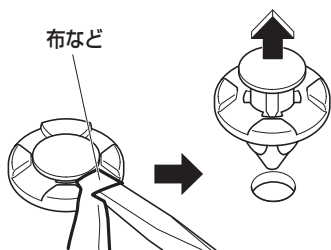


アドバイス

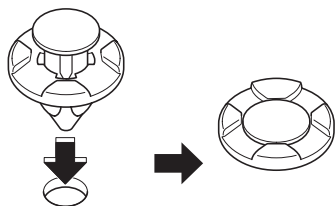
- ヘッド ランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、スバル販売店にご相談ください。

クリップの取り付け、取り外しについて

- クリップ タイプ[Ⓐ]
 - 取り外すときは、⊖ドライバーで中央部を浮かしたあと、クリップ全体を引っ張ります。

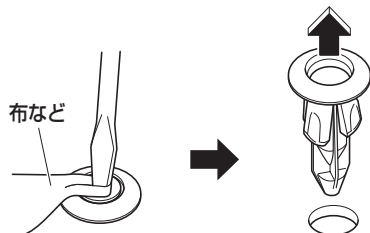


- 取り付けるときは、取り外した状態のまま差し込み、中央部を押し込みます。

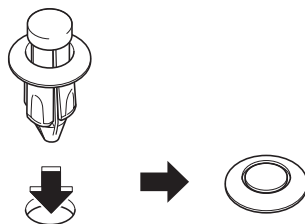


アドバイス

- クリップ タイプ[Ⓑ]
 - 取り外すときは、⊖ドライバーで中央部を押し込んだあと、クリップ全体を引っ張ります。



- 取り付けるときは、中央部を引き出したあと差し込み、中央部を押し込みます。





いざというときに いざというときの処置

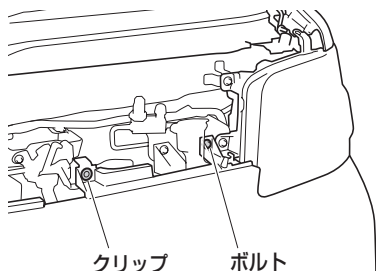
○ヘッド ランプ本体の取り外し、 取り付け

以下の電球を交換するときは、ヘッド ランプ本体を取り外します。

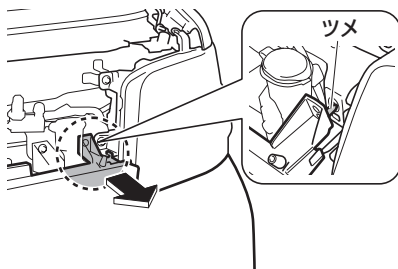
- 前照灯／ロー ビーム
(ハロゲン ヘッド ランプ装着車)
- 前照灯／ハイ ビーム
- 車幅灯
- 前面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯
- 側面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯

▼取り外し手順

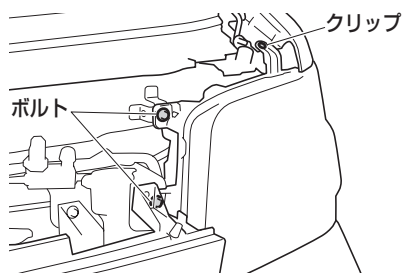
1. ボンネットを開けます。
2. フロント バンパーのクリップ (1 個) とボルト (1 本) を取り外します。



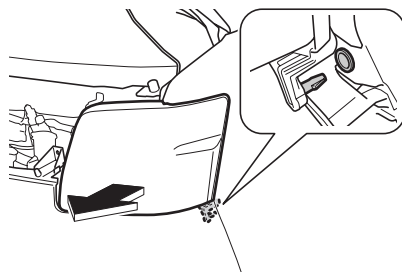
3. バンパーを車両前側に引いてツメを外し、上部を浮かせます。



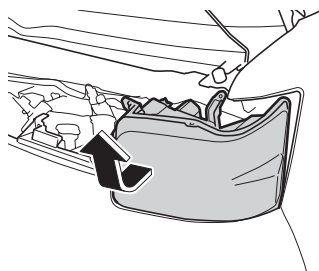
4. ヘッド ランプのクリップ (1 個) とボルト (2 本) を取り外します。



5. 車両前側にランプ本体を引いてツメを取り外します。



6. 車両からランプ本体を取り外します。



⚠注意

ランプ本体を取り外すときは

- バンパーやフェンダーに引っかからないように注意してください。
ランプ本体、および車両に傷が付くおそれがあります。



7. 交換する電球を取り外し、新しい電球と交換します。

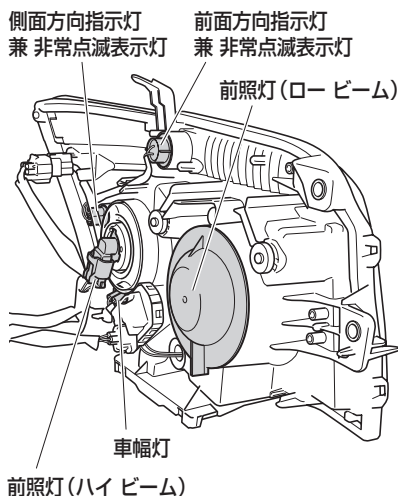
(前照灯／ロー ビーム (ハロゲン ヘッドランプ装着車) → 208 ページ)

(前照灯／ハイ ビーム → 209 ページ)

(車幅灯 → 209 ページ)

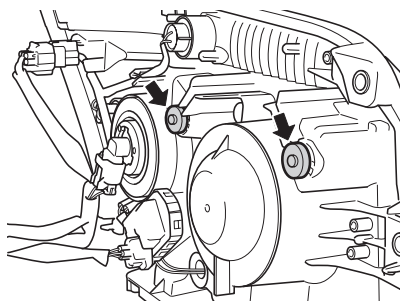
(前面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯 → 210 ページ)

(側面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯 → 210 ページ)



アドバイス

- ヘッド ランプの光軸がずれるおそれがあるため、光軸調整用のネジに触れないでください。



- 電球を交換したあとは、スバル販売店でヘッド ランプの光軸の点検を受けてください。

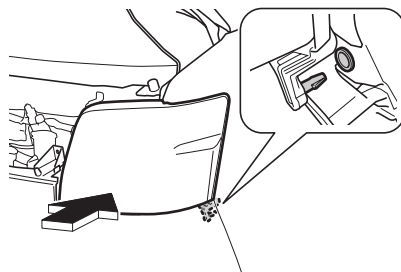
▼取り付け手順

逆の手順で行います。

⚠注意

ランプ本体を取り付けるときは

- ランプ本体のツメを車両側へ確実に差し込んでください。
ツメが差し込まれていない状態で取り付けると、ランプ本体、および車体が損傷するおそれがあります。





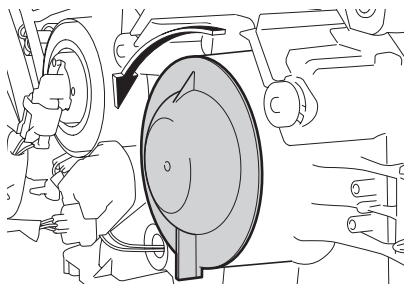
いざというときに いざというときの処置

○前照灯／ロー ビーム

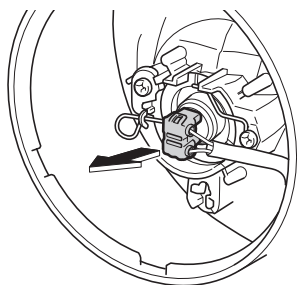
ハロゲン ヘッド ランプ装着車

▼取り外し手順

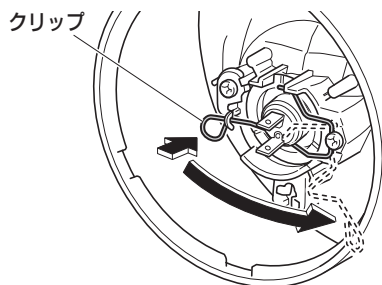
1. ヘッド ランプ本体を取り外します。
(ヘッド ランプ本体の取り外し、
取り付け→ 206 ページ)
2. カバーを回して外します。



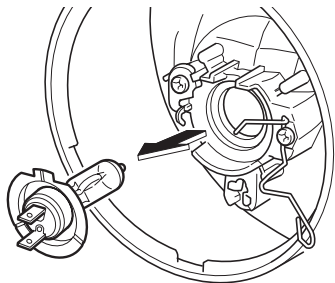
3. コネクターを引き抜きます。



4. クリップを矢印の方向に外します。

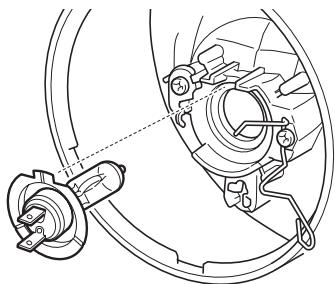


5. バルブを取り外します。



▼取り付け手順

1. バルブの突起部をヘッド ランプ本体の溝にはめ込みます。



2. クリップを確実にフックに取り付け、バルブを固定します。
3. コネクターを取り付けます。
4. カバーを取り付けます。
5. ヘッド ランプ本体を取り付けます。
(ヘッド ランプ本体の取り外し、
取り付け→ 206 ページ)



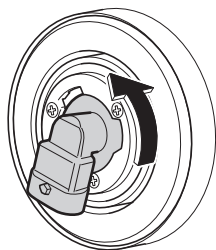
○前照灯/ハイ ビーム

▼取り外し手順

1. ヘッド ランプ本体を取り外します。
(ヘッド ランプ本体の取り外し、
取り付け→ 206 ページ)
2. コネクターのツメを押して、コネク
ターを取り外します。



3. バルブを回して取り外します。



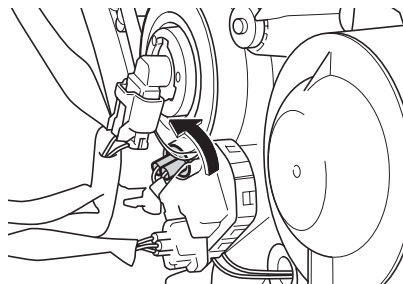
▼取り付け手順

逆の手順で行います。

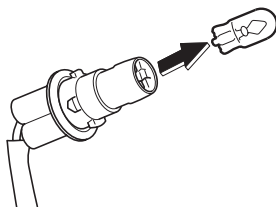
○車幅灯

▼取り外し手順

1. ヘッド ランプ本体を取り外します。
(ヘッド ランプ本体の取り外し、
取り付け→ 206 ページ)
2. ソケットを回して取り外します。



3. ソケットから電球を引き抜きます。



▼取り付け手順

逆の手順で行います。

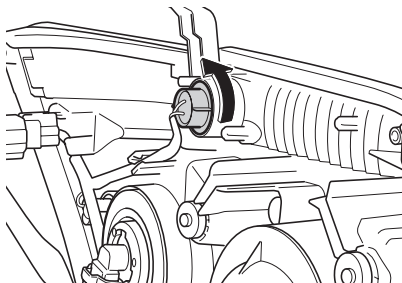


いざというときに いざというときの処置

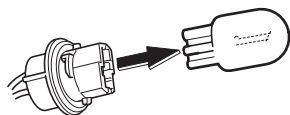
○ 前面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯

▼ 取り外し手順

1. ヘッド ランプ本体を取り外します。
(ヘッド ランプ本体の取り外し、
取り付け→ 206 ページ)
2. ソケットを回して取り外します。



3. ソケットから電球を引き抜きます。



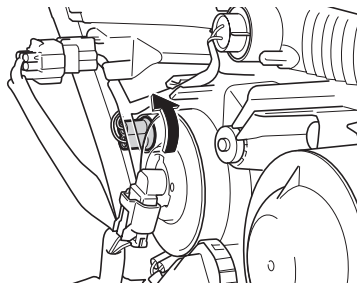
▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

○ 側面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯

▼ 取り外し手順

1. ヘッド ランプ本体を取り外します。
(ヘッド ランプ本体の取り外し、
取り付け→ 206 ページ)
2. ソケットを回して取り外します。



3. ソケットから電球を引き抜きます。



▼ 取り付け手順

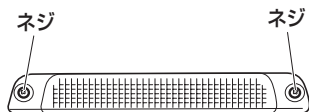
逆の手順で行います。



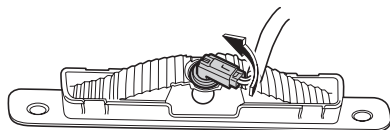
○ハイマウント ストップ ランプ

▼取り外し手順

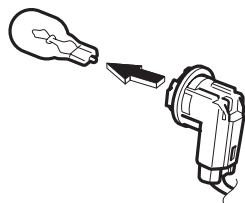
1. ネジ（2 本）を取り外して、ランプ
本体を取り外します。



2. ソケットを回して取り外します。



3. ソケットから電球を引き抜きます。



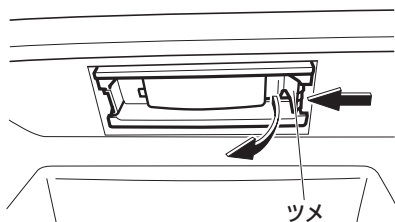
▼取り付け手順

逆の手順で行います。

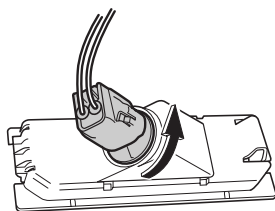
○番号灯

▼取り外し手順

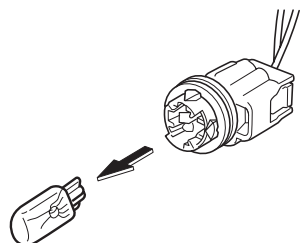
1. ツメを矢印の方向に押して、ランプ
本体を取り外します。



2. ソケットを回して取り外します。



3. ソケットから電球を引き抜きます。



▼取り付け手順

逆の手順で行います。

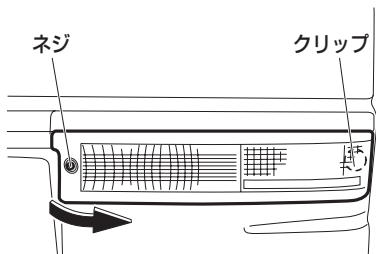


いざというときに いざというときの処置

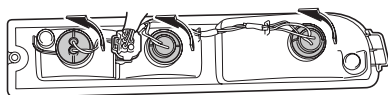
○後退灯、後面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯、制動灯／尾灯

▼取り外し手順

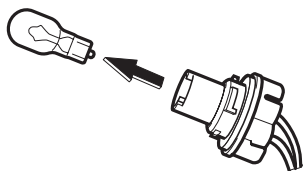
1. ネジ（1本）を取り外します。
2. 矢印の方向にランプ本体を引いて、クリップからランプ本体を外します。



3. 交換する電球のソケットを回して取り外します。



4. ソケットから電球を引き抜きます。



▼取り付け手順

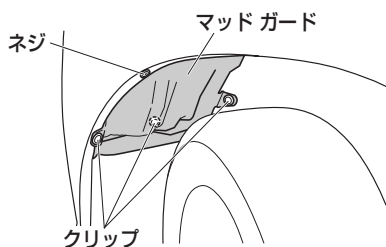
逆の手順で行います。

○フォグ ランプ

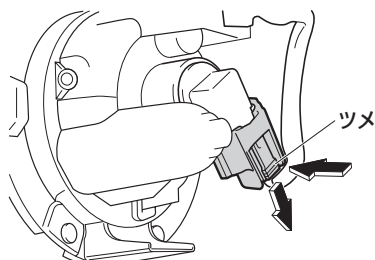
オプション/グレード別装備

▼取り外し手順

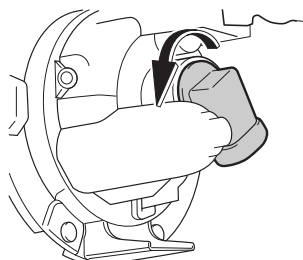
1. ハンドルを
右側の電球を交換する場合は左に、
左側の電球を交換する場合は右に、
いっぱいまで回します。
2. クリップ（3個）とネジ（1本）を取り外し、バンパーとマッド ガードの間に手が入るくらいマッド ガードをめくります。



3. コネクターのツメを押して、コネクターを取り外します。



4. バルブを回して取り外します。





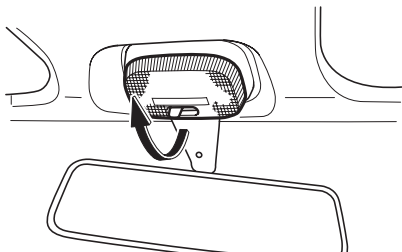
▼取り付け手順

逆の手順で行います。

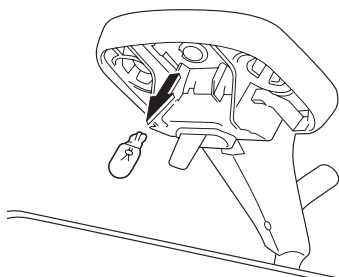
○ルーム ランプ（フロント）

▼取り外し手順

1. カバーを矢印の方向に引いて取り外します。



2. 電球を取り外します。



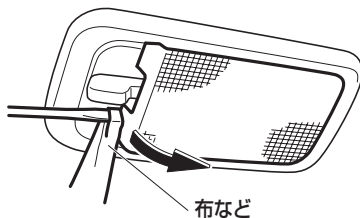
▼取り付け手順

逆の手順で行います。

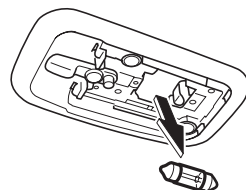
○ルーム ランプ（センター）

オプション/グレード別装備

1. ①ドライバーを差し込んで、カバーを取り外します。



2. 電球を取り外します。



▼取り付け手順

逆の手順で行います。



いざというときに いざというときの処置

キーを閉じ込めたとき

キーを閉じ込めたときは、JAFなどを呼んでください。

別冊の「スバル サービス ネットワーク」に記載されています。

▼キーをなくした場合

キー ナンバーを最寄りのスバル販売店にご連絡ください。



アドバイス

- キーの閉じ込みで困らないために下記の習慣を心がけてください。
- 日頃からキーを使ってロックしてください。
- バッグなどにスペア キーを入れておいてください。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、下記の手順で車両を停止させてください。

○緊急停止方法

1. ブレーキ ペダルを両足でしっかりと踏み続けます。

⚠警告

- ブレーキ ペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2. セレクト レバーをNレンジに入れます。

▼セレクト レバーがNレンジに入った場合

3. 減速後、車を安全な道路脇に停めて、エンジンを停止します。



▼セレクト レバーがNレンジに入らない場合

4. ブレーキ ペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。
5. エンジン スイッチを“ACC”の位置にして、エンジンを停止します。



6. 車を安全な道路脇に停めます。

⚠警告

走行中にやむを得ずエンジンを停止する ときは

- ブレーキの効きが悪くなりハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、可能な限り減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

事故が起きたとき

交通事故が起きたときはあわてずに下記の処置を取りましょう。

▼ 処置の方法

1. ただちに車を止めます。車を道のはしに停車し、昼夜問わず非常用表示板を立てるなどの必要な処置を行います。
2. 負傷者を救護します。人命救助が第一です。負傷者があれば救急車を呼んだり、最寄りの救急病院などへ運ぶなどして救護します。
3. 警察へ事故の報告をします。最寄りの警察署または派出所へ事故を報告して警察官の指示にします。この届出は法令で義務付けられています。
4. 相手方の確認とメモをします。氏名、住所、電話番号などをメモしておきます。
5. 購入した販売会社と保険会社へ連絡します。



MEMO



車のお手入れ

車の整備、お手入れの方法について
説明しています。

■ 車のお手入れ

エンジン ルーム -----	218
消耗品の補給、交換 -----	220
タイヤの点検 -----	223
室内のお手入れ -----	225
エアコンのお手入れ -----	226
ボディ、塗装面のお手入れ -----	226
ワイパーの交換 -----	228



車のお手入れ

車を安全、快適にご使用いただくには、日頃のお手入れが大切です。点検方法などは、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますので、参照してください。

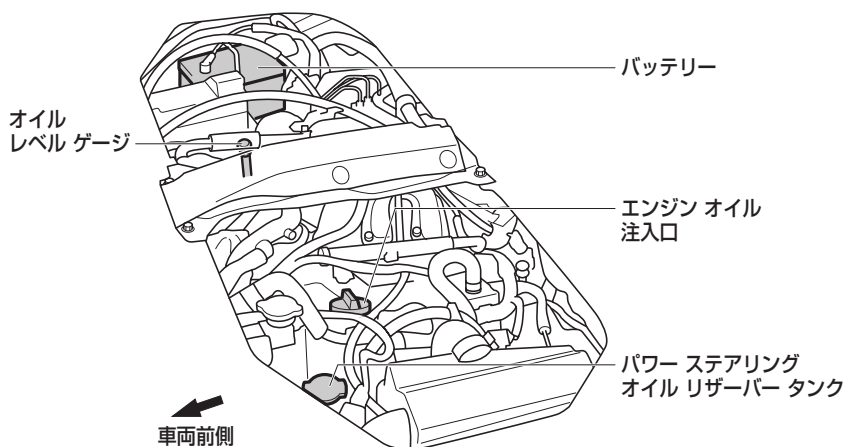
エンジン ルーム

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。

エンジン ルーム

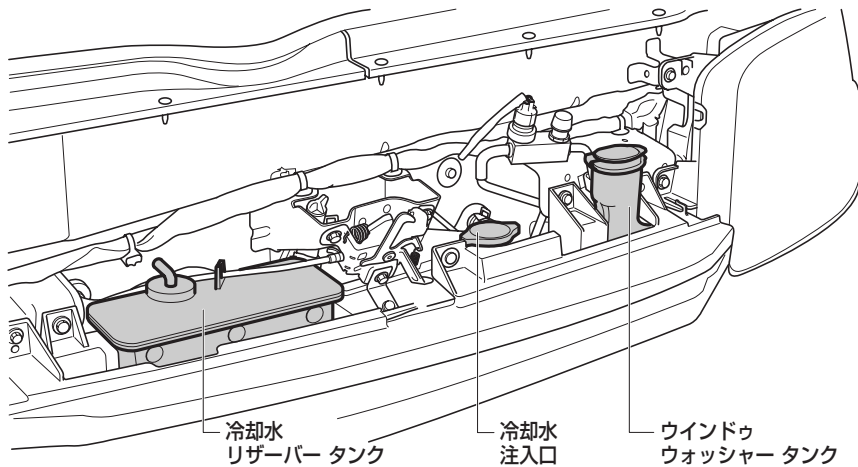
エンジン ルームは、フロント シート下にあります。

(エンジン ルームの開閉→ 103 ページ)





ボンネット



インストルメント パネル右側

インストルメント パネル右側のカバーを外すと、ブレーキ フルード リザーバー タンクがあります。

点検方法については、別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

▼カバーの外しかた

カバーの上側を矢印の方向に引きます。



⚠注意

- ブレーキ オイルがこぼれたときは、すぐに水で濡れたタオルなどでふき取ってください。ブレーキ オイルがこぼれた箇所が変色、変形するおそれがあります。



消耗品の補給、交換

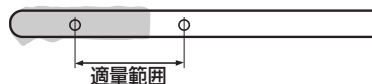
消耗品の補給、交換などは、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますので、参照してください。

⚠警告

- エンジン ルームは大変高温になっていることがあるため、下記のことをお守りください。
- やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
- 点検したあとは、エンジン ルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジン ルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- オイルを点検・交換するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。
オイルが付着したときは、ただちに拭き取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

エンジン オイル

エンジン オイルの量を定期的に点検してください。なお、高速走行を行う前には、必ず点検してください。



オイル レベル ゲージ

📖 アドバイス

- エンジン オイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをするはたらきがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸気、排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるためオイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
- 外気温が低いときに、エンジン オイル注入口の裏側や、オイル注入口にエンジン オイルが白いクリーム状になって付着していることがあります。これは、エンジン内部の水蒸気が冷却されて水滴になり、エンジン オイルと混ざることにより発生するもので、外気温の上昇、エンジンの暖機等で水分が蒸発すると解消します。
この現象によるエンジン オイルの変質はなく、そのまま使用しても、問題はありません。



冷却水

▼ 冷却水の点検について

冷却水リザーバー タンクのキャップに付いているレベル ゲージで行ってください。
詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

⚠警告

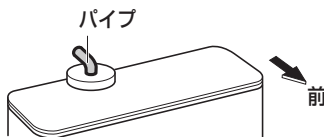
- 水温が高いときは、冷却水注入口を外さないでください。冷却水の圧力が冷却水注入口にかかっているため、蒸気や熱湯がふき出し、大変危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。ファンが回転するため、大変危険です。

⚠注意

- 冷却水リザーバー タンクに冷却水がないときは、冷却水リザーバー タンクおよびラジエーターに冷却水を補給したあと、エア抜きが必要になりますので、スバル販売店で点検を受けてください。

👉 アドバイス

- 点検後は、冷却水リザーバー タンクのキャップのパイプが車両後方に向くように、キャップを確実に取り付けてください。

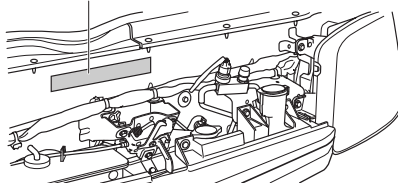


▼ 冷却水の交換について

⚠注意

- 冷却水の交換要領は、ボンネット奥に貼り付けてあるエンジン冷却水交換要領ラベルに記載しています。
- 冷却水の交換は、スバル販売店に依頼してください。

エンジン冷却水
交換要領ラベル





ウインドウ ウォッシャー液 の補給

ウォッシャー液の量を定期的に点検してください。ウォッシャー液が不足しているときは、スバル指定ウインドウ ウォッシャー液を補給します。

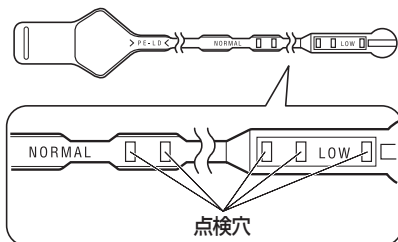
アドバイス

- ウインドウ ウォッシャー液はスバル指定品をおすすめします。ウォッシャー液の濃度の使い分けと注意事項はウォッシャー液の容器に記載されています。
- ウインドウ ウォッシャー タンクはフロント、リヤ兼用です。

▼ 点検のしかた

ウォッシャー タンクのキャップを外し、セットしてあるレベル ゲージを引き抜きます。

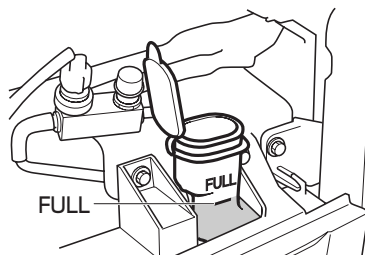
“NORMAL” ～ “LOW” の点検穴すべてに膜が張っているかを確認します。



アドバイス

点検穴すべてに膜が張っていない場合

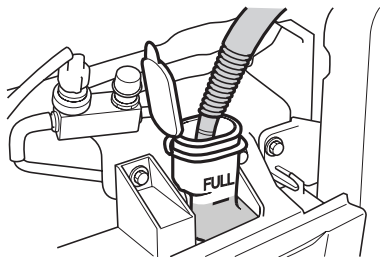
- ウォッシャー タンクの“FULL”までウォッシャー液を補給してください。





▼ 補給のしかた

ウォッシャー タンクのキャップを外し、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。



⚠ 警告

- エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときはウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみや目づまりになるおそれがあります。

👉 アドバイス

- ウォッシャー液をあふれるほど入れないでください。

タイヤの点検

タイヤ空気圧の点検

タイヤの空気圧の点検は、最低でも月に1回行ってください。

タイヤが冷えているときに、タイヤ ゲージで空気圧が規定値にあるかを点検してください。また、スペア タイヤの空気圧も点検してください。

空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

(サービス データ→ 243 ページ)

(タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています)

⚠ 警告

- 指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗や早期摩耗します。高速走行時にスタンディング ウェーブ現象*によりタイヤがバースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

👉 アドバイス

- タイヤが冷えているときとは、一般道路で走行距離が 1km以下の場合、または 3 時間以上駐車している状態のことをいいます。
- タイヤが暖まっているときは、タイヤの中の空気が膨張しているので、約 20 ~ 30kPa (0.2 ~ 0.3 {kgf/cm²}) 空気圧が高くなっています。この場合、誤って空気圧を下げないようにしてください。

* 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。





タイヤの亀裂、損傷

タイヤの側面や接地部全周に亀裂や損傷がないかを点検してください。

また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検してください。

⚠警告

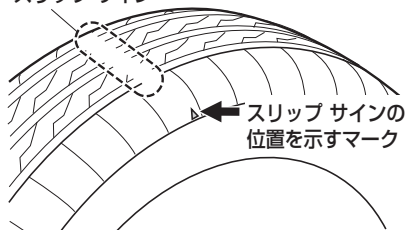
- タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。
- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じる場合があります。また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、タイヤが横滑りするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異常な振動を感じた場合は、スバル販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあります。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗

タイヤの溝の深さに不足がないかをスリップサイン（摩耗限度表示）により点検してください。

また、タイヤの接地面全周に極端にすり減っている箇所がないかを点検してください。

スリップサイン



⚠警告

- 摩耗限度を超えたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象*により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。摩耗限度を超えたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

* 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。



タイヤのローテーション

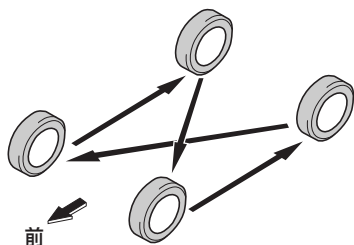
タイヤは同じ位置で長く走ると、それぞれ異なった減りかたをします。これを防ぐために、タイヤの位置をローテーションしてください。

ローテーションは 5,000km 走行ごとにやってください。

▼ローテーションのしかた

図の順にローテーションしてください。

(タイヤの交換→ 193 ページ)



⚠注意

- 応急用スペアタイヤはローテーション用タイヤとして使用しないでください。
- タイヤの空気圧を確認してください。
(タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています)

室内のお手入れ

ビニール、レザー、プラスチック、布材の汚れ落としには、中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませてお使いください。洗浄後、残った洗剤分は真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。室内側のウィンドウ ガラスも、こまめにふいておきましょう。汚れたままにしておくと、取れにくくなる場合があります。

⚠注意

- シートの下など見えにくい場所や狭い場所に手を入れるときは、けがをしないように十分注意してください。
- ベンジン、ガソリン、シンナーなどの有機溶剤は変色、しみなどの原因となるので使わないでください。
特にシート ベルトについては、必ず中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。中性洗剤以外を使用すると、ベルトが弱くなり万一のときに正常なはたらきをしないことがあります。
- 各スイッチの周辺にシリコン系のスプレーを使用しないでください。シリコンが内部の電気部品に付着し、故障の原因となります。
- 乾燥は直射日光をさけ、風通しが良く、ほこりの立たない日陰で行ってください。素材のいたみを早める原因となります。

🔧 アドバイス

- リヤ ウィンドウ ガラス内面を清掃するときは、電熱線を傷付けないでください。





エアコンのお手入れ

エアコン ガス

エアコン ガスは新冷媒 HFC134a (R134a) を使用しています。地球環境保全のため、大気放出しないでください。

アドバイス

- エアコン ガスの補充、エアコンの修理をする場合はスバル販売店にご相談ください。

ボディ、塗装面のお手入れ

塗装面など車体の外観を美しく保つために、洗車、ワックス掛けを月1回程度の割合で定期的に行ってください。また、長時間屋外で駐車するときは、ボディ カバーを付けるように心がけましょう。

車体にほこりや異物などを付けたままにしておきますと、塗装面の劣化や車体、部品の腐食を早めたり、化学変化による塗装面の変色やはん点の発生などの原因になります。

下記の場合は早めに洗車をしてください。

- 海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- ばい煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所に駐車したとき
- コール タール、花粉、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき
- ほこり、泥などで著しく汚れたとき

アドバイス

- 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは、特に車体の下回り、足回りを念入りに洗車してください。
- 塗装の飛石傷やかき傷は、腐食の原因となります。見つけたら早めにペイントで補修してください。
- 保管、駐車は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- お使いになる洗剤やワックスの説明をよく読んで、正しくお手入れを行ってください。



洗車

▼ 洗車の手順

1. 十分に水をかけながらスポンジまたはセーム皮のような柔らかい物で洗います。汚れのひどい箇所はカーシャンプー液または中性洗剤で洗い、水で完全に洗い落とします。
2. 水が乾かないうちにふき取ります。

⚠️ 注意

- 故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障の原因になります。
- 洗車後や水たまり走行後は低速でブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常にはたらくことを確認してください。効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。
- 高温の湯で洗車すると樹脂部品などが損傷するおそれがあります。
- 下回り足回りを洗うときは手をけがしないように注意してください。
- ランプのレンズ表面をワックス・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤でふいたり、硬いブラシでこすらないでください。レンズが破損したり、劣化を早めるおそれがあります。

👉 アドバイス

- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤を使用すると、車体の色によっては色落ちの原因になることがあります。

○ 自動洗車機を使用するとき

⚠️ 注意

- エアコン コントロール パネルの内外気切り替えスイッチで“内気循環”にしてください。車内に水が入り、故障の原因になります。
- ミラー・アンテナは格納して、前側から洗車してください。
- ときによりブラシの傷が付き、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。

○ 高圧洗車機を使用するとき

⚠️ 注意

- ドア ガラスやドア周りなどの開閉部分に洗車ノズルを向けると、車内に水が入ることがあります。

ワックスがけ

月に一回程度または水をはじかなくなったときに行ってください。

▼ ワックスをかける前に

塗装面の汚れを水洗いし、水分を十分にふき取ってから日陰または車体表面が体温以下になっているときに行ってください。ワックスはスバル指定カーワックスをおすすめします。

👉 アドバイス

- 塗装されていない樹脂部品にワックスを使用しないでください。ワックスが付着すると、白くなったりムラになることがあります。
- 研磨剤（コンパウンド）入りのワックスを使用すると、車体の色によっては色落ちの原因になることがあります。



樹脂部分のお手入れ

樹脂塗装部品（バンパーなど）にガソリン、オイル、冷却水、バッテリー液などが付着すると、しみの発生やツヤ落ち、塗膜がはがれる原因となります。十分に水洗いをしたあとただちに柔らかい布でふき取ってください。

アドバイス

- 樹脂塗装部品の傷の補修をする場合は、スバル販売店にご相談ください。不適当な塗料を使用すると塗膜をいためます。

アルミ ホイールのお手入れ

オプション/グレード別装備

アルミ ホイールはボディの洗車と同じ要領で行い、ボディと同じワックスでワックス掛けをしてください。

注意

- アルミ ホイールにワックス掛けをする際は、ホイール ナットの座面にワックスを付着させないように注意してください。必要以上に締め付けられ、ボルトが破損するおそれがあります。

ワイパーの交換

注意

- ワイパー ブレード、ラバーはスバル指定品をおすすめします。スバル指定以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- 傷んだワイパー ブレード ラバーを使用し続けると、ウインドウ ガラスを傷付けるおそれがあります。拭きむらがある場合は、早めに交換してください。
- フロント ワイパー アームを起こすときは、必ず運転席側のワイパー アームから起こしてください。また、もとに戻すときは助手席側のワイパー アームから戻してください。
- ワイパー ブレード、ラバーを取り外したときは、ワイパー アームを倒さないでください。ウインドウ ガラスやボンネットに傷が付くおそれがあります。
- 起こしたワイパー アームを戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。離れた位置から戻すと、ワイパー アームが変形したり、ウインドウ ガラスに傷が付くおそれがあります。
- 確実に取り付けられていることを確認してからワイパーを作動させてください。ウインドウ ガラスに傷が付くおそれがあります。

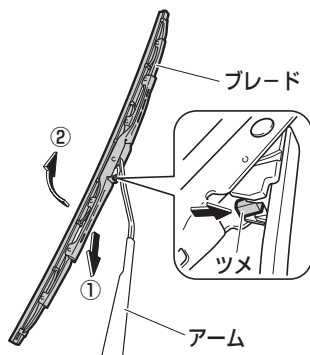


フロント ワイパー

○ワイパー ブレード

▼取り外しかた

1. アームを起こします。
2. ブレードをツメが見える角度まで傾けます。
3. ツメを押しながら、ブレードを矢印①の方向に引いたあと、矢印②の方向に抜き取ります。



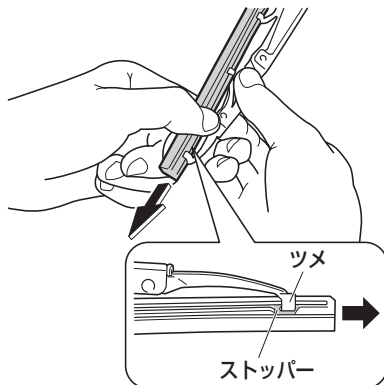
▼取り付けかた

- ブレードをアームに取り付けます。
- ブレードとアームが確実に固定されていることを確認してください。

○ワイパー ブレード ラバー

▼取り外しかた

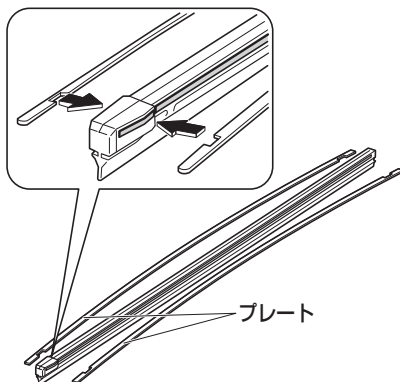
1. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引きます。



2. そのままラバーをブレードから引き抜きます。

▼取り付けかた

1. ラバーからプレートを取り外します。
2. ラバーを取り替えます。
3. プレートの反りの向きに注意して、プレートをラバーに差し込みます。





車のお手入れ 車のお手入れ

4. ストッパーがない側からラバーをブレードに挿入します。
5. 取り付けたとき、ストッパーのある側が運転席側になるようにしてください。

⚠注意

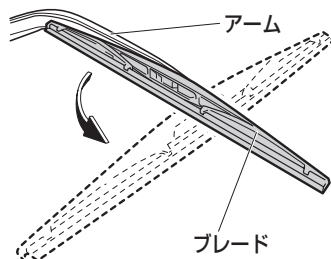
- ラバーのストッパーにブレードのツメを確実に挿入してください。ウィンドウガラスに傷が付くおそれがあります。

リヤ ワイパー

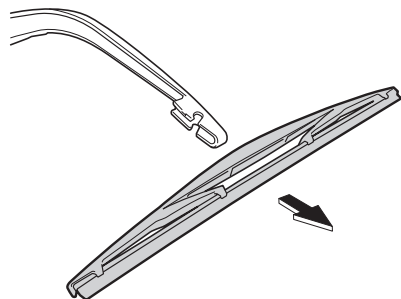
○ワイパー ブレード

▼取り外しかた

1. アームを起こします。
2. ブレードを矢印の方向に回し、アームと垂直にします。



3. ブレードを矢印の方向に引いて、アームからブレードを引き抜きます。



▼取り付けかた

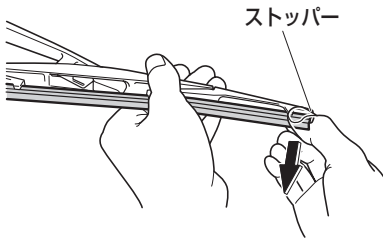
逆の手順で行います。



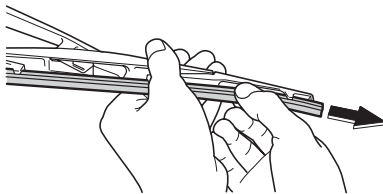
○ワイパー ブレード ラバー

▼取り外しかた

1. ラバーを手前に引いて、ブレードの先端部のストッパーから取り外します。

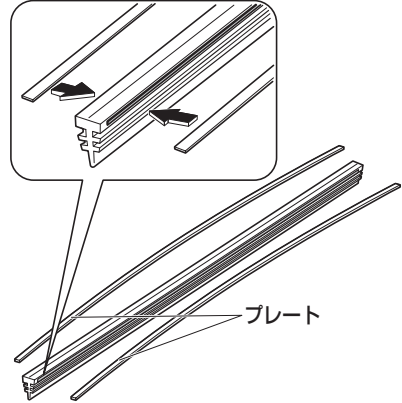


2. ラバーをブレードから引き抜きます。



▼取り付けかた

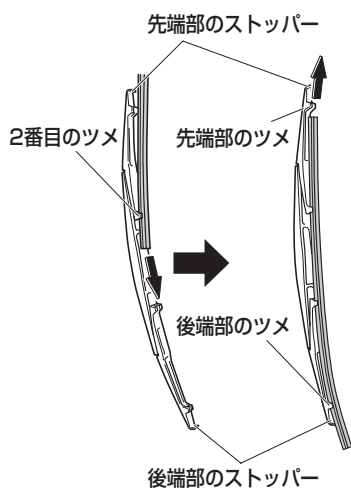
1. ラバーからプレートを取り外します。
2. ラバーを取り替えます。
3. プレートの反りの向きに注意して、プレートをラバーに差し込みます。





車のお手入れ 車のお手入れ

4. ブレードの先端部の 2 番目のツメからラバーを挿入します。
5. ブレードの後端部のツメにラバーを通し、さらにラバーを挿入して、後端部のストッパーを通過させます。
6. 先端部のツメにラバーを通し、先端部のストッパーまで挿入します。
7. 後端部のツメにラバーが確実に挿入されていることを確認してください。



⚠注意

- ラバーにブレードのツメを確実に挿入してください。ウィンドウ ガラスに傷が付くおそれがあります。

MEMO



積雪、寒冷時の取り扱い

積雪時、寒冷時に必要となる
運転知識について説明しています。

■ 積雪、寒冷時の取り扱い

冬に向かってのお手入れ-----	236
走行前点検と準備-----	237
積雪、寒冷時の走行-----	238
走行中の点検と注意-----	239
走行後の取り扱い-----	240



積雪、寒冷時の取り扱い

冬に向かってのお手入れ

点検方法などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下しエンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

エンジン オイル

冬期はオイルの劣化が激しくなります。指定グレードのエンジン オイルを、早めに交換してください。

冷却水

冷却水の凍結を防ぐためにクーラント（不凍液）の濃度の確認をスバル販売店に依頼してください。

ウインドウ ウォッシャー液

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

寒冷地用ワイパー ブレード

降雪期に使用する寒冷地用ワイパー ブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。

寒冷地用ワイパー ブレードは、お車のサイズに合ったスバル純正部品をご使用ください。

⚠注意

- 高速走行時は、通常のワイパー ブレードよりウインドウ ガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合は速度を落として走行してください。



走行前点検と準備

走行前点検の際に下記の点検も行ってください。

足回りなどの着氷

車の下回りをのぞいて、足回りなどに氷塊が付着していないか確認してください。付着している氷塊は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうかも確認してください。

車体への積雪

屋根に積もった雪は、走行する前に取り除いてください。走行時、ガラス面に落下すると視界のさまたげとなり危険です。

△注意

- 氷結している部分を無理に取り除くと塗装などをいためる場合がありますので注意してください。

ドアの凍結

ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとドア周りのゴムがはがれたり、破損するおそれがあります。ぬるま湯をかけて氷をとかしてください。開けたあとは水分をよくふき取ってください。不十分ですとまた凍結することがあります。

ウィンドウ ガラスの凍結

凍結しているときは、ぬるま湯をかけて氷をとかし、水分をよくふき取ってください。

△注意

- 氷をとかすときはぬるま湯を使用し、熱湯はかけないでください。ウィンドウ ガラスが割れるおそれがあります。
- フロント ウィンドウ ガラスに付いた氷を取り除くために、氷をたたいて割らないでください。フロント ウィンドウ ガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

ワイパーなどの凍結

ワイパー、ドア ミラー、ドア ガラスなどが凍ったり、雪が固まって動かないときは、ぬるま湯をかけて氷や雪をとかし、水分をふき取ってください。

△注意

- 凍結したまま、または雪が固まったままワイパー、ドア ミラー、ドア ガラスなどを無理に作動させると、ワイパー ゴムを損傷したり、モーターなどが故障するおそれがあります。

乗車時の注意

靴にこびりついた雪は、乗車時によく落としてください。ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。また、床面などが加湿状態となり、腐食の原因となります。



積雪、寒冷時の取り扱い 積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の走行

雪道、凍結路を走るときはタイヤ チェーンまたは冬用タイヤ（スタッドレス タイヤ）を装着してください。

⚠注意

- 積雪時は、スピードを控えめにしてください。路面が凍結している可能性が高く、大変スリップしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
チェーン装着車、冬用タイヤ（スタッドレス タイヤ）装着車、またAWD車、ABS装着車であっても慎重な運転をしてください。

タイヤ チェーンの装着

後輪駆動車ですので、チェーンは後ろ 2 輪に装着します。AWD車も後ろ 2 輪に装着します。

タイヤ チェーンは、タイヤ サイズに合った物を使用してください。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

▼ 指定タイヤ サイズおよびチェーンの種別

タイヤサイズ	タイヤ チェーンの種別	
165/65R13	スバル純正チェーン	使用可能
	市販JISチェーン（金属）	使用不可

⚠注意

- タイヤ チェーンは車のタイヤのサイズに合った、スバル指定品または指定サイズの物を使用してください。サイズの合わないチェーンを使用すると、ブレーキ配管や車体を破損し、危険です。

⚠注意

- 金属チェーンを使用すると車体に干渉して異音発生や傷付きによる錆が発生することがあります。
- タイヤ チェーンの取り付けは各タイヤ チェーン付属の取扱説明書にしたがって行ってください。
- タイヤ チェーン装着時は 30km/h以上で走行しないでください。タイヤ チェーンにかかる負担が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。
- 取り付け作業は雪上などをさけ交通のさまたげにならない安全で平らな場所で行ってください。必ず駐車ブレーキをかけ、非常点滅表示灯を点滅させ、人や荷物は降ろし、停止表示板も使用してください。
- 作業をするときは、車体端部などがをしないように注意してください。
- 応急用スペア タイヤには標準タイヤ用のタイヤ チェーンは装着できません。後輪がパンクした場合は、応急用スペア タイヤを前輪に装着し、外した前輪タイヤを後輪に取り付け、これに標準タイヤ用タイヤ チェーンを装着してください。

📖 アドバイス

- タイヤ チェーンを装着するとホイール キャップやアルミ ホイールに傷が付くおそれがあります。ホイール キャップ装着車はホイール キャップを取り外した状態で、タイヤ チェーンを装着してください。



冬用タイヤ (スタッドレス タイヤ) の装着

△注意

- 冬用タイヤ (スタッドレス タイヤ) は必ず標準タイヤと同じ指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッド パターン (溝模様) の物を装着してください。
- タイヤの空気圧を確認してください。
(タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています)
- 地方により条例の違いがありますので、その地区の条例にしたがってください。

走行中の点検と注意

ブレーキの凍結

積雪、寒冷時ではブレーキ装置に付着した水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。その際には、前後の車に十分注意して、ブレーキ ペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキ パッドのしめりを乾かしてください。

△注意

- 万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

雪道、凍結路の注意

△注意

- 雪道や凍結路では、急加速、急減速、急ブレーキ、急ハンドルをさけてください。スリップして方向性を失い事故につながるおそれがあります。

走行中の雪の付着

雪道走行時、タイヤ ハウス裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなることがあります。ときどき異常のないことを確認してください。ランプ類などは、走行中に雪のために暗くなることがあるので、ときどき異常のないことを確認してください。



積雪、寒冷時の取り扱い 積雪、寒冷時の取り扱い

パンク時の対応

タイヤ チェーン装着時、後輪がパンクした場合は、応急用スペア タイヤを前輪に装着し、外した前輪タイヤを後輪に取り付け、これにタイヤ チェーンを装着してください。

応急用スペア タイヤにはタイヤ チェーンは装着できません。

走行後の取り扱い

駐車方法

屋外に駐車するときは、車の前部を風下や日の当たる方向に向けて止めてください。

エンジンが冷えすぎると、始動しにくくなることがあります。

また、ワイパー アームは起こしてください。雪の重みでワイパー アームが変形したり、ブレード部（ゴムの部分）が、ガラスに凍結したりすることがあります。

△注意

- 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。
- フロント ワイパー アームを起こすときは、必ず運転席側のワイパー アームから起こしてください。また、もとに戻すときは助手席側のワイパー アームから戻してください。



アドバイス

- 寒冷時は駐車ブレーキをかけるとブレーキ装置が凍結して駐車ブレーキが解除できなくなるおそれがありますので使用しないでください。セレクト レバーをPレンジに入れておきましょう。
- 軒下や樹木の下での駐車はさけてください。落雪で車体を損傷するおそれがあります。
- 降雪時に長時間駐車するときは、アンテナを収納してください。

(アンテナ→ 169 ページ)

洗車方法

凍結防止剤をまいた道路を走行したときは、早めに下回りと足回りを洗車してください。放置すると腐食の原因となります。洗車後は凍結防止のため水分をよくふき取ってください。

アドバイス

- ドアのキー挿入口やドア周りのゴム部の水分は特によくふき取ってください。

格納方法

長時間使わないで屋外に放置しておくときは、塗装面の保護とドア周りの凍結を防ぐために、ボディ カバーを使用してください。

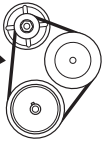
△注意

- エンジンの冷えすぎを防ぐために毛布でおおったり、フロント グリルに段ボールや、新聞紙を挟み込まないでください。これがもとで燃え出す危険があります。

MEMO

サービス データ

サービス データ

項 目		サービス データ	
点火プラグ	プラグ型式	NGK	デンソー
		ILKR7D8 (イリジウム プラグ)	SXU22HPR8 (イリジウム プラグ)
ファン ベルト	たわみ量(mm) 押力98N{10kgf}時	7.4～9.0 (点検時) 点検位置 → 	
パワー ステアリング ベルト	たわみ量(mm) 押力98N{10kgf}時	12.6～18.3 (点検時)	
アイドリング回転数 (rpm)		850	
ブレーキ ペダル	遊び (mm)	0.5～2	
	床板とのすき間 (mm) (踏力294N{30kgf}時)	84.3以上	
駐車ブレーキ	踏みしろ (踏力294N{30kgf}時)	8～10 ノッチ	
バッテリー		44B20L	
フューエル タンク	容量 (ℓ) (無鉛ガソリン使用)	40	
ウオッシャー タンク	容量 (ℓ)	2.0	

項 目			サービス データ
エンジン オイル	使用オイルと交換時期		• SUBARU MOTOR OIL SN 5W-30 • SUBARU MOTOR OIL SM 5W-30 • アミックス モーター オイルSAE5W-30 (API分類SM以上) 6か月ごとまたは、5,000kmごと (2,500kmごと*) のどちらか早い方
	交換量 (ℓ)	オイル交換時	約3.2
		オイルとオイルフィルター (オイルクリーナー) 交換時	約3.4
オイルフィルター (オイルクリーナー)	交換時期		10,000kmごと (5,000kmごと*)
トランスミッション オイル	交換時期		100,000kmごと
	使用オイル		アミックス ATF D3-SP
	交換量 (ℓ)	2WD	約1.2 (ドレイン) 、約4.3 (全容量)
		AWD	約1.0 (ドレイン) 、約4.1 (全容量)
トランスファ オイル	交換時期		100,000kmごと
	使用オイル		アミックス トランスミッション ギヤ オイル SAE75Wまたは75W-80 (API分類GL-4)
	交換量 (ℓ)		約1.6
デファレンシャル オイル	交換時期		30,000kmごと または2年ごと (初回は3年)
	使用オイル		アミックス デファレンシャル ハイポイド ギヤ オイル SAE80W-90 (API分類GL-5)
	交換量 (ℓ)	フロント	約0.5
		リヤ	約1.1
ブレーキ オイル	交換時期		2年ごと (初回は3年)
	使用オイル		アミックス ブレーキ フルード (DOT3相当)
エアクリーナーエレメント	交換時期		40,000kmごと (20,000kmごと*)
パワー ステアリングオイル	使用オイル		アミックス パワー ステアリング フルード
冷却水	交換時期		2年ごと (初回は3年)
	使用液		アミックス ロング ライフ クーラント (高防錆力タイプ)
	規定濃度 (%)		50
	全容量 (ℓ) (除くりザーバータンク)		5.8

* シビア コンディション条件での定期交換の場合
 シビア コンディション条件とは、走行距離大 (20,000km以上/年) や短距離走行の繰り返し (8km以下/回) または外気温が氷点下での繰り返し走行が多い場合などに適用します。
 詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

タイヤ サイズ	タイヤ空気圧 (空車時: kPa[kgf/cm ²])		タイヤの溝の 深さ (mm)	タイヤ位置 交換時期
	前 輪	後 輪		
165/65R13	190{1.9}	250{2.5}	1.6以上	5,000kmごと
T115/70 D14 (応急用タイヤ)	420{4.2}			——



アドバイス

- 標準装着タイヤ、装着可能なタイヤのサイズと空気圧は、車種・グレードにより異なりますので、運転席ドアを開けたボディ側に貼ってある「タイヤ空気圧」のラベルをご覧ください。

MEMO

さくいん

ア

アーム レスト	
フロント シート -----	40
リヤ シート -----	43
アイドリング回転数 -----	244
アウター (ドア) ミラー -----	113
アシスト グリップ -----	177
足踏み式駐車ブレーキ -----	140
アンチロック ブレーキ システム (ABS) -----	72
アンテナ -----	169

イ

ELRシート ベルト -----	51
イージー クローザー機構 -----	88
EBD -----	72
イグニッション (エンジン)	
スイッチ -----	139
イグニッション キー -----	76
ISO FIX対応ISO FIX固定バー &テザー アンカー -----	61
インジケーター ランプ (表示灯) -----	122
インター ロック -----	139
インナー (ルーム) ミラー -----	113

ウ

ウインカー (方向指示) レバー -----	134
ウインドウ ウォッシャー液の 補給 -----	222
ウインドウ ガラス (パワー ウインドウ) -----	109
ウインドウ デフォッガー スイッチ -----	137
ウインドウ反転機構 -----	112
ウォーニング ランプ (警告灯) ----	124
ウォッシャー スイッチ -----	135
ウォッシャー タンクの容量 -----	244
運転席SRSエアバッグ -----	65

エ

エア クリーナー エLEMENTの	
データ-----	245
エアコン	
オート エアコン-----	160
リヤ ヒーター -----	168
エアコン ガス-----	226
エアバッグ-----	65
AWD車-----	141
A/T（オートマチック）車-----	146
オートマチック トランスミッション	
警告灯-----	127
ABS -----	72
SRSエアバッグ -----	65
LLC（冷却水）のデータ-----	245
エンジン オイルのデータ-----	245
エンジン オイル レベル ゲージ ----	220
エンジン回転計	
（タコ メーター） -----	120
エンジン キー -----	76
エンジン警告灯-----	124
エンジン スイッチ -----	139
エンジン フード（ボンネット） ----	101
エンジン ルーム	
エンジン ルーム-----	218
エンジン ルームの開閉-----	103

オ

オイルの交換量 -----	245
オイル プレッシャー警告灯-----	124
応急用スペア タイヤ-----	190
大型カーゴ ルーム ランプ	
(LED) -----	170
オート エアコン-----	160
オート（パワー）ウインドウ -----	109
オートマチック車-----	146
オート レベライザー警告灯-----	129
オーバー ドライブ（O/D）OFF	
表示灯-----	123
オーバー ドライブ スイッチ -----	150
オーバー ヒート -----	199
オープナー	
フューエル リッド-----	108
ボンネット -----	102
オド メーター（積算距離計） -----	121
オルタネーター（ファン）ベルトの	
点検基準値-----	244
温度調節センサー-----	168

カ

カーゴ ソケット-----	172
カード ホルダー-----	174
鍵（キー） -----	76
カップ ホルダー-----	176
可変ロード リミッター機構付	
シート ベルト -----	52
間欠ワイパー（ワイパー・	
ウオッシャー スイッチ） -----	135

キ

キー	76
キー インター ロック	139
キー（エンジン）スイッチ	139
キー閉じ込み防止機能	84
キー抜き忘れ警告ブザー	96
給油口（フューエル リッド）	106
緊急停止するには	214

ク

空気圧	246
空調	160
クーラー（エアコン）	160
クーラント（冷却水）のデータ	245
区間距離計 （トリップ メーター）	121
曇り取り フロント	167
リヤ	137
クラクション（ホーン） スイッチ	138
クリーナー（オイル フィルター）の データ	245
グローブ ボックス	175

ケ

警告器（ホーン）スイッチ	138
計器（メーター）	118
警告灯	124
警告ブザー キー抜き忘れ警告ブザー	96
ランプ消し忘れ警告ブザー	132
警報（盗難警報装置）の停止方法	82
けん引	187

コ

工具	180
光軸調整ダイヤル	133
高水温警告灯	126
後席（リヤ シート）	41
固定バー	61
コンビネーション スイッチ	130
コンビネーション メーター	118

サ

サービス データ	243
サイド（駐車）ブレーキ	140
サイド（ドア）ミラー	113
3点式ELRシート ベルト	51
サン バイザー	173

シ

シート	
フロント	39
リヤ	41
シート ベルト	48
シート ベルト警告灯	127
シガー ライター	172
室内照明	170
シフト（セレクト）レバー	147
シフト ロック装置	147
車載工具	180
ジャッキの使いかた	182
車両を緊急停止するには	214
集中ドア ロック	95
充電（チャージ）警告灯	125
使用オイル	245
乗降用グリップ	177
照度調整	121
照明	170
助手席SRSエアバッグ	65

ス

水温警告灯	126
水温表示灯	123
スイッチ	130
スターター コントロール システム	144
スタック（立ち往生）したとき	185
スノー（タイヤ）チェーン	238
スパーク（点火）プラグの型式	244
スピード メーター	120
スペア タイヤ	190
スライド調整	
フロント シート	39
リヤ シート	41
スライド ドア	85

セ

積算距離計（オド メーター）	----- 121
セキュリティ表示灯	----- 123
セレクト インジケータ	----- 123
セレクト レバー	----- 147
洗車	----- 227
前照灯（ヘッド ランプ）の 切り替え	----- 131
前席（フロント シート）	----- 39

ソ

速度計（スピード メーター）	----- 120
ソフト フラット シート	----- 47

タ

ターボ車	----- 141
ターン シグナル インジケータ （方向指示器表示灯）	----- 122
ターン シグナル（方向指示） レバー	----- 134
タイヤ チェーン	----- 238
タイヤの交換	----- 193
タイヤのデータ	----- 246
タイヤのローテーション	----- 225
タコ メーター	----- 120
暖房（エアコン） オート エアコン	----- 160
リヤ ヒーター	----- 168

チ

チェーン	----- 238
チェック エンジン警告灯	----- 124
チェンジ（セレクト）レバー	----- 147
チケットホルダー	----- 174
チャージ警告灯	----- 125
チャイルド シート	----- 53
チャイルド シート固定バー	----- 61
チャイルド シートの選びかた	----- 55
チャイルド シートの固定の しかた	----- 60
チャイルド シートの種類	----- 54
チャイルド プルーフ	----- 95
駐車ブレーキ	----- 140
駐車ブレーキの点検基準値	----- 244

ツ

ツール（工具）	----- 180
---------	-----------

テ

低水温表示灯	123
ディスク ホイール (タイヤ) の 交換	193
ディスク ホイール (タイヤ) の データ	246
ディスチャージ ヘッド ランプ	132
テザー アンカー	61
デファレンシヤル オイルの データ	245
デフォッガー スイッチ	137
デフロスター (曇り取り) フロント	167
リヤ	137
デュアルSRSエアバッグ	65
点火プラグの型式	244
電球の交換	202
点検整備項目 (サービス データ)	243
電動格納式 (ドア) ミラー	113
電動スライド ドア	89
電波式リモコン ドア ロック	77

ト

ドア	83
ドア (パワー) ウインドウ	109
ドア ミラー	113
ドア ロック	95
盗難警報装置	80
盗難警報装置の警報の停止方法	82
トランスファ オイルのデータ	245
トランスミッション オイルの データ	245
トリップ メーター (区間距離計)	121

ナ

内気センサー	168
--------	-----

ニ

日射センサー	168
--------	-----

ネ

燃料給油口 (フューエル リッド)	106
燃料計	120
燃料残量警告灯	128
燃料 (フューエル) タンクの 容量	244

ハ

パーキング（駐車）ブレーキ -----	140
パーキング（駐車）ブレーキの 点検基準値-----	244
灰皿-----	173
ハイビーム/パッシング表示灯 -----	122
ハザード インジケーター （非常点滅表示灯）-----	122
ハザード（非常点滅表示灯） スイッチ-----	134
挟み込み防止機構 （パワー スライド ドア）-----	94
発炎筒-----	186
バック（ルーム）ミラー-----	113
パッシング （ヘッド ランプの切り替え）-----	131
バッテリーあがり-----	197
バッテリーあがり防止機能-----	171
バッテリーの型式-----	244
バニティー ミラ-----	174
バルブ（電球）の交換-----	202
パワー ウインドウ-----	109
パワー ステアリング オイルの データ-----	245
パワー ステアリング ベルトの 点検基準値-----	244
パワー スライド ドア-----	89
パンク-----	190

ヒ

ヒーター（エアコン） オート エアコン-----	160
リヤ ヒーター-----	168
非常点滅表示灯スイッチ-----	134
非常点滅表示灯-----	122
ヒューズ ボックス-----	200
表示灯-----	122

フ

ファン ベルトの点検基準値	----- 244
V (ファン) ベルトの点検基準値	---- 244
フィルターのデータ	----- 245
フォグ ランプ スイッチ	----- 137
フォグ ランプ表示灯	----- 122
フット (足踏式駐車) ブレーキ	----- 140
不凍液 (冷却水) のデータ	----- 245
フューエル ウォーニング (燃料残量警告灯)	----- 128
フューエル タンクの容量	----- 244
フューエル メーター (燃料計)	---- 120
フューエル リッド	----- 106
冬用タイヤ	----- 239
プラグの型式	----- 244
プリテンショナー& 可変ロード リミッター機構付	
シート ベルト	----- 52
フル タイムAWD車	----- 142
ブレーキ (ABS)	----- 72
ブレーキ オイルのデータ	----- 245
ブレーキ警告灯	----- 125
ブレーキ ペダルの点検基準値	----- 244
ブレード (ワイパー) の交換	----- 228
フロント シート	----- 39
フロント シート ベルト	----- 51
フロント ドア	----- 83
フロント フォグ ランプ スイッチ	----- 137
フロント ワイパー・ウォッシャー スイッチ	----- 135

へ

ヘッド ランプの切り替え	----- 131
ヘッド レストの調整	----- 40
ヘッド レストの取り外し	----- 43
ベルトの点検基準値	----- 244

ホ

ホイール (タイヤ) の交換	----- 193
ホイール (タイヤ) のデータ	----- 246
方向指示器表示灯	----- 122
方向指示レバー	----- 134
ホーン スイッチ	----- 138
補給口 (フューエル リッド)	----- 106
ポジション表示灯 (セレクト インジケーター)	----- 123
ボンネット	----- 101

マ

窓ガラス (パワー ウィンドウ)	---- 109
------------------	----------

ミ

ミラー	
ドア ミラー	----- 113
ルーム ミラー	----- 113

メ

メーター-----	118
メンテナンス データ （サービス データ）-----	243

ユ

油圧（オイル プレSSHャー） 警告灯-----	124
-----------------------------	-----

ヨ

4速オートマチック トランスミッション-----	148
-----------------------------	-----

ラ

ライティング スイッチ-----	131
ライティング スイッチ表示灯-----	122
ラジエーター液（冷却水）の データ-----	245
ラバー（ワイパー）の交換-----	228
ランプ消し忘れ警告ブザー-----	132

リ

リクライニング調整 フロント シート-----	39
リヤ シート-----	42
リモコン スイッチ-----	77
リヤ ウィンドウ デフォッガー スイッチ-----	137
リヤ ゲート-----	96
リヤ シート-----	41
リヤ シート アンダー ボックス----	176
リヤ シート ベルト-----	51
リヤ デファレンシャル オイルの データ-----	245
リヤ ドア-----	85
リヤ ヒーター-----	168
リヤ ワイパー・ウォッシャー スイッチ-----	136

ル

ルーム ミラー-----	113
ルーム ランプ-----	170

レ

冷却水のデータ-----	245
冷房（エアコン）-----	160
レベリング警告灯-----	129
レベリング スイッチ-----	133

ロ

ローテーション-----	225
ロー ビーム・オート レベリング 警告灯-----	129

ワ

ワイパー・ウォッシャー スイッチ-----	135
ワイパーの交換-----	228
ワイヤレス ドア ロック （電波式リモコン ドア ロック）----	77
W数（電球）-----	202

3

3点式ELRシート ベルト-----	51
--------------------	----

4

4速オートマチック トランスミッション-----	148
-----------------------------	-----

A

ABS ----- 72
ABS警告灯 ----- 128
A/C（エアコン） ----- 160
A/T（オートマチック）車 ----- 146
AWD車 ----- 141

E

EBD ----- 72
ELRシート ベルト ----- 51

H

HIDランプ ----- 132

I

ISO FIX対応ISO FIX固定バー
&テザー アンカー ----- 61

L

LLC（冷却水）のデータ ----- 245

O

O/D OFF表示灯 ----- 123
O/D（オーバー ドライブ）
スイッチ ----- 150

S

SRSエアバッグ ----- 65
SRSエアバッグ警告灯 ----- 71
SRSエアバッグ コンピューター ----- 71

V

V（ファン）ベルトの点検基準値 --- 244

W

W数（電球） ----- 202

● 次の商標はダイハツ工業株式会社の登録商標です。
当社は使用許諾に基づき使用しております。

- アミックス
- AMMIX

軽自動車を廃車したときは

自動車検査証返納の手続きが必要になりますので、軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

返納に必要な書類など（**A**は一時使用中止時、**B**は解体返納時に必要です）

- A** 自動車検査証返納証明書交付申請書・自動車検査証返納届出書
- B** 解体届出書
- A B** 自動車検査証
- A B** 車両番号標（ない場合は「車両番号標未処分理由書」）
- A B** 軽自動車税申告書
- A B** 印鑑

A 一時使用中止時

7番窓口

ナンバー頒布



6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



2番窓口

申請書類の確認



3番窓口

検査手数料収納



2番窓口

申請書類の確認

B 解体返納時

7番窓口

ナンバー頒布



6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



2番窓口

申請書類の確認



5番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※ 上記の順序は一般的な例です。

使用者・所有者・使用者の住所を変更したときは

検査証記載事項変更の手続きが必要になりますので、使用中の本拠位置を管轄する軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

申請に必要な書類など（**㊦**は使用者・所有者を変更した場合、**㊧**は引っ越しなどにより、使用者の住所を変更した場合に必要です）

㊦ 自動車検査証記入申請書

㊦ 自動車検査証

㊦ 使用者の住所を証する書面（印鑑証明書、または住民票抄本などで発行後3ヶ月以内のもの）

㊦ 自動車損害賠償責任保険証明書、または自動車損害賠償責任共済証明書（使用者が変わった場合に必要です）

㊦ 車両番号標（同じ管轄であれば変更する必要がありません）

㊦ 軽自動車税申告書・自動車取得税申告書

㊧ 軽自動車税申告書

㊦ 印鑑

㊦（ナンバー変更あり）

2番窓口

申請書類の確認



7番窓口

ナンバー頒布



5番窓口

申請書の受付、および検査証交付



6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



7番窓口

ナンバー頒布

㊦（ナンバー変更なし）

2番窓口

申請書類の確認



6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



5番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※ 上記の順序は一般的な例です。

ご意見、ご感想、お問い合わせはお近くのスバル販売店
または弊社「SUBARUお客様センター」へお願いいたします。

＊お乗りのお車についてお電話などでお問い合わせをいただく際は、お客さまへ正確・迅速に対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証などをご準備いただきますようご協力をお願いしております。

①車検証記載事項

型式・車台番号・登録番号・登録年月日

②走行距離

③販売店・担当者名

SUBARU お客様センター

SUBARU コール  0120-052215

受付時間【平 日】 9:00～17:00
【土日祝】 9:00～12:00、13:00～17:00

※平日の12:00～13:00および土日祝は
(1)のインフォメーションサービスのみとなります。

SUBARU お客様センターでは下記の内容を承っております。
(1)ご意見/ご感想/ご案内(カタログ、販売店、転居手続き 他)
(2)お問合せ/ご相談

富士重工業株式会社
〒150-8554 東京都渋谷区恵比寿1-20-8 (エビススバルビル)

禁複製・転載

編集・発行

富士重工業株式会社

スバルカスタマーセンター